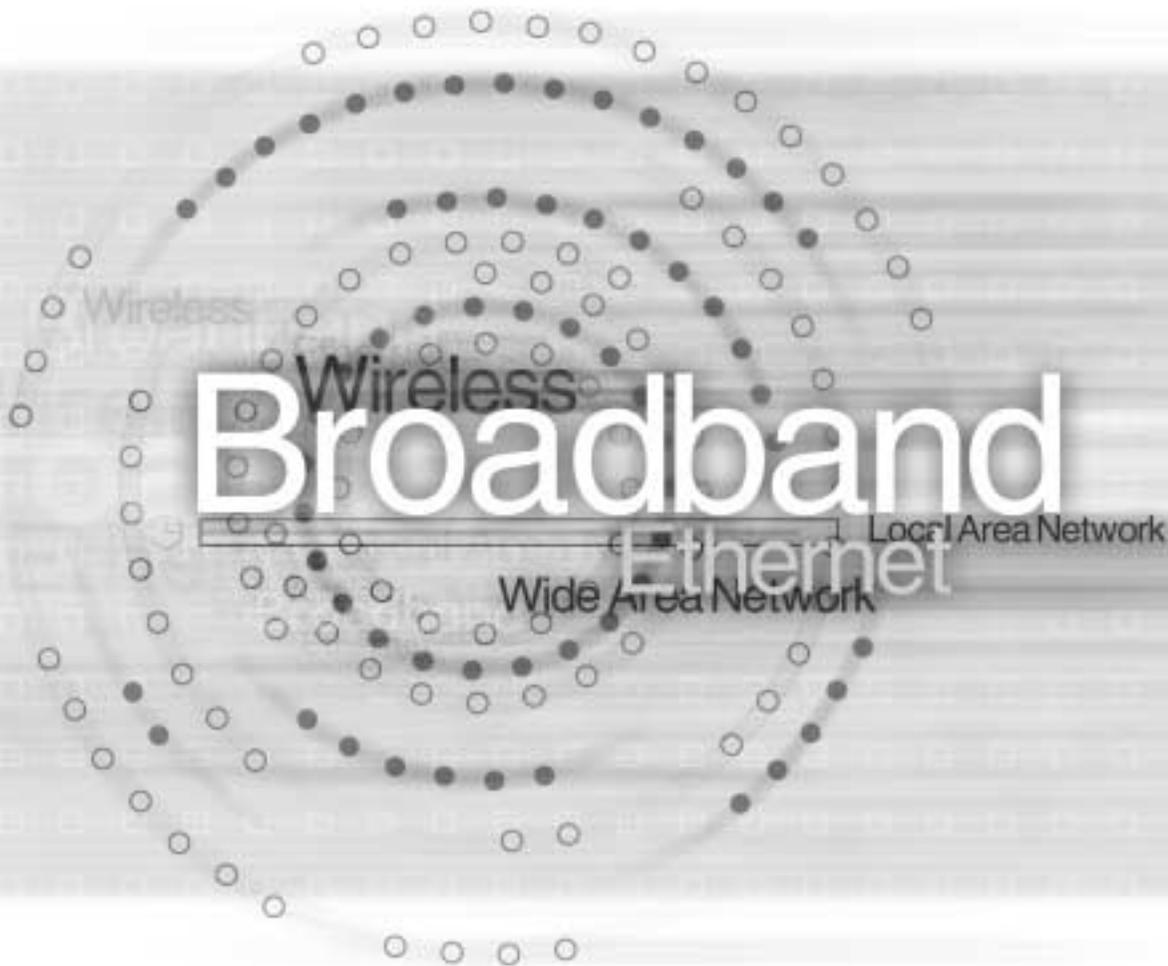
NTT-ME

取扱説明書

MN7530

ADSLモデム内蔵無線ルータ

特　長

1. 8Mbps／1.5Mbps 対応 ADSL モデム内蔵※1

最大 8Mbps の ITU-T G.992.1(G.dmt) Annex C 方式と、最大 1.5Mbps の ITU-T G.992.2(G.lite) Annex C 方式に対応。※2

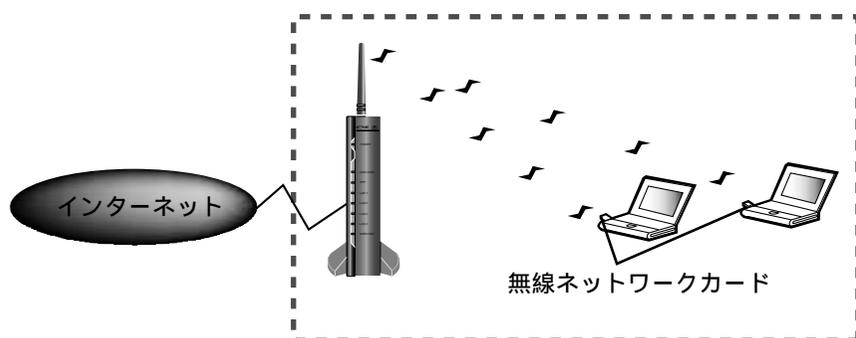
2. 10/100Mbps対応WAN ポート搭載、WANポートには全二重／半二重の自動認識機能、ストレート／クロスケーブルの自動認識機能を搭載

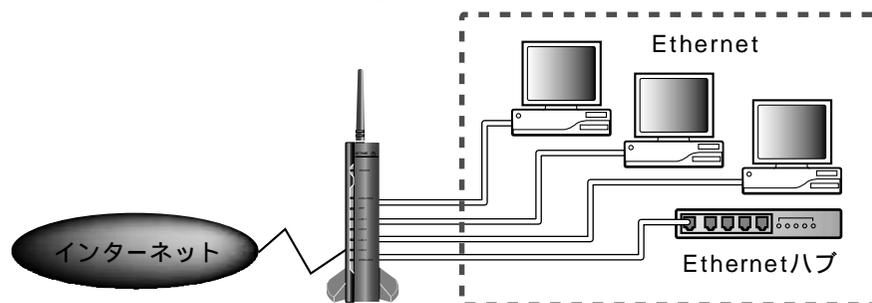
ADSL モデムを切り離して無線ブロードバンドルータとして利用できます。

3. 余裕のスループット8Mbps

8MbpsADSL利用時はもちろん、WANポート利用時も高速インターネット。

4. 11Mbps 対応無線機能搭載※3

IEEE802.11b 準拠の無線アクセスポイント機能内蔵。

5. 10/100Mbps対応4 ポートスイッチングハブ内蔵、さらに全二重／半二重の自動認識機能、ストレート／クロスケーブルの自動認識機能を搭載

10Base-T/100Base-TX 対応の LANポートを 4つ搭載しています。

6. PPPoE/PPPoA/IPoA/モデム（ブリッジ）機能

多くの ADSL 事業者が採用している接続方式である「PPPoE」,「PPPoA」、「IPoA」に対応しています。また、ルータ機能をカットするブリッジ機能に対応し、ADSL モデムとして利用できます。モデム（ブリッジ）機能を利用して、Windows Messengerやネットワークゲームなどを利用できます。

※1 ADSL はベストエフォート型のサービスですので常に一定の通信速度を保証するものではありません。設置場所やご利用になる環境などによって通信速度が変動します。

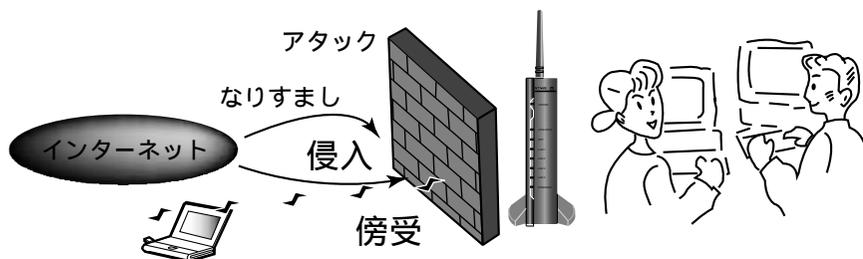
※2 最大 8 Mbpsの Annex C G.dmt サービス、最大1.5 MbpsのAnnex C G.lite サービスのいずれのサービスが提供されるかは、プロバイダとの契約内容によって異なります。

※3 無線部の通信速度は最大 11Mbps です。データ転送の速度とは異なります。データ転送速度はご使用の環境に依存します。

7. LAN型（グローバルIPアドレス8/16個）接続対応

複数のグローバルIP アドレスを取得してLAN内で利用する接続形態に対応します。また、通信回線側にIPアドレスを付与しない、アンナンバード方式の接続形態にも対応します。

8. 多彩なセキュリティ機能搭載

「IPフィルタリング」、「アドレス変換機能」、「IPマスカレード」、「アクセス制限」などのルータとしてのセキュリティ機能及び「WEP 40(64)/128bit」、「SSID」、「無線端末限定機能」などの無線としてのセキュリティ機能を搭載しています。

9. セッション・キープ・アライブ機能

接続が異常切断した場合でも、自動的に回線の接続性を回復するセッション・キープ・アライブ機能を搭載しています。

10.シンプルWebブラウザ設定

設定は、WWWブラウザの設定画面に入力するだけの簡単設定です。

【商標／登録商標について】

- Netscape、Netscape Navigator は、米国およびその他の諸国のNetscape Communications Corporation社の登録商標です。
- Ethernet は、富士ゼロックス社の登録商標です。
- Mac、Macintosh、MacTCP は、米国アップルコンピューター社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT および NetMeeting は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

【略称について】

- Windows® 95の正式名称は、Microsoft® Windows® 95 Operating Systemです。（以下Windows 95）
- Windows® 98の正式名称は、Microsoft® Windows® 98 Operating Systemです。（以下Windows 98）
- Windows® Meの正式名称は、Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating Systemです。（以下Windows Me）
- Windows® 2000の正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 Professional またはMicrosoft® Windows® 2000 Serverです。（以下Windows 2000）
- Windows XPの正式名称は、Microsoft® Windows XP Professional またはMicrosoft® Windows XP Home Editionです。（以下Windows XP）
- Windows NT、Windows NT 4.0の正式名称は、Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 および Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0 です。（以下Windows NT 4.0）
- Microsoft Corporation のガイドラインにしたがって画面写真を使用しています。
- 本書ではMN7530のLANジャックに接続しているネットワークやMN7530に接続している無線LANをホームネットワークと呼んでいます。
- 本書ではADSLモデム、またはCATV モデムのことをモデムと呼んでいます。

目　次

ご使用の前に

インターネットへの接続

ここをお読みいただき、接続や設定をおこなうとインターネットに接続できます。

MN7530 の各機能

MN7530 の各機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

MN7530 の各機能

MN7530 の各機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

その他

MN7530 を使いこなすのに必要な事柄を説明しています。

困った時は

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

AC アダプターのコードやプラグを破損しないでください。

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしないでください。

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

AC アダプターのプラグのほこりなどは定期的にとってください。

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

AC アダプターをコンセントから抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で AC アダプターの抜き差しはしないでください。

感電の原因になります。

AC アダプターのプラグは根元まで確実に差し込んでください。

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100V 以外での使用はしないでください。

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

専用の AC アダプター（極性統一形プラグ）以外は使わないでください。

専用以外の AC アダプターを使用すると、電圧や＋－の極性が異なっていることがあるため、発煙・火災のおそれがあります。

AC アダプターを抜き差しするときは本体（金属でない部分）を持ってください。

感電の原因になります。

心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離してください。

電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くには設置しないでください。

本製品からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

⚠警告

医用電気機器の近くでの設置や使用をしないでください。

［手術室、集中治療室、CCU※等には持ち込まないでください。］

本製品からの電波が、医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

※ CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

本製品や、ACアダプターをぬらさないでください。

近くに花びん、コップなどを置かないでください。

発火・感電の原因になります。

ぬらした場合は、ACアダプターを抜いて技術サポートセンターへご連絡ください。

本製品やACアダプターから煙・異臭・異音が出たり、落下などにより破損したときは使用を中止してください。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

ACアダプターを抜いて技術サポートセンターへご連絡ください。

本製品内部や、ジャックにクリップやピンなどの金属物や異物を入れないでください。

火災・感電の原因になります。

本製品を分解したり、修理・改造をしないでください。

故障したり、火災・感電の原因になります。

落下させたり、強い衝撃を加えないでください。

故障やけがの原因になることがあります。

雷が鳴ったら本製品や ACアダプターに触れないでください。

感電の原因になります。
落雷などのおそれがある時は、必ずACアダプターをコンセントから抜き、電話線ケーブルをADSL LINEジャックから抜いて、ご使用を控えてください。場合によっては感電や故障のおそれがあります。

⚠ 注意

水平でない場所や振動の激しい場所には設置しないでください。 落下により、けがの原因になることがあります。	**火気を近づけないでください。** 火災の原因になることがあります。
ケーブルは防水仕様になっていないので、水をかけたりしないでください。 故障や感電の原因になることがあります。	**水、湿気、ほこり、油煙等の多い場所（調理台や加湿器のそばなど）に設置しないでください。** 故障や感電・ショートの原因になることがあります。
通気孔をふさぐような設置はしないでください。 熱がこもり、火災や故障の原因になります。	**ケーブルを曲げたり落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。** 故障・変形・破損や感電の原因になることがあります。
ケーブルを引っぱったり、コネクタ部に無理な力を加えないでください。 損傷や感電の原因になることがあります。	**本製品同士、またはモデムなどその他の通信機器を重ねて設置しないでください。** 本製品が変形したり、火災や故障の原因になります。

正しくお使いいただくために

使用・設置場所について

■長時間直射日光の当たるところや、冷・暖房器の近くなどに設置しないでください
（変形・変色または故障・誤動作の原因になります。）

■本製品は、涼しくて湿気が少なく、なるべく温度が一定の場所に設置してください
推奨温度：10℃～30℃
推奨湿度：45%～85%

ご使用について

■ジャックに触れないでください
（故障の原因になります。）

■隣接して使用しているラジオやテレビから2m以上離してください
また、同一コンセントでご使用の場合は、コンセントを別にしてください
（ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。）

日頃のお手入れについて

■ベンジンやシンナー、研磨剤などを使って本製品を拭かないでください
柔らかい乾いた布をお使いください
（本製品が変形・変色することがあります。）

■長時間使用しないときや、お手入れするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください
（漏電・感電の原因になることがあります。）

- 本製品は日本国内用です。国外での使用に対するサービスは致しかねます。
  This product is designed for use in Japan.
  NTT-ME cannot provide service for this product if used outside Japan.
- 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、あるいは停電、落雷などの外的要因によって、通信などの機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は責任を負えない場合もございますのであらかじめご了承ください。
- 通信内容の漏洩による経済的・精神的損害につきましては、当社は責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品は、プロバイダから付与されるインターネットアクセスアカウント１つで、複数端末からのインターネットアクセスを実現する機能を搭載しています。ただし、プロバイダによってはインターネットにアクセス可能な端末台数を制限、あるいは台数によって別途追加料金を設定している場合があります。本製品をインターネットアクセスに用いる際は、ご契約プロバイダとの約款の範囲内でのご利用をお願いいたします。
- 本書の記載内容の一部、または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書の記載内容およびハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
  取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

無線通信の使用範囲について

■本機と無線端末の距離が屋内距離約50cm～30mの範囲でお使いください

（周囲の環境によっては、使用範囲が狭くなります。）

■次のような場所でのご使用は避けてください

（電波が混信したり、誤動作の原因になります。）

- 特定無線局や移動通信体のある屋内
- 電子レンジの近く
- 盗難防止装置など 2.4GHz 周波数帯域を利用している装置のある屋内

■本機と無線端末の間に次のような物質があるときは設置場所を変更したり、仕切りを取り払うなどしてください

（電波を通しにくい物質が周囲にあると通信ができなかったり通信速度が遅くなる場合があります。）

- 鉄のドア
- スチール棚や仕切り
- コンクリート、石、レンガなどの壁
- 防火ガラス
- アパートなどの上階と下階

電波に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

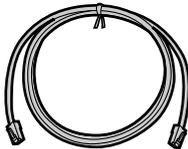
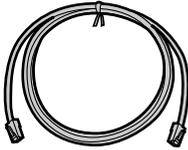
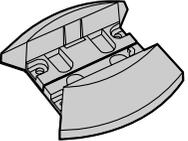
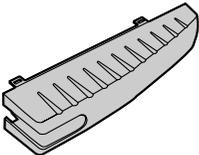
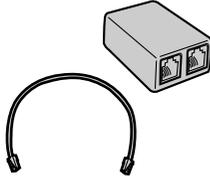
2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止した上、技術サポートセンター（☞ 136 ページ）にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。

3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときには、技術サポートセンター（☞ 136ページ）へお問い合わせください。

付属品

ご使用いただく前に、次の付属品・添付品がそろっているか確認してください。

万一、不足の品がありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または技術サポートセンターまでご連絡ください。

付属品		
□ ACアダプター........................1個 （☞ 29ページ）	□ カテゴリー5ケーブル（ストレート）1.8m..............................1本 （☞ 26、27、28ページ）	□ 電話線ケーブル1.8m...........1本 （☞ 24、25ページ）
□ スタンド................................1組 （☞ 12、112ページ）	□ バックカバー........................1個 （☞ 13、30ページ）	□ ADSLスプリッタ..................1個 （☞ 24ページ）

添付品
□ 取扱説明書（本書）..1冊
□ 保証書..1式
□ 対応／認定ADSL事業者別のインターネット接続設定方法シート..1枚

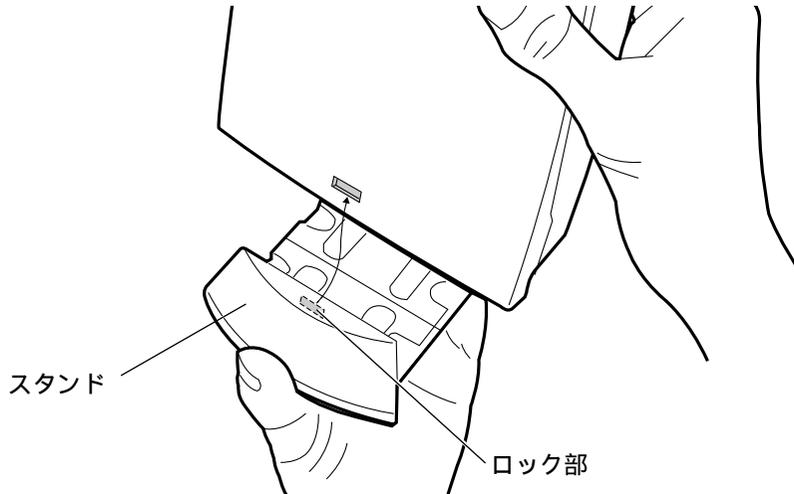
【推奨パソコン環境】

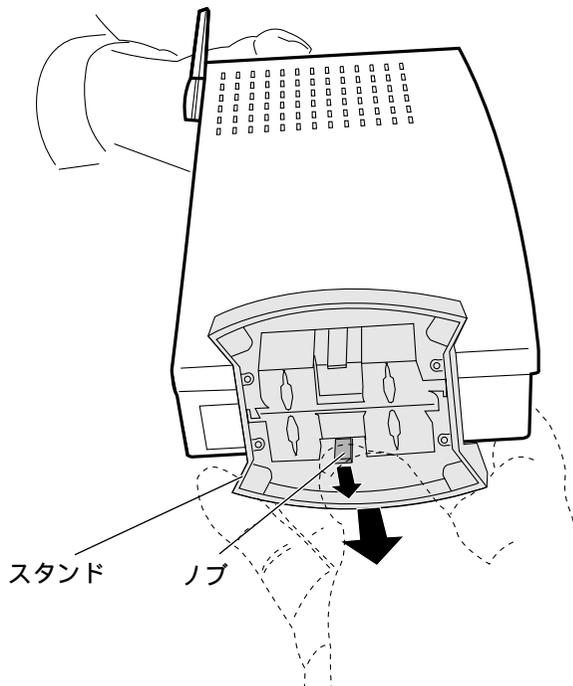
MN7530の設置には、下記のパソコンやソフトウェアを準備してください。

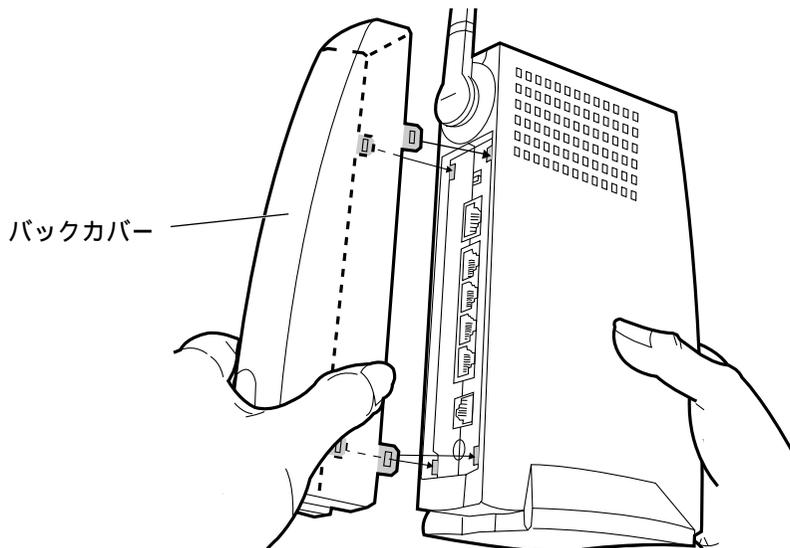
	Windows パソコン	Macintoshパソコン
インタフェース	Ethernet インタフェース Ethernet ケーブル	Ethernetインタフェース Ethernetケーブル
メモリー	16MB以上	16MB以上
プロトコル	TCP/IP プロトコルがインストールされていること	Open Transport1.3 以降がインストールされていること
WWWブラウザ	Internet Explorer 5.0 以降、または、Netscape Navigator 4.7以降	Internet Explorer 5.0 以降、または、Netscape Navigator 4.7以降

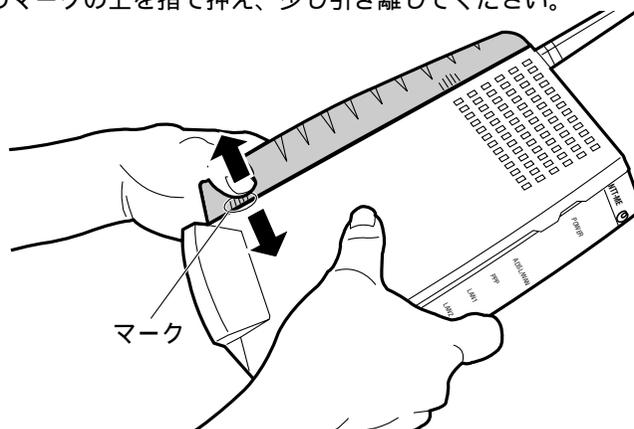
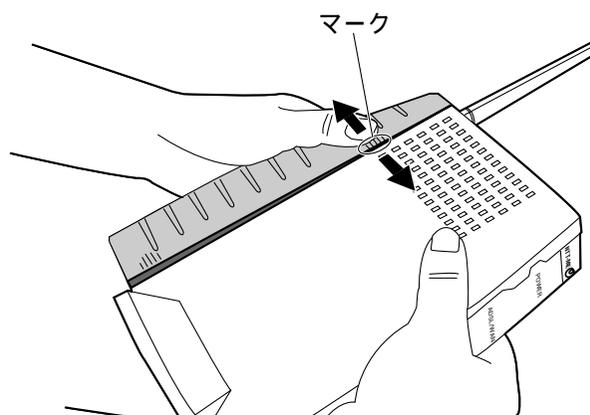
スタンドとバックカバーの取り付け／取り外し方

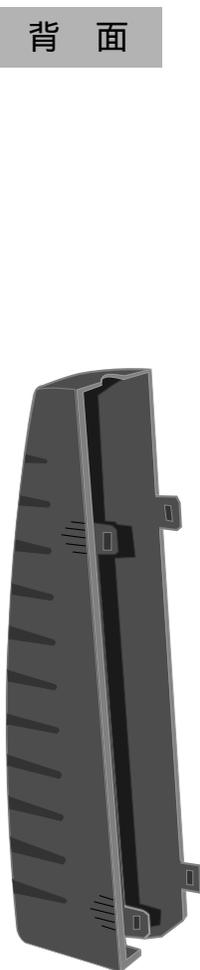
スタンドを取り付けるには：

スタンドのロック部を本体の穴に合わせ、カチッという音がするまで確実に挿入してください。

スタンドを取り外すには：

図のようにスタンドのノブを指で下げて矢印の方向に取り外してください。

バックカバーを取り付けるには：

バックカバーの 4 つの突起部を本体の穴に合わせ矢印の方向にカチッという音がするまで差し込んでください。

バックカバーを取り外すには：

図のようにバックカバーのマークの上を指で押え、少し引き離してください。

次に上のマークを指で押え、引き離してください。

バックカバー着脱の際、DC プラグケーブルや電話線ケーブル等をバックカバーではさみこまないようご注意ください。

正　面
アンテナ
POWERインジケーター
ADSL/WANインジケーター
PPPインジケーター
LAN1インジケーター
LAN2インジケーター
LAN3インジケーター
LAN4インジケーター
WIRELESSインジケーター
NTT-ME
POWER
ADSL/WAN
PPP
LAN1
LAN2
LAN3
LAN4
WIRELESS
MN7530
背　面
ADSL/WAN切替スイッチ
（☞ 24〜26ページ）
WANジャック
（☞ 26ページ）
LAN1〜LAN4ジャック
（☞ 27〜28ページ）
ADSL LINEジャック
（☞ 24〜25ページ）
DC INジャック
（☞ 29ページ）
CLEAR SETTINGボタンとRESETボタン
（本機の底面にあります ☞ 112ページ）
LAN 4
LAN 3
LAN 2
LAN 1

インジケーター

LED	点灯色	表示内容
POWER	緑	MN7530の電源が入っています。
	赤	Clear Setting ボタン処理中、またはMN7530 のハードウェアに障害があります。Clear Settingボタンを押したときは、正常に起動するまで約 5 分かかり、処理が終了すると、緑色点灯します。Clear Settingボタン処理中でないときに赤点灯する場合は、MN7530の RESETボタンを押してください。（☞ 112ページ） **お願い：**Clear Setting ボタンを押した後、緑色に点灯するまでは、**RESETボタンを押さない**でください。機器が動作しなくなる場合があります。
ADSL/WAN	緑	ADSLに接続中または光ケーブル等に接続しています。
	緑（点滅）	ADSL回線に接続する時は、ADSL回線の通信品質と速度が最適化するように調整しています。この点滅が長く続く場合は、ADSLモデムの設定がおこなわれていない可能性があります。 回線接続後の点滅は、データ通信をしています。
	消灯	回線が接続されていないか、切断されています。
PPP	赤（点滅）	PPP接続の手続きをおこなっています。
	赤／橙（点滅）	PPP接続のユーザ名とパスワードの認証の手続きをおこなっています。
	橙（点滅）	IPアドレスを取得しています。
	緑	プロバイダとPPP接続が確立しました。 プロバイダとPPP接続をしています。
	赤	PPP 接続が失敗しました。PPP 接続時のユーザ名とパスワードが間違っている可能性があります。ユーザ名とパスワードを確認してください。さらにステータス画面でPPP の状態を確認してください。
	消灯	回線が接続されていないか、切断されています。 モデムブリッジ接続にてインターネットに接続しています。
LAN1～4	緑	MN7530の電源が入っており、ハブあるいはパソコンに接続されています。
	緑（点滅）	MN7530は、データ通信しています。
WIRELESS	緑	MN7530が無線ネットワークのアクセスポイントとして通信できる状態です。データ通信している間も点灯を続けます。

インターネット接続の手順と情報の収集

インターネット接続の手順

MN7530を使ってインターネットに接続する流れを図で説明します。この手順にしたがって接続や設定をおこなってください。

1 プロバイダに加入する

ご自分のお住まいや環境にあったプロバイダや回線接続業者とご契約いただき、回線接続工事をおこなってください。

2 インターネット接続のための情報を集める

☞ 18ページ

3 機器の接続をおこなう

☞ 22ページ

4 パソコンの設定をおこなう

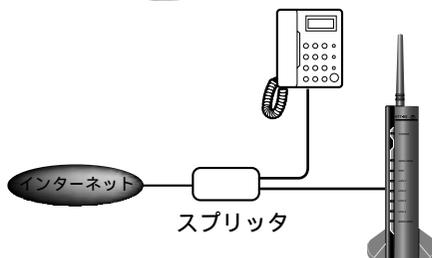
Windows 95/98/Me ☞ 31ページ
Windows XP/2000 ☞ 34ページ
Windows NT 4.0 ☞ 37ページ
Mac OS 8.1-9.2 ☞ 39ページ
Mac OS X/10.1 ☞ 41ページ

5 MN7530にアクセスする

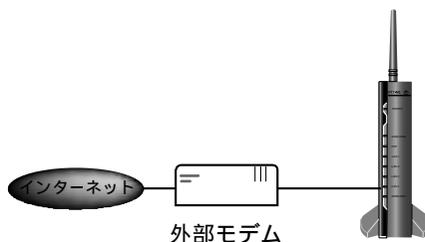
☞ 42ページ

ADSL（内蔵モデム使用）で接続する場合

6 インターネットに接続する

☞ 44ページ

CATV、光ケーブルおよびADSL（外部モデム使用）で接続する場合

6 インターネットに接続する

☞ 60ページ

インターネット接続のための情報を集める

MN7530を設置する前に、以下のものが揃っていることをご確認ください。

- WWWブラウザソフトウェア※1、ネットワークカード（Ethernet、あるいは、IEEE802.11b無線LANカード）、TCP/IPをインストールしているWindowsパソコンまたはMacintoshパソコン
- CATVや光ケーブルの回線に接続の場合は、回線接続の工事の完了とCATVモデムや光ケーブルの回線終端装置

モデムによっては、最初に接続されていたネットワーク機器のMACアドレスを記憶し、それ以外のネットワーク機器と接続できなくなる機種があります。この場合は、一度モデムの電源を切り、10〜30分ほどしてから再度電源を入れてください。

- モデムによっては、数時間から1日程度電源を切る必要がある場合があります。
- プロバイダによっては、モデムの電源を切ることを禁止している場合があります。問題がないか確認の上、作業をおこなってください。

- ADSL回線に接続の場合は、回線接続の工事の完了※2とADSLモデム設定のための設定情報（ADSLモデム設定の設定情報は、ご契約のADSL事業者によって異なります。主なADSL事業者のADSLモデムの設定情報は、添付の「対応／認定ADSL事業者別のインターネット接続設定方法」をお読みください。）
- インターネットにアクセスするためのアカウント情報（プロバイダから通知されています。）

■インターネット接続に関する情報を集める

本製品をインターネットに接続するための接続方法は、プロバイダや回線接続業者によって異なります。接続方法としては、大きく次の5種類に分けられます。

- ADSL PPPoE（Point to Point Protocol over Ethernet）接続（端末型／LAN型）
- ADSL PPPoA（Point to Point Protocol over ATM）接続（端末型／LAN型）
- DHCPサーバを使ったインターネット接続／IPoA (IP over ATM)接続（DHCP型）
- IPアドレス固定のインターネット接続／IPoA接続（固定型）
- モデムブリッジ接続※3

インターネット接続のためのパソコンの設定情報（アカウント情報）を参照の上、適切な接続方法をご確認ください。※4

※1 推奨のWWWブラウザについては、11ページを参照してください。

※2 親子電話やホームテレホンのように特殊な配線では、別途NTTや専門業者の工事が必要になる場合があります。回線接続業者によくご相談ください。

※3 モデムブリッジ接続では、本製品のADSLモデム機能しか動作しません。インターネット上のパソコンとネットワークゲーム等の通信をおこなう場合に、パソコンを直接本製品のADSLモデムに接続し、「モデムブリッジ接続」を選んでください。

※4 インターネットの接続方法が、PPPoE接続（端末型／LAN型）、PPPoA接続（端末型／LAN型）、DHCP接続／IPoA接続（DHCP型）、Static接続／IPoA接続（固定型）のどれに該当するか等、サービス内容や契約内容に関して、詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

■ プロバイダからのアカウント情報をメモしてください

1. ADSL PPPoE (Point to Point Protocol over Ethernet)接続（端末型／LAN型）

ADSLを使ってインターネットに接続する一般的な接続方法です。フレッツ・ADSL等で採用されています。端末型の場合は、１台のモデムやパソコン※を直接インターネットに接続します。
ユーザ名とパスワードの入力が必要になります。また、サービス名、アクセスコンセントレータ名、DNSサーバアドレス、ドメイン名、ルータ本体のIPアドレス、ルータ本体のネットマスクの入力も必要になる場合があります。プロバイダより送付される契約内容を確認し、必要事項をメモしてください。

✎ ユーザ名	✎ パスワード
✎ サービス名	✎ アクセスコンセントレータ名
✎ DNSサーバ１アドレス　.　.　.	✎ DNSサーバ2アドレス　.　.　.
✎ ドメイン名	

2. ADSL PPPoA (Point to Point Protocol over ATM)接続（端末型／LAN型）

PPPoEと同様にADSLを使ってインターネットに接続する方式です。端末型の場合は、１台のモデムやパソコン※を直接インターネットに接続します。
ユーザ名とパスワードの入力が必要になります。また、DNSサーバアドレス、ドメイン名、ルータ本体のIPアドレス、ルータ本体のネットマスクの入力も必要になる場合があります。プロバイダより送付される契約内容を確認し、必要事項をメモしてください。

✎ ユーザ名	✎ パスワード
✎ DNSサーバ１アドレス　.　.　.	✎ DNSサーバ2アドレス　.　.　.
✎ ドメイン名	

※ 本製品のアドレス変換機能を使って複数台のパソコンからインターネットにアクセスすることができます。

3. DHCPサーバを使ったインターネット接続／IPoA (IP over ATM)接続（DHCP型）

プロバイダのサーバからIPアドレスを自動で割り当ててもらい接続します。デバイス名※、ゲートウェイアドレス、DNSサーバアドレス、ドメイン名の入力が必要になる場合があります。プロバイダより送付される契約内容を確認し、必要に応じてメモしてください。

✎ デバイス名	✎ ゲートウェイアドレス　.　.　.
✎ DNSサーバ１アドレス　.　.　.	✎ DNSサーバ2アドレス　.　.　.
✎ ドメイン名	

※「デバイス名」とは、プロバイダによってはパソコンのコンピュータ名入力欄に入力するIDと指示されている場合があります。

4. IPアドレス固定のインターネット接続／IPoA接続（固定型）

プロバイダのアカウント情報からIPアドレスを固定に設定するように指示されている場合は、IPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSサーバアドレスの入力が必要になります。また、ドメイン名の入力も必要になる場合があります。プロバイダより送付される契約内容を確認し、必要事項をメモしてください。

✎ IPアドレス　. . .	✎ ネットマスク　. . .
✎ ゲートウェイアドレス　. . .	✎ DNSサーバ1アドレス　. . .
✎ DNSサーバ2アドレス　. . .	✎ ドメイン名

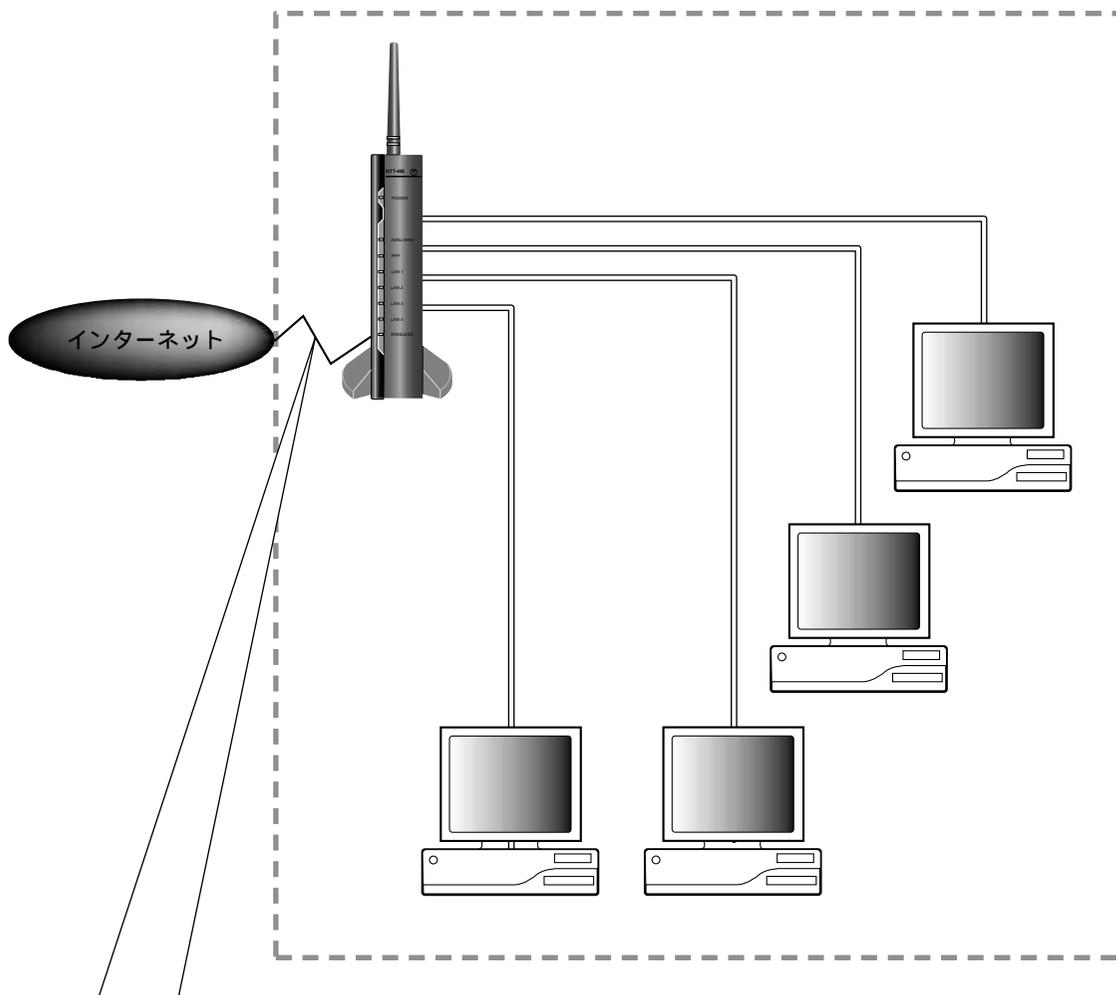
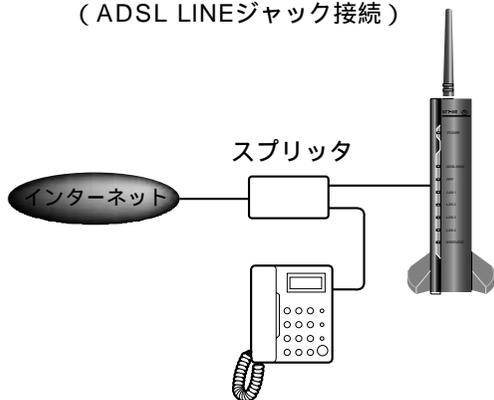
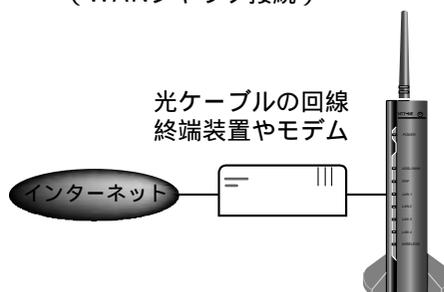
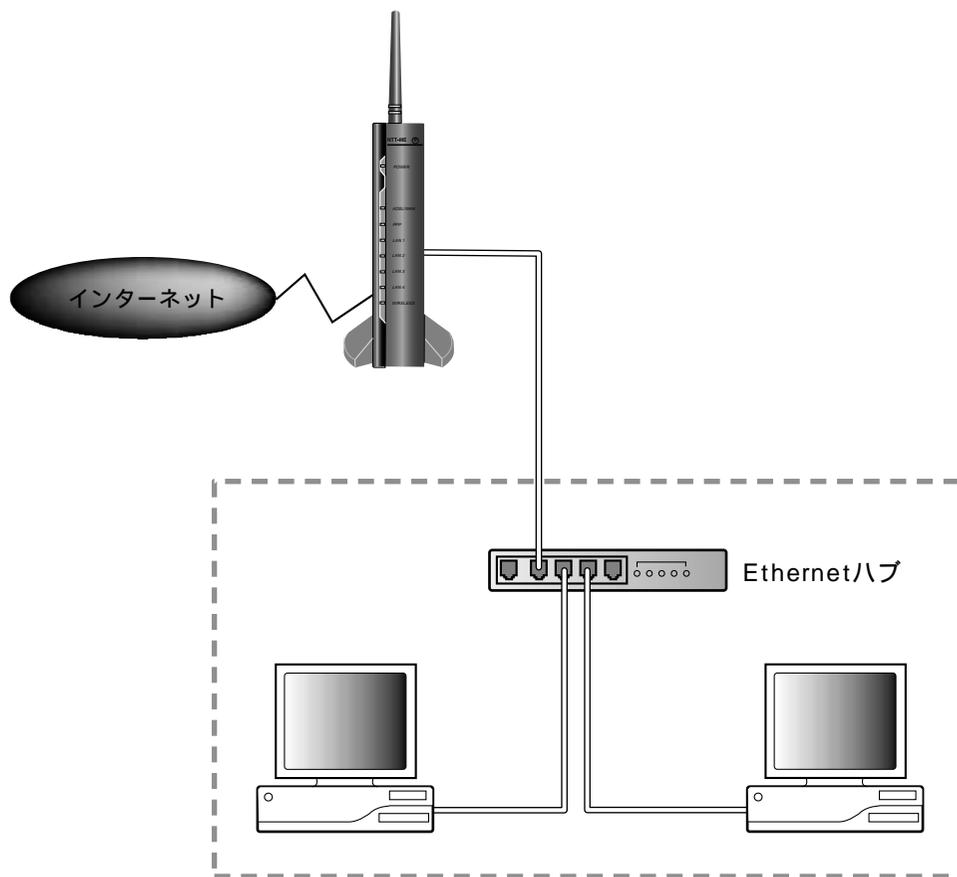
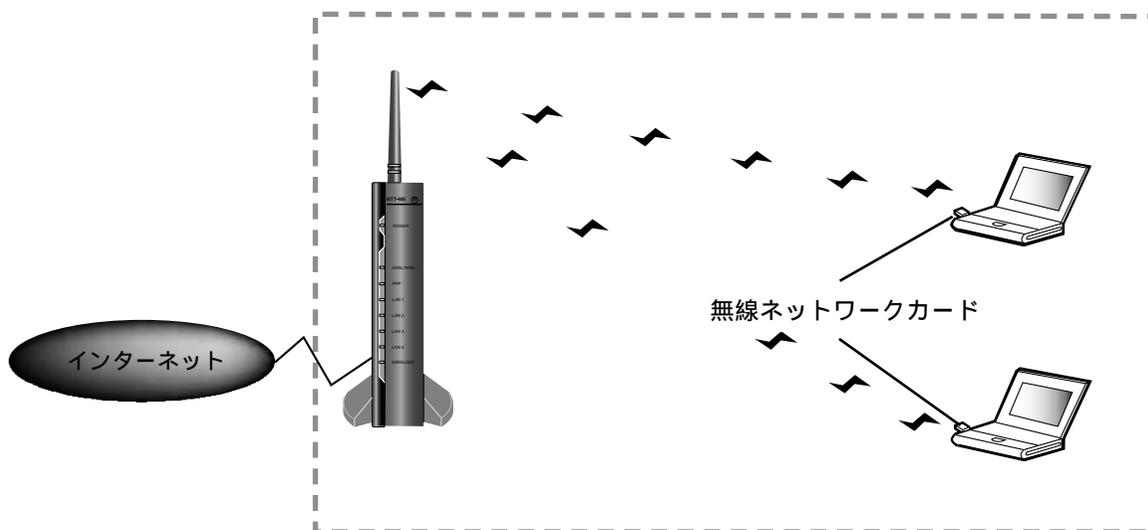
インターネットへの接続

「インターネットへの接続」をお読みいただくと、ホームネットワークのパソコンをブロードバンドサービスに接続し、インターネットを利用することができます。

1 接続のしかた

1-1 接続図

■Ethernetを使った接続

パソコンを直接接続する（☞ 24、27、29ページ）

Ethernetハブに接続する（☞ 24、28、29ページ）
（5 台以上接続する場合）

■無線ネットワークカードを使った接続（☞24、28、29ページ）

1-2 インターネット側の回線を接続する

MN7530 はADSLモデムを内蔵しているので ADSL回線に直接※接続して使うことができます。また、光ケーブルの終端装置や CATV のモデムを接続することもできます。お使いの回線に応じて接続してください。

※ 電話やFAX をお使いの場合はスプリッタ（付属品）を間に接続する必要があります。また、電話コンセントが複数の場合は、保安器の直後にスプリッタを接続してください。

- ADSL/WAN 切替スイッチは、MN7530 の電源を切った状態で切替えてください。電源が入った状態で切替えても切替えが有効になりません。
- 万一、MN7530 の電源が入った状態でADSL/WAN 切替スイッチを切替えた場合は、電源を入れなおしてください。ADSL/WAN 切替スイッチの切替えが有効になります。
- 電源を入れなおしたあと、3 分以上待ってからアクセスしてください。

■ADSL回線に接続する（電話機やFAXも同時にお使いの場合）

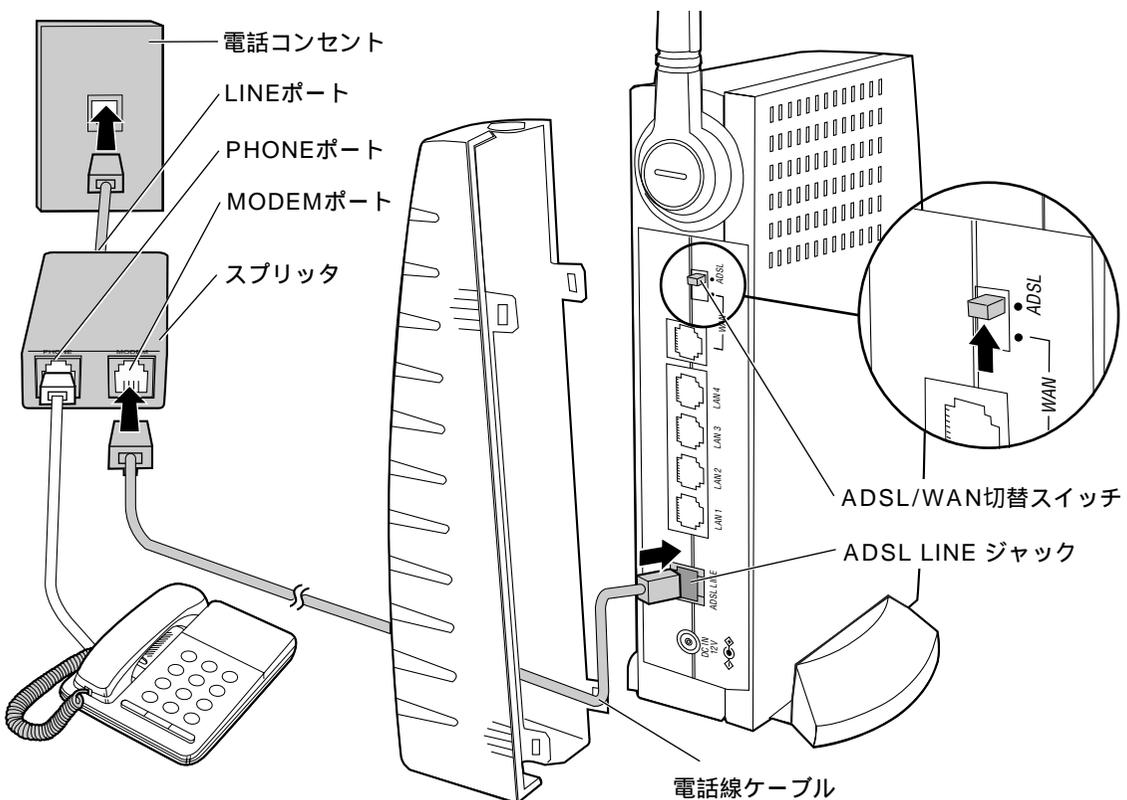
❶ ADSL/WAN 切替スイッチを ADSL側にセットする

❷ スプリッタの電話線ケーブルを電話コンセントに接続する

❸ スプリッタのMODEMポートに付属の電話線ケーブルを接続する

❹ 電話線ケーブルのもう一方を MN7530のADSL LINEジャックに接続する

❺ 電話器を PHONEポートに接続する

電話コンセント
LINEポート
PHONEポート
MODEMポート
スプリッタ
ADSL/WAN切替スイッチ
ADSL LINE ジャック
電話線ケーブル

■ADSL回線に接続する（スプリッタを使わない場合）

- ADSL/WAN 切替スイッチは、MN7530 の電源を切った状態で切替えてください。電源が入った状態で切替えても切替えが有効になりません。
- 万一、MN7530の電源が入った状態で ADSL/WAN切替スイッチを切替えた場合は、電源を入れなおしてください。ADSL/WAN 切替スイッチの切替えが有効になります。
- 電源を入れなおしたあと、3分以上待ってからアクセスしてください。

❶ ADSL/WAN切替スイッチをADSL側にセットする

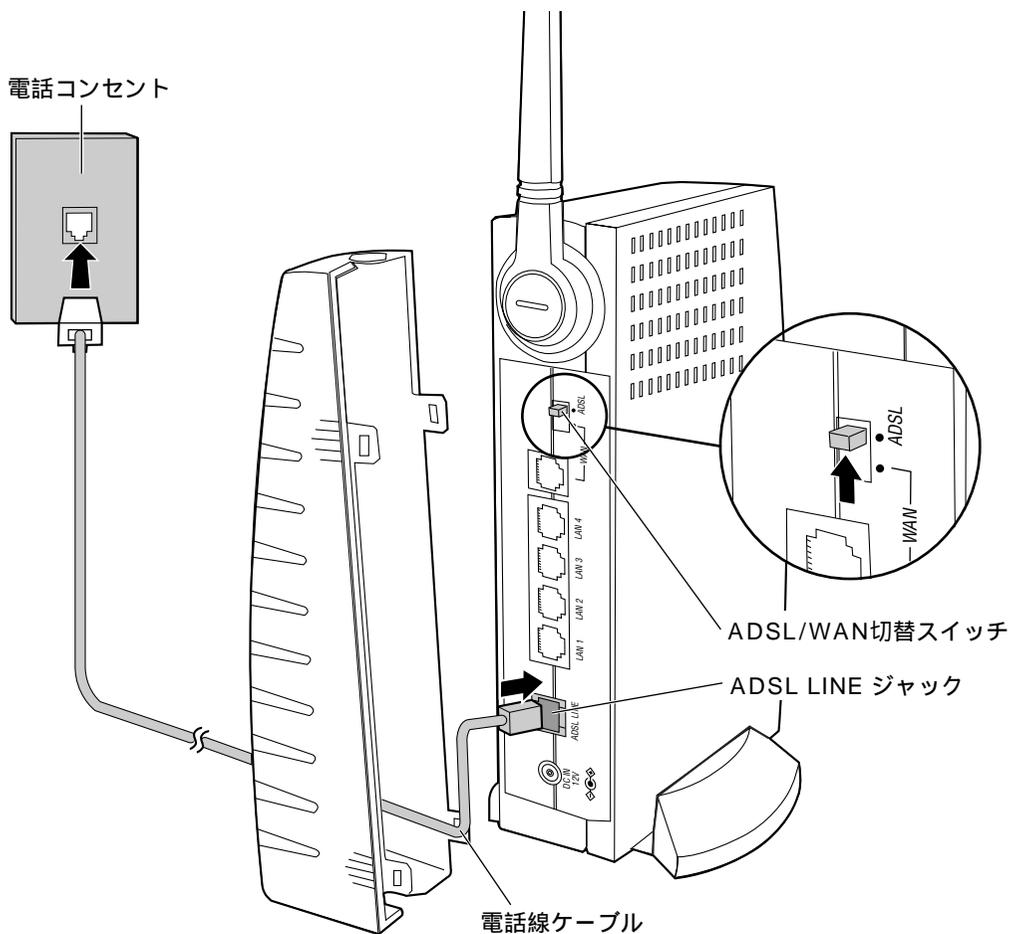
❷ 付属の電話線ケーブルを電話コンセントに接続する

❸ 電話線ケーブルのもう一方をMN7530のADSL LINEジャックに接続する

電話コンセント

ADSL/WAN切替スイッチ

ADSL LINE ジャック

電話線ケーブル

■光アクセスサービスやCATV、外付けADSLモデムを利用してADSL回線に接続する

接続する前に光ケーブルの終端装置やCATVのモデム等をご用意ください。

- ADSL/WAN切替スイッチは、MN7530の電源を切った状態で切替えてください。電源が入った状態で切替えても切替えが有効になりません。
- 万一、MN7530の電源が入った状態でADSL/WAN切替スイッチを切替えた場合は、電源を入れなおしてください。ADSL/WAN切替スイッチの切替えが有効になります。
- 電源を入れなおしたあと、3分以上待ってからアクセスしてください。

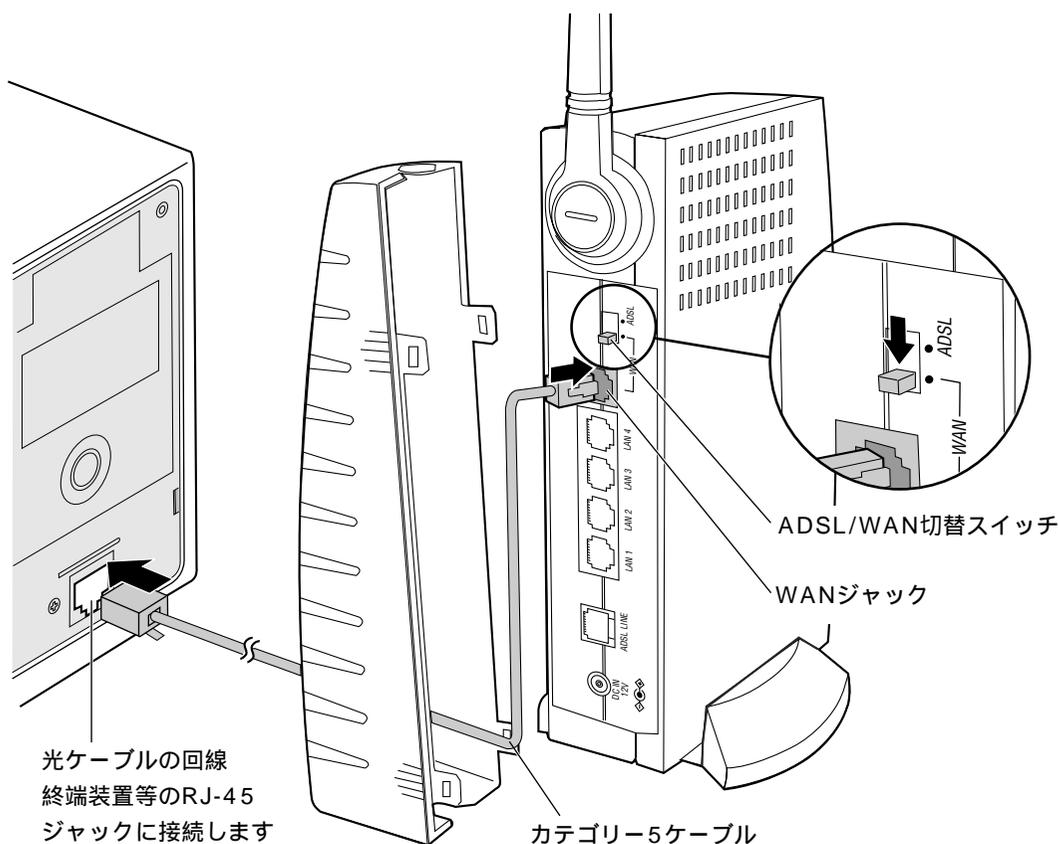
❶ ADSL/WAN切替スイッチをWAN側にセットする

❷ 付属のカテゴリー5ケーブル(ストレートケーブル)をCATVモデムや光ケーブルの終端装置のRJ-45ジャックに差し込む

❸ カテゴリー 5ケーブルのもう一方をMN7530のWANジャックに差し込む

ADSL/WAN切替スイッチ

WANジャック

光ケーブルの回線終端装置等のRJ-45ジャックに接続します

カテゴリー5ケーブル

モデムや終端装置のストレート/クロスの極性に関係なく接続できます。MN7530が極性の切替えを自動でおこないます。

1-3 パソコンやハブを接続する

■パソコンを直接MN7530に接続する

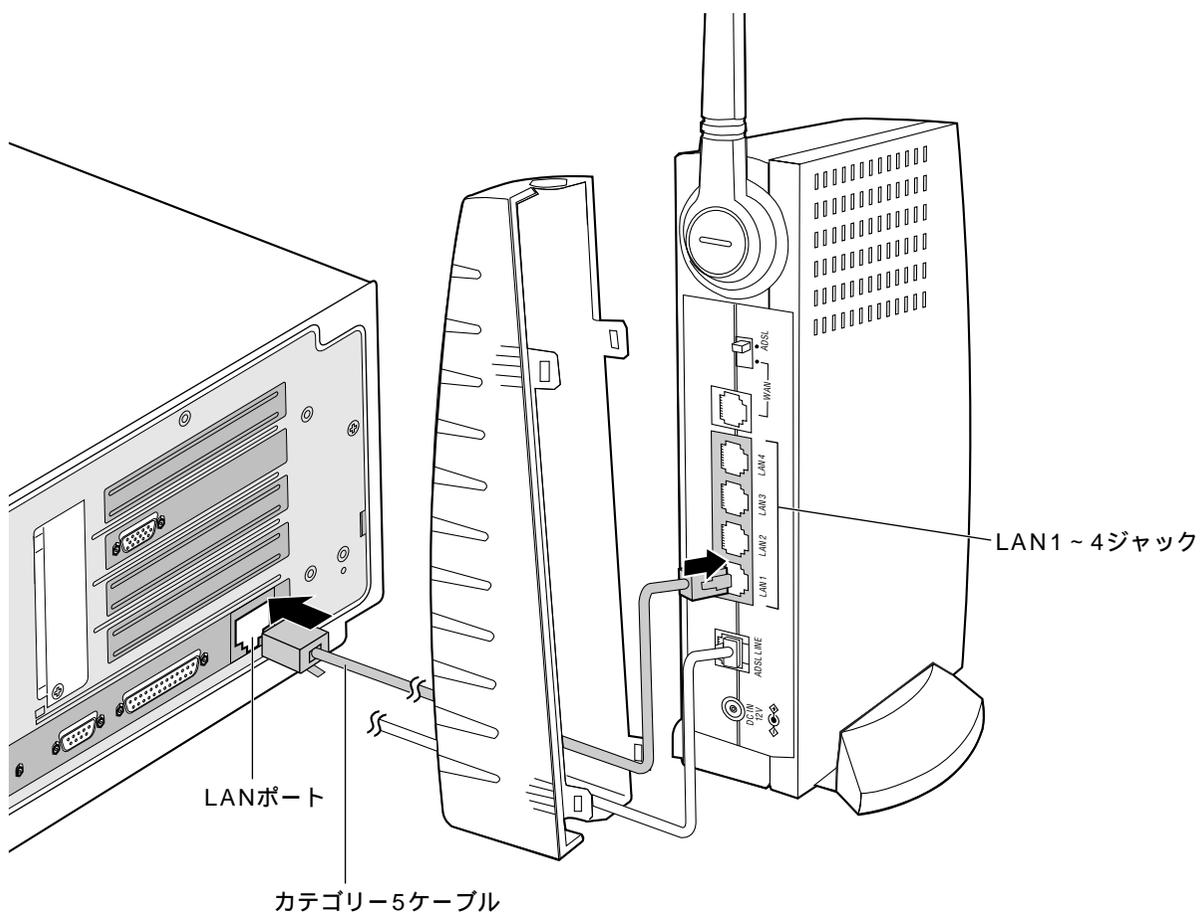
接続する前に、Ethernetカードをパソコンに装着してください。

❶ パソコンの電源を切る

❷ 付属のカテゴリー 5 ケーブル（ストレートケーブル）をMN7530のLAN1～4 ジャックのいずれかに差し込む

❸ カテゴリー 5 ケーブルのもう一方をパソコンのLAN ポートに差し込む

LAN1～4ジャック

LANポート

カテゴリー5ケーブル

ポートのストレート／クロスの極性に関係なく接続できます。MN7530 が極性の切替えを自動でおこないます。

■Ethernetハブを MN7530 に接続する

接続する前に、Ethernet カードをパソコンに装着してください。

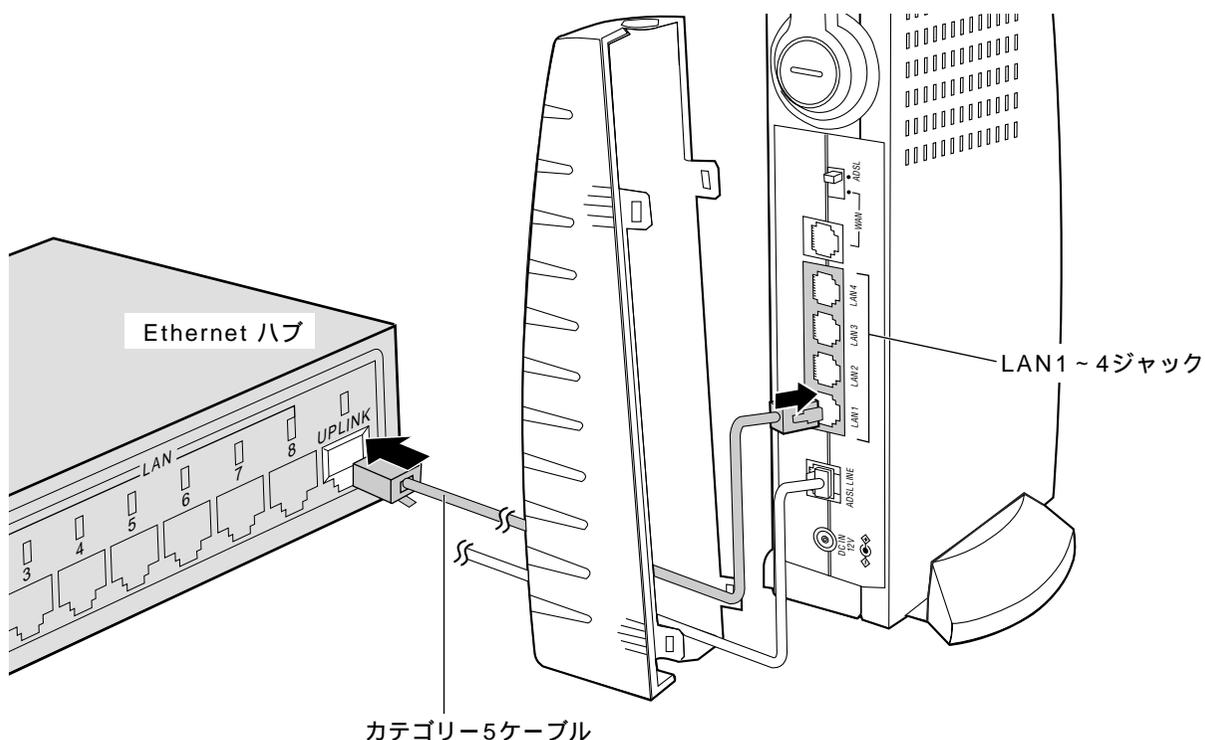
❶ パソコンと Ethernetハブに接続されている他の機器の電源を切る

❷ 付属のカテゴリー5 ケーブルを MN7530のLAN1～4 ジャックに差し込む

❸ カテゴリー 5ケーブルのもう一方を Ethernet ハブの任意のポートに差し込む

Ethernet ハブ

LAN1～4ジャック

カテゴリー5ケーブル

ポートのストレート／クロスの極性に関係なく接続できます。MN7530 が極性の切替えを自動でおこないます。

1-4 無線 LAN 端末と接続する

無線LANカードMN SS-LAN CARD11 HQ（別売品）をご用意ください。

❶ 無線 LAN カードの無線設定は、SSID を **MN7530** に暗号化設定は**なし**にする

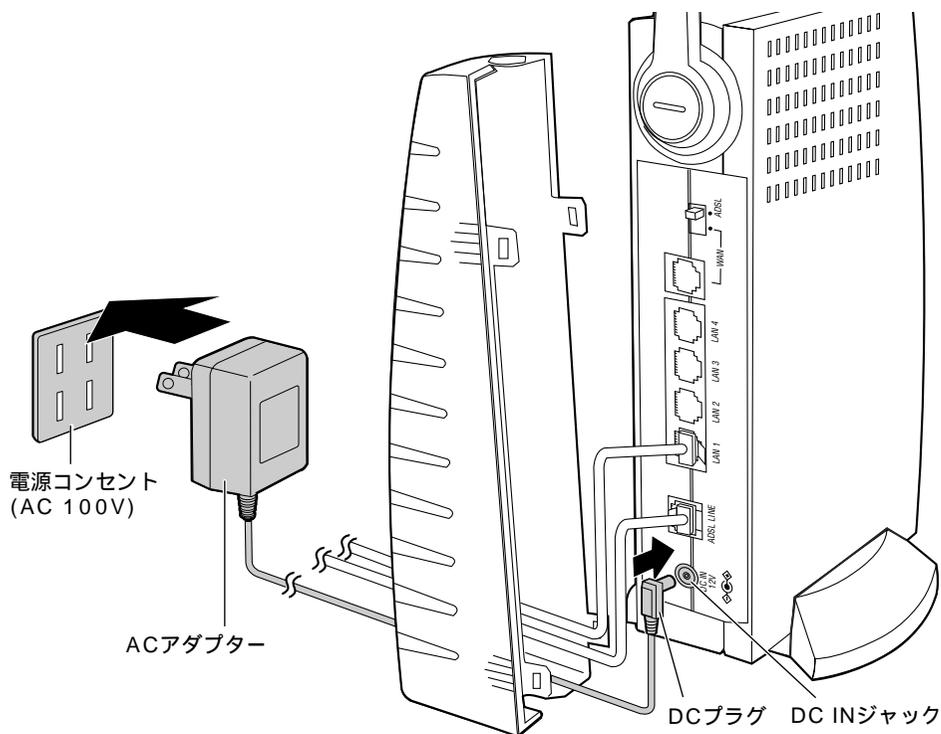
付属の取扱説明書を参照の上、設定してください。

無線カード（PCMCIA または USB）が同梱されたセットをお使いの場合、MN7530 のネットワーク ID（SSID）の初期値と無線カードの初期値が異なります。無線カードの初期値を MN7530 の初期値に合わせてください。

1-5 電源を入れる

すべての機器を接続したら、次の手順に従って、電源を入れてください。
パソコンやEthernetハブを含めて、すべての機器の電源が入っていないことをご確認ください。

❶ 電源を入れる前に ADSL/WAN 切替スイッチをセットした後、AC アダプターのDC プラグをMN7530のDC INジャックに差し込み、AC アダプターをコンセントに差し込む

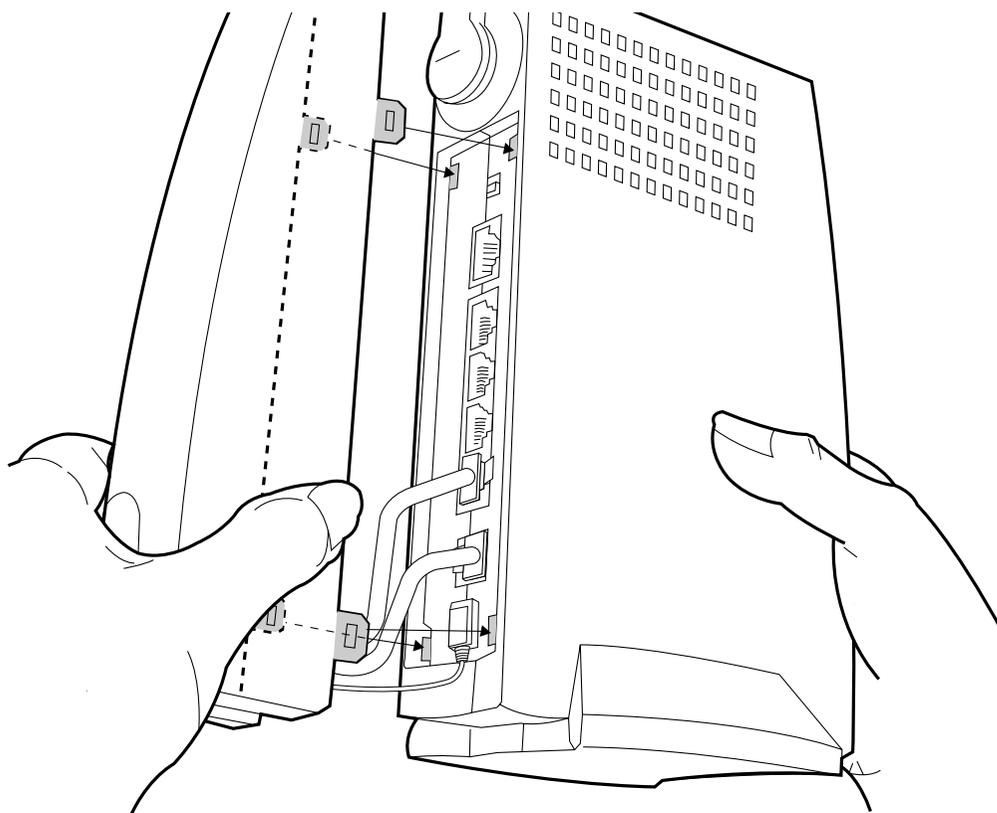
電源を入れたら本製品が立ち上がるまで約 3 分の間、絶対に電源を切らないでください。本製品が故障する可能性があります。

専用の AC アダプター（極性統一形プラグ）以外は使わない

専用以外の AC アダプターを使用すると、電圧や＋－の極性が異なっていることがあるため、発煙・火災のおそれがあります。

❷ Ethernet ハブがLAN1～4ジャックに接続されている場合は、Ethernetハブの電源を入れる

❸ MN7530 に接続されているパソコンの電源を入れる

MN7530 のPOWERインジケーターが緑色に点灯していることと、接続しているネットワークに対応したインジケーター（LAN、WIRELESS）が緑色に点灯していることを確認してください。（☞ 15ページ、132ページ）

❹ MN7530 のバックカバーを取り付ける

バックカバー着脱の際、DCプラグケーブルや電話線ケーブル等をバックカバーではさみこまないようご注意ください。

2 パソコンをセットアップする

機器の接続（☞ 24～30ページ）が終わりましたら、MN7530を利用してインターネットに接続ができるようにパソコンのTCP/IPの設定をおこないます。MN7530のDHCPサーバ機能を使うと、LAN上のパソコンのTCP/IPの設定を自動化できます。ここではMN7530のDHCPサーバ機能を使った場合のパソコンの設定を説明します。

次の手順に従って、MN7530に接続しているすべてのパソコンを設定してください。

静的IPマスカレード機能（☞ 83ページ）を使う場合等は、特定のパソコンだけIPアドレスを手動で設定する必要があります。「パソコンのIPアドレスを固定するには」（☞ 120ページ）を参考にTCP/IPの設定をおこなってください。

2-1 Windows 95/98/Me の場合

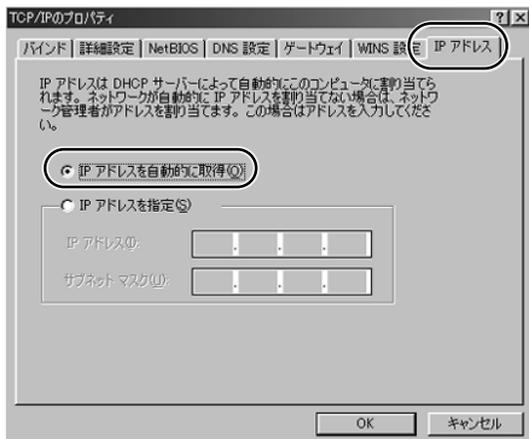
次の手順に従って、各パソコン毎にIPアドレスを設定してください。

1 **[スタート]**ボタンをクリックし、**設定**を選び、**コントロールパネル**をクリックする

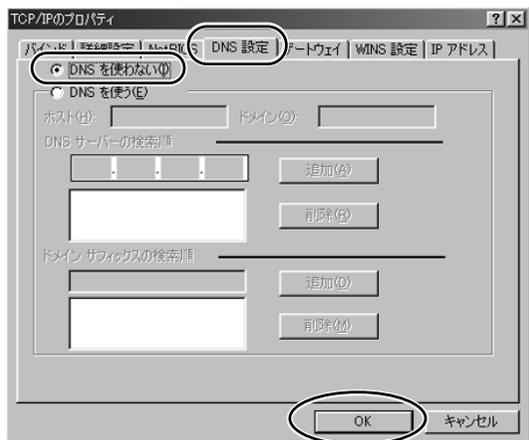
2 **「ネットワーク」**アイコンをダブルクリックする

Windows Meを使っていて**「ネットワーク」**アイコンが見つからない場合は、**「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」**をクリックしてください。

3 MN7530 に接続しているネットワークカードに対応した TCP/IP を選び、**ネットワーク**ダイアログボックスの **プロパティ** をクリックする

4 **IP アドレス**タブをクリックし、**「IP アドレスを自動的に取得」**を選ぶ

5 **ゲートウェイ**タブをクリックし、**インストールされているゲートウェイ**の入力欄に何も入力されていないことを確認する

入力されていた場合は、入力されている IP アドレスを選択し、削除 をクリックする

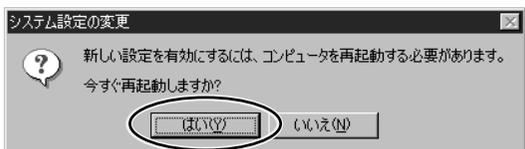
6 **DNS 設定**タブをクリックし、**「DNSを使わない」**を選び、OK をクリックする

7 **識別情報**タブをクリックし、**「コンピュータ名」**および**「ワークグループ」**入力欄に名前を入力する

「コンピュータ名」はネットワーク上でパソコンを識別するためにつけます。
任意の名前をつけてかまいませんが、他のパソコンと同じ名前はつけないでください。
「ワークグループ」は、ネットワーク上でどのパソコンをどのグループに所属させるかを決めるための名前です。ネットワークで通信したいパソコンには、**同じ「ワークグループ」**を入力してください。

8 OK をクリックする

システム設定の変更ダイアログボックスを表示します。

9 はい をクリックして、パソコンを再起動する

パソコンにMN7530からIPアドレスが割り当てられます。同様に、MN7530に接続している他のパソコンを設定してください。

MN7530の設定を確認するには、42ページの「MN7530にアクセスする」を参照してください。

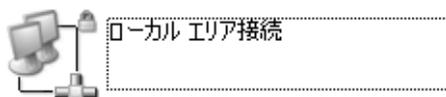
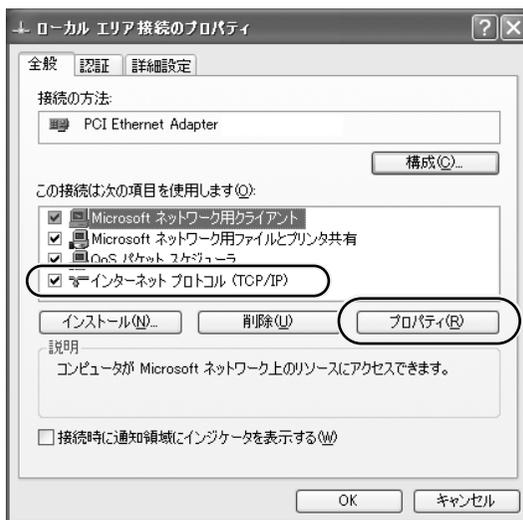
2-2 Windows XP/2000 の場合

次の手順に従って、各パソコン毎にIPアドレスを設定してください。

画面はWindows XP(Home Edition)の例です。

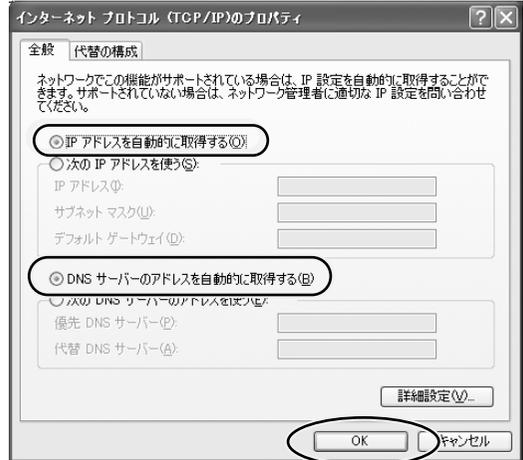
1 **[スタート]**メニューの**マイコンピュータ**から**マイネットワーク**を選び、**ネットワーク接続を表示する**を選ぶ

Windows 2000の場合は、**「マイ ネットワーク」**アイコンをダブルクリックし、**「ネットワークとダイヤルアップ接続」**をクリックしてください。

2 MN7530 に接続している**「ローカルエリア接続」**アイコンを右クリックし、**プロパティ**を選ぶ

3 **「インターネットプロトコル(TCP/IP)」**を選び、**プロパティ** をクリックする

4 **詳細設定...** をクリックする

右の画面を表示します。

5 **「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に何も入力されていないことを確認し、［OK］をクリックする
入力されていた場合は、入力されているIPアドレスを選択し、［削除］をクリックする

6 **「IPアドレスを自動的に取得する」**を選び、**「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」**を選び、［OK］をクリックする

7 ［閉じる］をクリックし、**「ローカルエリア接続のプロパティ」**のウィンドウを閉じる

Windows 2000の場合は、［OK］をクリックし、**「ネットワークとダイヤルアップ接続」**のウィンドウを閉じてください。

8 **スタート**メニューから**マイコンピュータ**を表示させた状態で右クリックし、**プロパティ**を選ぶ

Windows 2000の場合は、**「マイコンピュータ」**アイコンを右クリックし、**プロパティ**を選んでください。

9 **コンピュータ名**タブをクリックし、［変更...］をクリックする

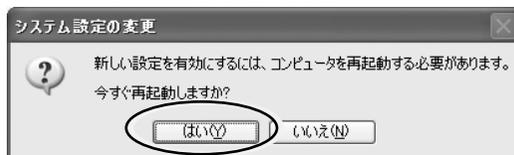
Windows 2000の場合は、**ネットワークID**タブをクリックし、［プロパティ］をクリックしてください。

10 **「コンピュータ名」**と**「ワークグループ」**入力欄に名前を入力する

「コンピュータ名」はネットワーク上でパソコンを識別するためにつけます。
任意の名前をつけてかまいませんが、他のパソコンと同じ名前はつけないでください。
「ワークグループ」は、ネットワーク上でどのパソコンをどのグループに所属させるかを決めるための名前です。
ネットワークで通信したいパソコンには、**同じ「ワークグループ」**を入力してください。

11 必要に応じて複数回 OK をクリックし、**「システムのプロパティ」**を閉じる

12 はい をクリックして、パソコンを再起動する

パソコンに MN7530 から IP アドレスが割り当てられます。同様に、MN7530 に接続している他のパソコンを設定してください。

MN7530 の設定を確認するには、42 ページの「MN7530 にアクセスする」を参照してください。

2-3 Windows NT 4.0 の場合

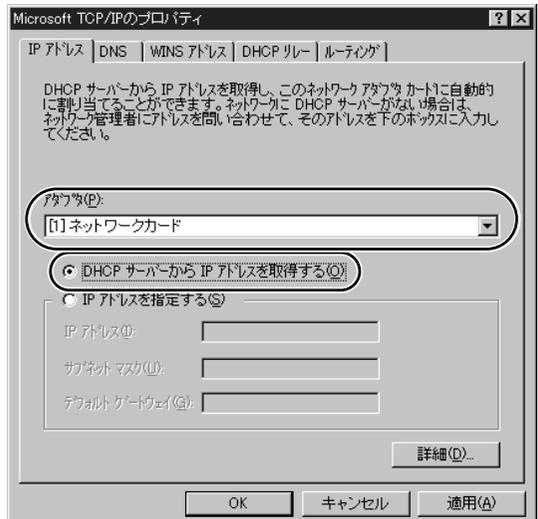
次の手順に従って、各パソコン毎にIPアドレスを設定してください。

1 **[スタート]**ボタンをクリックし、**設定**を選び、**コントロールパネル**をクリックする

2 **「ネットワーク」**アイコンをダブルクリックする

3 **プロトコル**タブをクリックし、**「TCP/IP プロトコル」**を選び、**プロパティ** をクリックする

4 **TCP/IPのプロパティ**ダイアログボックスで、**IPアドレス**タブをクリックする

5 MN7530に接続しているネットワークカードを**「アダプタ」**コンボボックスから選び、**「DHCPサーバーからIPアドレスを取得する」**を選ぶ

6 **「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に何も入力されていないことを確認する

7 [OK] をクリックする

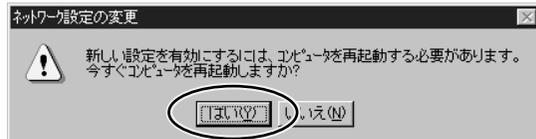
8 **識別**タブをクリックする

9 必要に応じて [変更] をクリックする**「コンピュータ名」**と**「ワークグループ」**入力欄に名前を入力する

「コンピュータ名」はネットワーク上でパソコンを識別するためにつけます。
任意の名前をつけてかまいませんが、他のパソコンと同じ名前はつけないでください。
「ワークグループ」は、ネットワーク上でどのパソコンをどのグループに所属させるかを決めるための名前です。ネットワークで通信したいパソコンには、**同じ「ワークグループ」**を入力してください。

10 [閉じる] をクリックする

11 [はい] をクリックして、パソコンを再起動する

パソコンにMN7530からIPアドレスが割り当てられます。同様に、MN7530に接続している他のパソコンを設定してください。

MN7530の設定を確認するには、42ページの「MN7530にアクセスする」を参照してください。

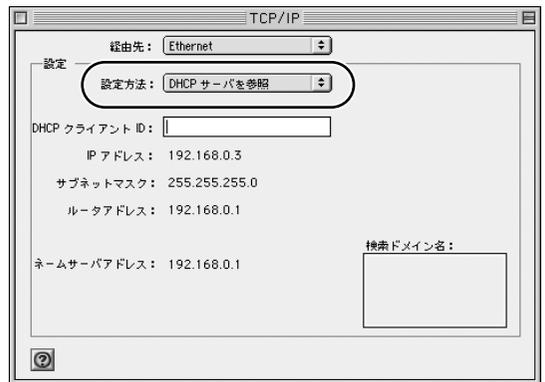
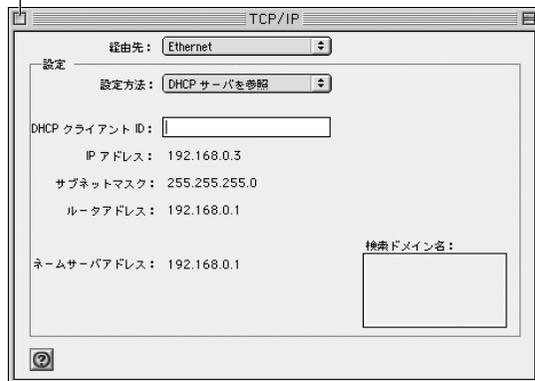
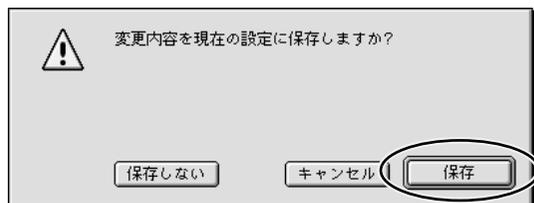
2-4 Mac OS 8.1 〜 9.2 の場合

次の手順は、Mac OS 9.2 operating system software（以下Mac OS 9.2）を使った場合です。Mac OSのバージョンによっては若干操作方法が異なる場合があります。パソコン毎にIPアドレスを設定してください。

1 アップルメニューから**コントロールパネル**を選ぶ

2 **コントロールパネル**メニューから**TCP/IP**を選ぶ

3 **経由先**ポップアップメニューから**Ethernet**を選ぶ

4 **設定方法**ポップアップメニューから**DHCPサーバを参照**を選ぶ

5 クローズボタンをクリックする

6 保存 をクリックする

7 Macintoshを再起動する

パソコンにMN7530からIPアドレスが割り当てられます。同様に、MN7530に接続している他のパソコンを設定してください。

MN7530の設定を確認するには、42ページの「MN7530にアクセスする」を参照してください。

2-5 Mac OS X/10.1 の場合

次の手順に従って、パソコン毎にIPアドレスを設定してください。次の手順は、Mac OS 10.1を使った場合です。Mac OSのバージョンによっては若干操作方法が異なる場合があります。パソコン毎にIPアドレスを設定してください。

1 アップルメニューから**システム環境設定…**を選ぶ

システム環境設定画面が表示されます。

2 **「ネットワーク」**アイコンをクリックする

3 **表示**ポップアップメニューから**内蔵Ethernet**を選ぶ

4 TCP/IPの**設定**ポップアップメニューから**DHCPサーバを参照**を選び、必要に応じて **今すぐ適用** をクリックする

5 クローズボタンをクリックする

MN7530の設定を確認するには、42ページの「MN7530にアクセスする」を参照してください。

3 MN7530 の設定をする

3-1 MN7530 にアクセスする

MN7530 は、WWWサーバ機能を内蔵しています。MN7530のホームページにアクセスできれば、MN7530 とホームネットワークのパソコンは接続されたことになります。次の手順に従って、ホームネットワークのパソコンを操作してください。

- 万一、MN7530 の電源が入った状態でADSL/WAN 切替スイッチを切替えた場合は、電源を入れなおしてください。ADSL/WAN 切替スイッチの切替えが有効になります。
- 電源を入れなおしたあと、3 分以上待ってからアクセスしてください。

1 WWW ブラウザを起動する

2 WWW ブラウザのアドレスバーに **http://192.168.0.1** と入力する

ユーザ名・ID と**パスワード**のダイアログボックスが表示されます。

3 **ユーザ名・ID** 入力欄に半角小文字で **admin** を入力する

「パスワード」を入力する必要はありません。

(Windows)

(Macintosh)

"192.168.0.1" へ以下の内容で接続：
ユーザー ID: admin
パスワード：
エリア： Authentication Page
パスワードを保存する
キャンセル
OK

■ダイアログボックスが表示されなかった場合（詳細は 133 ページを参照してください。）

- アドレスバーに http://192.168.0.1 と正しく入力されているか、確認してください。
- MN7530 とパソコンが正しく接続されているか、確認してください。
- パソコン、MN7530、ホームネットワーク上の機器の電源を適切な順番で入れたか確認してください。詳細は、29 ページの「電源を入れる」を参照してください。
- プロキシーサーバー経由でインターネットにアクセスしている場合
  MN7530 の Web 設定画面にアクセスするには、WWW ブラウザの設定が必要になる場合があります。113 ページを参照の上、設定を確認してください。

MN7530 の Web 設定画面上で、パスワードを変更することができます。詳細は、103 ページを参照してください。

4 OK をクリックする

MN7530のWeb設定画面を表示します。なお、Web設定画面は、内蔵のADSLモデムを使う／使わない場合で変わります。

ADSL（内蔵モデム使用）で接続する場合

下の画面が表示されると、MN7530とパソコンが接続されています。次に、MN7530をインターネットに接続します。（☞ 44ページ）

内蔵モデムを使う

CATV、光ケーブルおよびADSL（外部モデム使用）で接続する場合

下の画面が表示されると、MN7530とパソコンが接続されています。次に、MN7530をインターネットに接続します。（☞ 60ページ）

インターネット側の接続に対応した画面が表示されない場合は、ADSL/WAN切替スイッチが適切にセットされていない可能性があります。必ずMN7530の電源を切ってADSL/WAN切替スイッチを切替えてください。（☞ 24～26ページ）

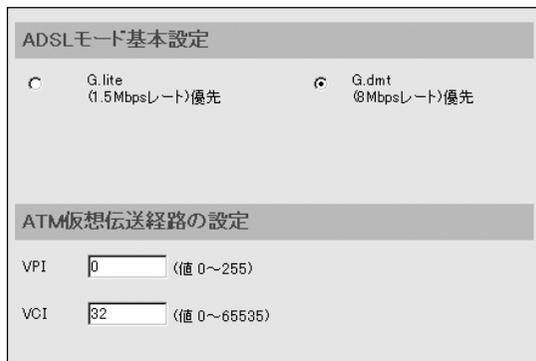
Web設定画面についての詳細は、70ページの「MN7530のWeb設定画面について」を参照してください。

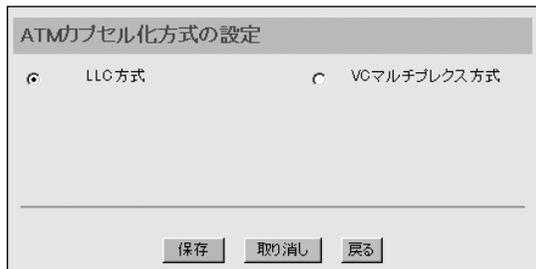
3-2 インターネット接続の設定をする（ADSL で接続する場合）

■ADSLモデムの設定をする

まず、MN7530内蔵のADSLモデムの設定をおこないます。回線接続業者やプロバイダからのADSLモデムの設定情報や「対応／認定ADSL 事業者別のインターネット接続設定方法」（別紙）を参照して、ADSLモデムの設定をおこなってください。次に、インターネット接続の設定をおこなってください（☞ 45ページ）。

1 モデム設定 を選ぶ

2 **「G.lite　(1.5Mbps レート) 優先」**か**「G.dmt (8Mbps レート) 優先」**のどちらかを選ぶ

3 **「VPI」**と**「VCI」**の値を設定する

4 **「LLC 方式」**か**「VC マルチプレクス方式」**を選ぶ※

5 設定値の入力を終えたら、保存 をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

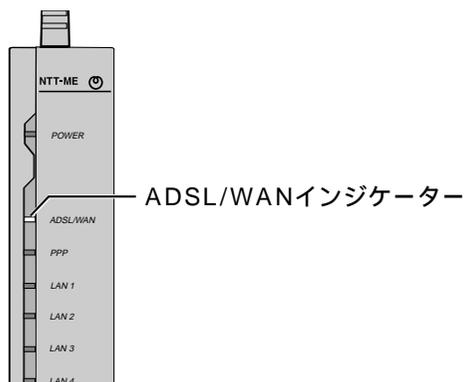
保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなる可能性があります。

6 Web設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

※ 本製品のルータ機能をカットするモデムブリッジ接続をおこなう場合は、イー・アクセスや J-DSL と接続する時も、LLC方式を選んでください。VCマルチプレクス方式では接続できません。

7 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

8 MN7530のADSL/WANインジケーターの表示を確認する

ADSL/WAN インジケーターが緑色に点灯すると、ADSL回線に接続したことになります。
次にインターネット接続の設定をおこなってください。
ADSL/WAN インジケーターの点滅が長く続く場合は、MN7530 がADSL回線につながっていないか、ADSLモデムの設定が間違っている可能性があります。機器の接続およびADSLモデムの設定を確認してください。

- モデム設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■インターネット接続の設定をする

本製品をインターネットに接続するための接続方法としては、次の7種類に分けられます。※1

- ADSL PPPoE（端末型）接続（☞ 46ページ）
- ADSL PPPoA（端末型）接続（☞ 48ページ）
- IPoA接続（DHCP型）（☞ 50ページ）
- IPoA接続（固定型）（☞ 52ページ）
- モデムブリッジ接続（☞ 54ページ）※2
- ADSL PPPoE（LAN型）接続（☞ 56ページ）
- ADSL PPPoA（LAN型）接続（☞ 58ページ）

「対応／認定ADSL事業者別のインターネット接続設定方法」（別紙）を参照してください。また、「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18ページ）を参照して記録した内容を確認し、本製品をインターネットに接続してください。

※1 インターネットの接続方法が、PPPoE接続（端末型／LAN型）、PPPoA接続（端末型／LAN型）、DHCP接続／IPoA接続（DHCP型）、Static接続／IPoA接続（固定型）のどれに該当するか等、サービス内容や契約内容に関して、詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

※2 モデムブリッジ接続では、本製品のADSLモデム機能しか動作しません。インターネット上のパソコンとネットワークゲーム等の通信をおこなう場合に、パソコンを直接本製品のADSLモデムに接続し、「モデムブリッジ接続」を選んでください。

■PPPoE接続（端末型）の場合

PPPoE 接続（端末型）の設定は、次の手順に従ってください。

1 **基本設定** を選ぶ

基本設定画面では、「PPPoE接続（端末型）」が標準設定です。
現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「PPPoE接続（端末型）」**を選ぶ

3 **「ユーザ名」、「パスワード」、「DNS サーバ 1」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「DNS サーバ 2」、「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18 ページ）を元に入力してください。
元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

基本設定

ユーザ名

パスワード

プロバイダから指定がある時に入力

サービス名

アクセス
コンセントレータ名

DNSサーバ1

DNSサーバ2

ドメイン名

保存　取り消し　戻る

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「DNS サーバ 2」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力の必要はありません。

4 設定を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

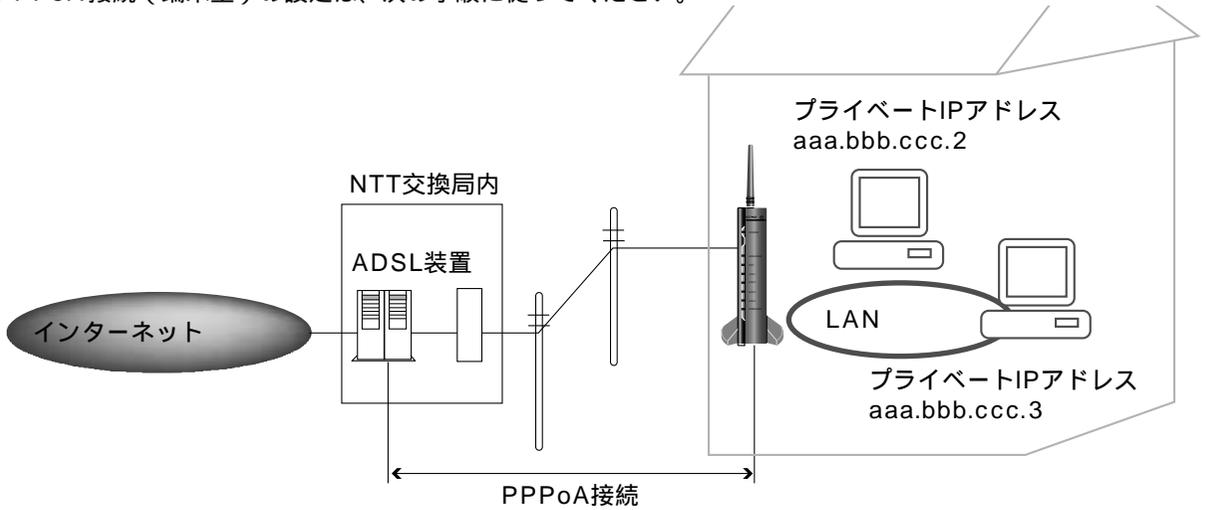
5 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
（☞ 68 ページ）

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1〜4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■PPPoA接続（端末型）の場合

PPPoA接続（端末型）の設定は、次の手順に従ってください。

1 基本設定 を選ぶ

現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「PPPoA接続（端末型）」**を選ぶ

3 **「ユーザ名」、「パスワード」、「DNSサーバ 1」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は、**「DNSサーバ 2」、「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」(☞ 18ページ)を元に入力してください。
元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

基本設定

ユーザ名

パスワード

プロバイダから指定がある時に入力

DNS サーバ1

DNS サーバ2

ドメイン名

保存　取り消し　戻る

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「DNSサーバ 2」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力の必要はありません。

4 設定を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなる可能性があります。

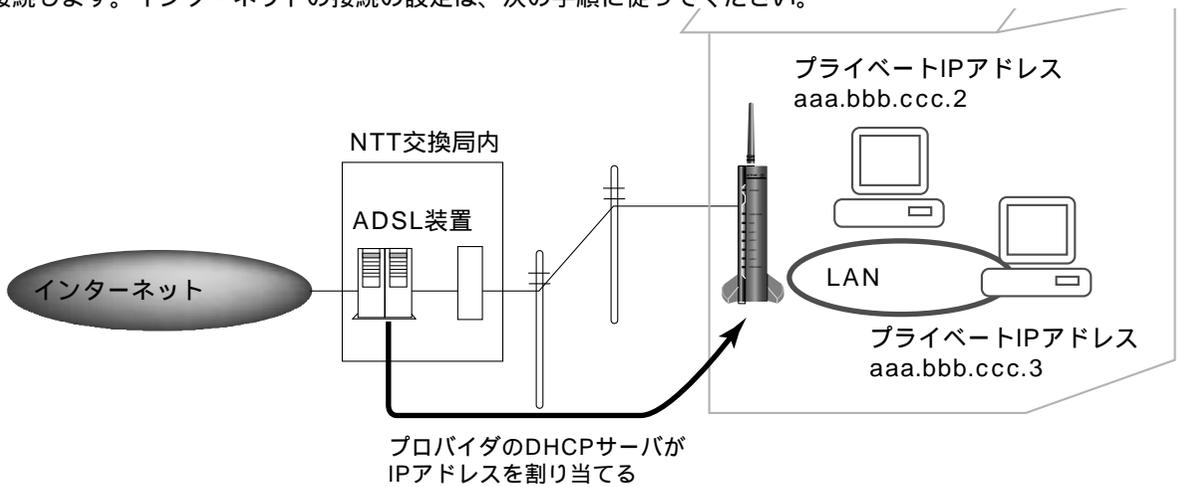
5 Web設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
(☞ 68ページ)

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■IPoA 接続（DHCP型）の場合

ADSL 接続でプロバイダの DHCP サーバから MN7530にIP アドレスを割り当ててもらいインターネットに接続します。インターネットの接続の設定は、次の手順に従ってください。

1 基本設定 を選ぶ

現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「IPoA 接続（DHCP型）」**を選ぶ

3 プロバイダから指定がある場合は**「デバイス名」**※、**「ゲートウェイ」**、**「DNS サーバ 1、2」**、**「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18 ページ）を元に入力してください。
元の設定に戻すには、取り消し をクリックしてください。

プロバイダから指定がある時に入力

デバイス名	
ゲートウェイ	
DNS サーバ1	
DNS サーバ2	
ドメイン名	

保存　取り消し　戻る

※「デバイス名」とは、プロバイダによってはパソコンのコンピュータ名入力欄に入力する ID と指示されている場合があります。

4 設定値の入力を終えたら、保存 をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

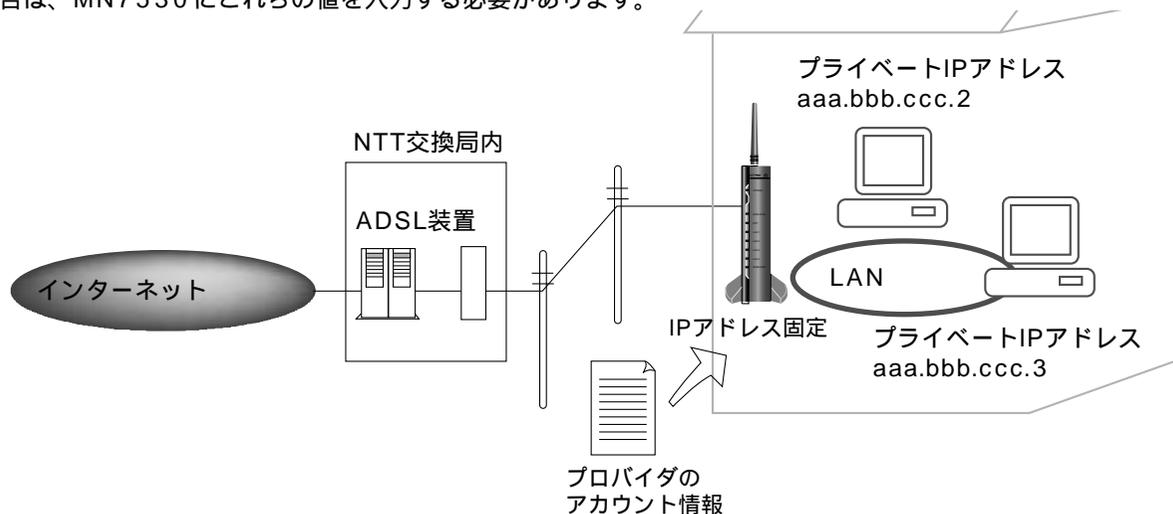
5 Web 設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
（☞ 68 ページ）

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■IPoA接続（固定型）の場合

プロバイダからのアカウント情報にIPアドレスやゲートウェイアドレス等の値を入力するように指示がある場合は、MN7530にこれらの値を入力する必要があります。

1 基本設定 を選ぶ

現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「IPoA接続（固定型）」**を選ぶ

3 **「IP アドレス」、「ネットマスク」、「ゲートウェイ」、「DNS サーバ 1、2」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18ページ）を元に入力してください。
元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

基本設定

IP アドレス

ネットマスク

ゲートウェイ

DNS サーバ1

DNS サーバ2

プロバイダから指定がある時に入力

ドメイン名

保存　取り消し　戻る

4 設定値の入力を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

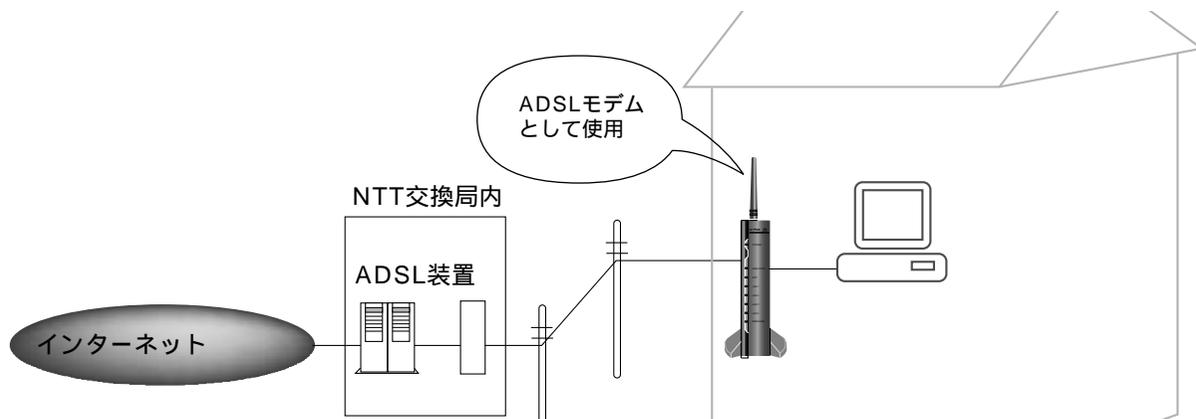
5 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
（☞ 68ページ）

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■モデムブリッジ接続の場合

ルータ機能をカットして、ADSL モデムとして利用できます。これにより、Windows XP に搭載されている広帯域（PPPoE）接続などを利用して、ネットワークゲームやチャットなどを利用できます。ADSL モデムブリッジ接続を使用するインターネット接続サービスをご利用になる場合は、次の手順に従ってください。

1 基本設定 を選ぶ

現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「モデムブリッジ接続」**を選ぶ

3 保存 をクリックする

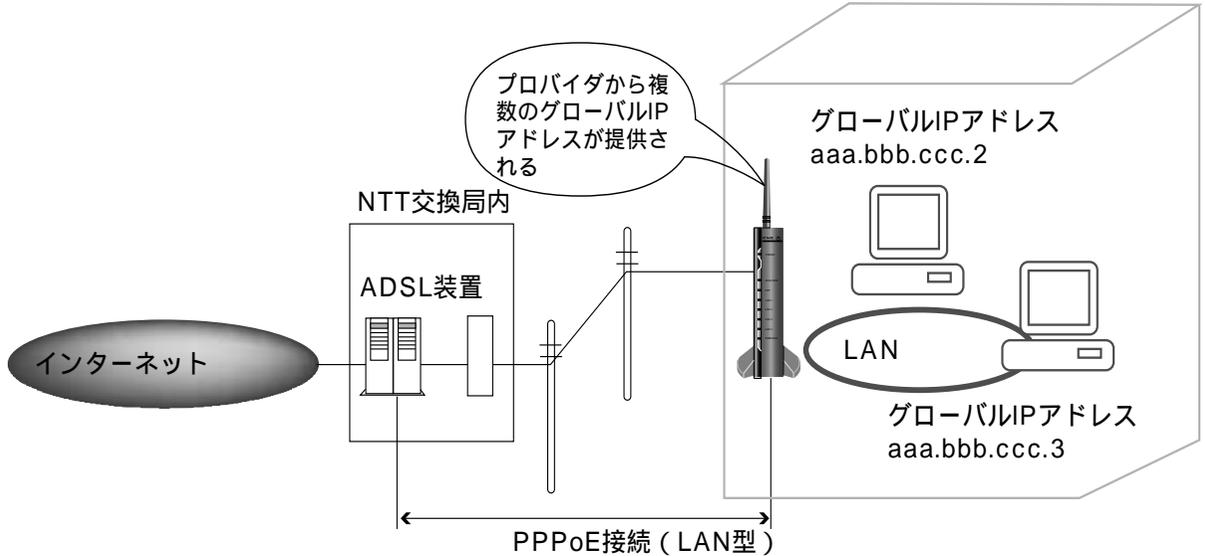
4 Web設定画面に再起動が表示されたら、それをクリックする

5 接続している外部機器（ルータやパソコン）を再起動する

パソコンにIPアドレス（例192.168.0.200）を設定してください。（☞ 120ページ）
その後、フレッツ接続ツールなどを使ってパソコンをインターネットに接続してください。

- モデムブリッジ接続では、ADSLモデム機能しか動作しません。MN7530本体のプロトコル接続処理（PPPoE、PPPoA、IPoA）は機能しませんので、必ずホーム側に接続している機器（パソコン等）でプロバイダに対応したインターネット接続の設定をおこなってください。詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。
- 接続先のインターネット・サービス・プロバイダにより設定内容は異なります。詳しくはプロバイダの提供する設定マニュアルをご参照ください。
- モデムブリッジを選択し再起動した場合、本体DHCPサーバ機能が動作しません。次回MN7530設定ページにアクセスする場合は、「オプション設定」－「IPアドレス（ホーム側）DHCPサーバ」のページで選択したIPアドレス（ホーム側）設定のアドレス（初期値192.168.0.1）と同じセグメントグループで未使用固定IPアドレス（例192.168.0.200）を直接パソコンに設定してください。（☞ 120ページ）
- MN7530に外部機器（ルータやパソコン）を接続するときは、基本的に1対1で接続してください。複数台の外部機器を接続して同時にインターネットにアクセスすることはできません。
- モデムブリッジ接続の場合は、ADSL事業者の種別に関係なくモデム設定の「ATMカプセル化方式の設定」で必ず「LLC方式」を選んでください。（☞ 44ページ）

■PPPoE接続（LAN型）の場合

PPPoE 接続（LAN 型）は、複数のグローバルIP アドレスをプロバイダから提供される接続形態です。
PPPoE 接続（LAN 型）の設定は、次の手順に従ってください。
LAN 型接続のホームネットワークの設定については、117 ページを参照してください。

1 基本設定 を選ぶ

基本設定画面では、「PPPoE 接続（端末型）」が標準設定です。
現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「PPPoE 接続（LAN 型）」**を選ぶ

3 **「ユーザ名」、「パスワード」、「DNS サーバ 1」、「IP アドレス」、「ネットマスク」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「DNSサーバ 2」、「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18ページ）を元に入力してください。

ルータ本体のIPアドレスについて
プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスの1つを「ルータ本体のIPアドレス」に入力してください。ルータからインターネット側に直接送信するときに、このIPアドレスを送信元IPアドレスとして使います。

元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「DNSサーバ 2」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力の必要はありません。

4 設定を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

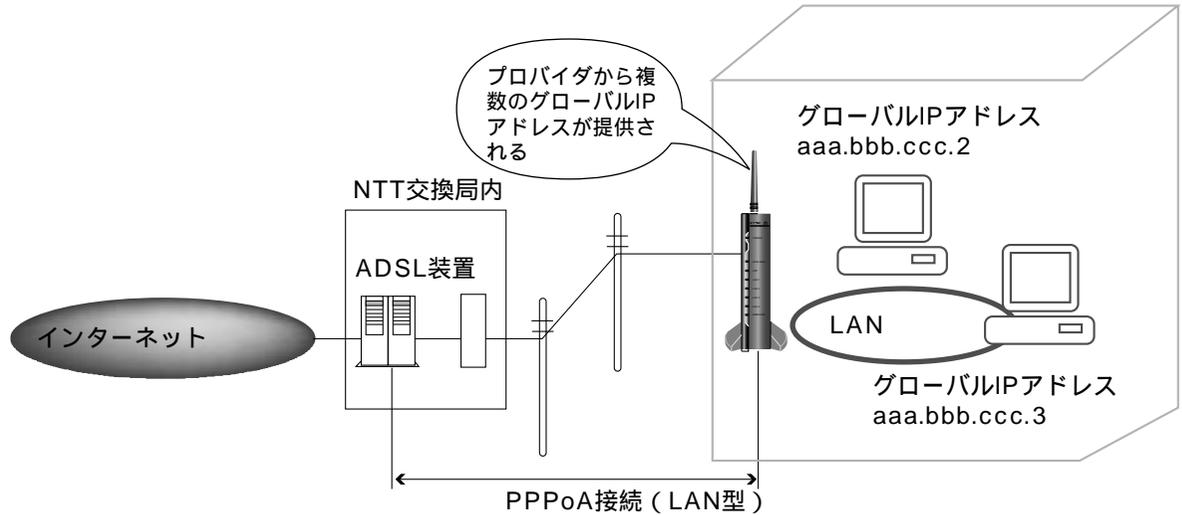
5 Web設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
（☞ 68ページ）

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■PPPoA接続（LAN型）の場合

PPPoA接続（LAN型）の設定は、次の手順に従ってください。
LAN型接続のホームネットワークの設定については、117ページを参照してください。

1 基本設定 を選ぶ

現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「PPPoA接続（LAN型）」**を選ぶ

3 **「ユーザ名」、「パスワード」、「DNS サーバ 1」、「IP アドレス」、「ネットマスク」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は、**「DNS サーバ 2」、「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18ページ）を元に入力してください。

ルータ本体のIP アドレスについて
プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスの1つを「ルータ本体のIPアドレス」に入力してください。ルータからインターネット側に直接送信するときに、このIPアドレスを送信元IP アドレスとして使います。

元の設定に戻すには、取り消し をクリックしてください。

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「DNSサーバ 2」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力の必要はありません。

4 設定を終えたら、保存 をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

5 Web設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
（☞ 68ページ）

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

3-3 インターネット接続の設定をする（CATV、光ケーブル等で接続の場合）

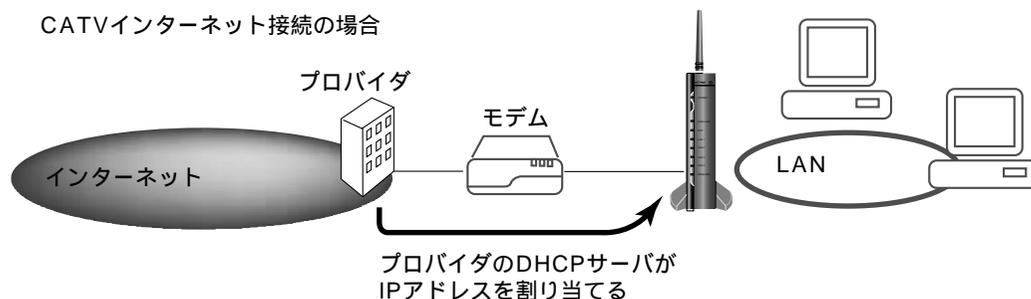
本製品をインターネットに接続するための接続方法としては、次の４種類に分けられます。※

- CATVインターネット接続（DHCP接続）（下記参照）
- IPアドレス固定のインターネット接続（Static接続）（☞ 62ページ）
- PPPoE（端末型）接続（☞ 64ページ）
- PPPoE（LAN型）接続（☞ 66ページ）

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18 ページ）を参照して、本製品をインターネットに接続してください。

※ インターネットの接続方法が、DHCP 接続、Static 接続、PPPoE 接続（端末型）、PPPoE 接続（LAN型）のどれに該当するか等、サービス内容や契約内容に関して、詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

■CATVインターネット接続（DHCP接続）の場合

CATV インターネット接続（IP アドレスを自動的にプロバイダから割り当ててもらう）は、次の手順に従ってください。

1 基本設定 を選ぶ

基本設定画面では、「DHCP接続」が標準設定です。
現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「DHCP接続」**を選ぶ

3 プロバイダから指定がある場合は **「デバイス名」**※、**「ゲートウェイ」**、**「DNS サーバ 1、2」**、**「ドメイン名」** を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18 ページ）を元に入力してください。
元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

プロバイダから指定がある時に入力

デバイス名
ゲートウェイ
DNS サーバ1
DNS サーバ2
ドメイン名

保存　取り消し　戻る

※「デバイス名」とは、プロバイダによってはパソコンのコンピュータ名入力欄に入力する ID と指示されている場合があります。

4 設定値の入力を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

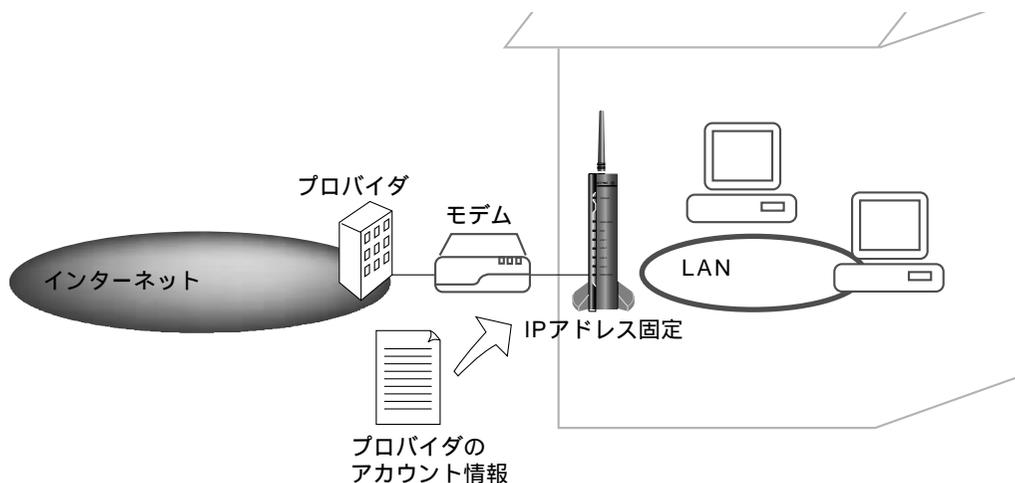
5 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
（☞ 68 ページ）

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■IPアドレス固定のインターネット接続（Static接続）の場合

プロバイダからのアカウント情報にIPアドレスやゲートウェイアドレス等の値を入力するように指示がある場合は、MN7530にこれらの値を入力する必要があります。

1 基本設定 を選ぶ

現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「Static接続」**を選ぶ

3 **「IP アドレス」**、**「ネットマスク」**、**「ゲートウェイ」**、**「DNS サーバ 1、2」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18ページ）を元に入力してください。
元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

基本設定

IP アドレス

ネットマスク

ゲートウェイ

DNS サーバ1

DNS サーバ2

プロバイダから指定がある時に入力

ドメイン名

保存　取り消し　戻る

4 設定値の入力を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

5 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
（☞ 68ページ）

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1〜4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■PPPoE接続（端末型）の場合

PPPoE 接続（端末型）の設定は、次の手順に従ってください。

1 基本設定 を選ぶ

現在の選択項目の横に○が表示されます。

2 **「PPPoE 接続（端末型）」**を選ぶ

3 **「ユーザ名」**、**「パスワード」**、**「DNS サーバ 1」** を入力し、プロバイダから指定がある場合は **「サービス名」**、**「アクセスコンセントレータ名」**、**「DNS サーバ 2」**、**「ドメイン名」** を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」(☞ 18 ページ)を元に入力してください。
元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

基本設定

ユーザ名
パスワード

プロバイダから指定がある時に入力

サービス名
アクセス
コンセントレータ名
DNS サーバ1
DNS サーバ2
ドメイン名

保存　取り消し　戻る

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「DNS サーバ 2」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力の必要はありません。

4 設定を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

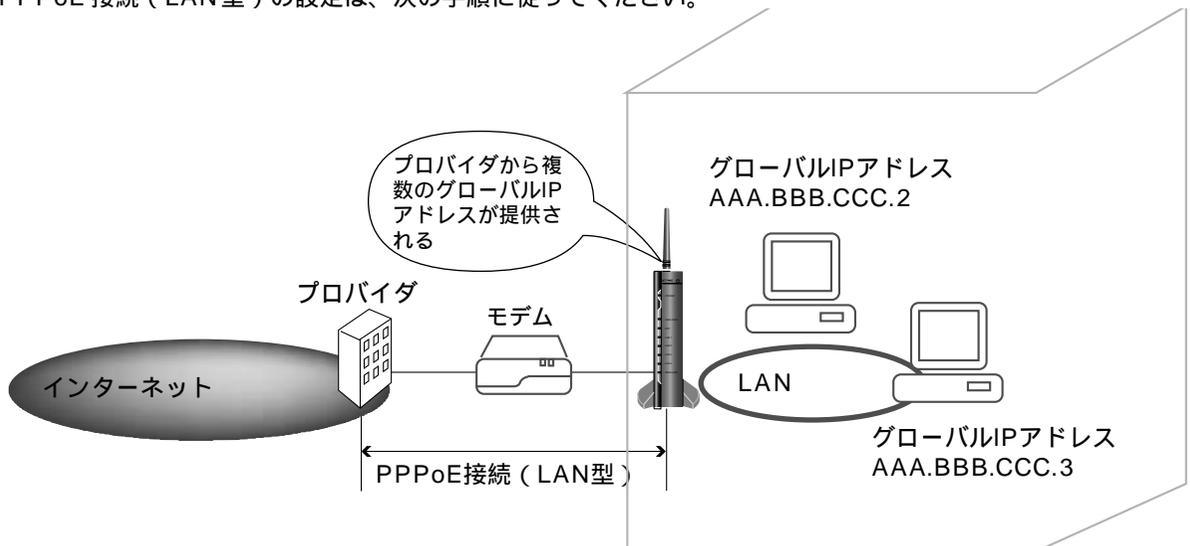
5 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

6 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

次にインターネットへの接続を確認してください。
(☞ 68 ページ)

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1〜4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■PPPoE接続（LAN型）の場合

PPPoE 接続（LAN 型）は、複数のグローバルIP アドレスをプロバイダから提供される接続形態です。
PPPoE 接続（LAN 型）の設定は、次の手順に従ってください。

1 **「PPPoE 接続（LAN 型）」**を選ぶ

2 **「ユーザ名」**、**「パスワード」**、**「DNS サーバ 1、2」**、**「IP アドレス」**、**「ネットマスク」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「サービス名」**、**「アクセスコンセントレータ名」**、**「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 18ページ）やアカウント情報を元に入力してください。

ルータ本体のIPアドレスについて
プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスの１つを「ルータ本体のIPアドレス」に入力してください。ルータからインターネット側に直接送信するときに、このIPアドレスを送信元IPアドレスとして使います。

元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

基本設定

ユーザ名
パスワード

プロバイダから指定がある時に入力

サービス名
アクセスコンセントレータ名
DNS サーバ1
DNS サーバ2
ドメイン名

ルータ本体のIPアドレス

IP アドレス
ネットマスク

保存　取り消し　戻る

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力しないでください。

3 設定を終えたら、**保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなる可能性があります。

4 Web設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

5 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをLAN1～4ジャックに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

3-4 インターネットへの接続を確認する

■設定の確認

インターネットに接続するための設定が終わったら、インターネット上のWWW（ワールド ワイド ウェブ）サイトにアクセスしてください。WWWサイトが表示されたら、インターネットに接続されたことになります。

1 WWWブラウザを起動する

2 WWWブラウザのアドレスバーにWWWサイトのアドレス（例 http://www.ntt-me.co.jp/）を入力する

WWWサイトが表示されます。

■ WWWサイトが表示されなかった場合（詳細は134ページを参照してください。）

- WWWサイトのアドレスがWWWブラウザのアドレスバーに正しく入力されているか、確認してください。
- 「MN7530にアクセスする」（☞ 42ページ）をおこなったか、確認してください。
- MN7530をADSL回線に接続している場合は、MN7530と電話コンセントの接続を確認してください。また、ADSL/WAN切替スイッチがADSL側にセットされているか確認してください。
- MN7530をADSL回線に接続している場合は、ADSL/WANインジケーターの状態を確認してください。ADSL/WANインジケーターの点滅が長く続いている場合は、ADSLモデムの設定が適切におこなわれていない可能性があります。ADSLモデムの設定を確認してください。（☞ 44ページ）
- MN7530を光ケーブルやCATV回線に接続している場合は、MN7530と光ケーブルの回線終端装置やCATVのモデムとの接続を確認してください。また、ADSL/WAN切替スイッチがWAN側にセットされているか確認してください。
- フレッツADSLなどのPPPoE接続や多くの事業者が採用しているPPPoA接続等のPPP接続の場合は、PPPインジケーターの状態を確認してください。PPPインジケーターが消灯しているか赤色に点灯している場合は、基本設定画面で「PPPoE接続（端末型）」や「PPPoA接続（端末型）」が選択されているか確認した上で、「ユーザ名」や「パスワード」を確認してください。
- パソコン、MN7530、その他の機器の電源を適切な順番で入れたか、確認してください。詳細は、「電源を入れる」（☞ 29ページ）を参照してください。
- プロバイダから受け取ったインターネットへの接続に関する情報を確認してください。設定値を入力する必要があれば、「インターネット接続の設定をする」（☞ 44、60ページ）を参照し、MN7530に設定値を入力してください。
- モデムブリッジ接続の場合は、モデム設定の「ATMカプセル化方式の設定」で「LLC方式」が選ばれていることを確認してください。選ばれていない場合は、必ず「LLC方式」を選んでください。（☞ 44ページ）

ＭＮ７５３０の各機能

ＭＮ７５３０の各機能について説明しています。

必要に応じてお読みください。

接続設定

☞ ７２～８１ページ

インターネットへの接続や無線ネットワークの接続の設定を説明しています。

拡張機能

☞ ８２～９９ページ

ルータの詳細な設定やセキュリティの設定を説明しています。**WWW サーバを立ち上げる時以外は設定の必要はありません。**

管理コマンド

☞ １００～１０７ページ

ネットワークを管理するために必要な機能を説明しています。

情報表示

☞ １０８～１１０ページ

ＭＮ７５３０の接続状況等を表示する機能を説明しています。

MN7530 の Web 設定画面について

MN7530 の設定は、パソコンから WWW ブラウザを使っておこなうことができます。※
各項目ごとに操作に関するヘルプ画面を参照できます。なお、内蔵の ADSL モデムを使っている／いないで表示される画面が異なります。

MN7530 内蔵のADSL モデムを使っている場合

【接続設定】

① **モデム設定：**	内蔵モデムの設定をします。
② **基本設定：**	インターネットにアクセスするための基本的な設定をします。
③ **無線設定：**	無線ネットワークの設定とセキュリティの設定をします。

【拡張機能】

④ **アドレス変換：**	アドレス変換はプロバイダから提供されたグローバル IP アドレスとプライベート IP アドレスを相互変換して、インターネットよりホームネットワークに接続しているパソコンを接続する機能です。
⑤ **フィルタリング設定：**	ファイアウォールの機能の一つで、送信しているデータの IP アドレス、ポート番号、プロトコルを元に通過・遮断するパケットを判断します。
⑥ **オプション設定：**	ホームネットワークにアクセスするための設定とインターネットにアクセスするための詳細な設定をします。

※ Web設定画面は、実際のものと異なる場合があります。

MN7530内蔵のADSLモデムを使っていない場合

【管理コマンド】

⑦ **Ping：** IPアドレスを持った機器がMN7530に接続されているか、確認します。※1

⑧ **ループバック：** ADSL接続で電話局やプロバイダへの接続テストをおこないます。

⑨ **再起動：** MN7530を再起動します。

⑩ **初期化：** MN7530を初期化します。設定値は工場出荷時に設定されている標準設定値に設定されます。

⑪ **パスワード変更：** MN7530のWeb設定画面にアクセスするためのユーザ名・IDやパスワードを変更します。

⑫ **ファームウェアの更新※2：** MN7530のファームウェアを最新版に更新します。

⑬ **PPP接続：** プロバイダへのPPPoEやPPPoA接続を手動で開始または停止します。

【情報表示】

⑭ **ステータス：** 回線接続状態等の情報を表示します。

⑮ **使用状況：** MN7530のデータの通信状態を表示します。

⑯ **ログ表示：** MN7530が取得している各種ログを表示します。

⑰ **ヘルプ：** MN7530のWeb設定画面のコマンドや機能について説明します。

※1 MN7530（192.168.0.1）自身へのPingは、この画面上からはできません。

※2 この機能を使って最新のファームウェアをダウンロードするには、インターネットへの接続が必要になります。

モデム設定（内蔵モデムを使って ADSL 接続する場合のみ）

本製品を内蔵のモデムを使ってADSL回線に接続している場合は、モデムの設定が必要になります。MN7530内蔵のモデムを設定するには、次の手順に従ってください。

1 [モデム設定] をクリックする

それぞれの入力欄については、次ページを参照してください。

2 インターネット接続のためのアカウント情報を元に**ADSL モード基本設定**を選ぶ

3 データ入力欄に **VPI**と **VCI**の値を入力する

元の設定に戻すには、[取り消し] をクリックする

4 **ATM カプセル化方式の設定**を選ぶ

5 設定値の入力を終えたら、[保存] をクリックする

設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

6 Web設定画面に [再起動] が表示されたら、それをクリックする

データ入力欄について

<モデムの設定>
モデムの設定はプロバイダや回線接続業者によって異なります。プロバイダや回線接続業者からの設定情報や「対応／認定 ADSL 事業者別のインターネット接続設定方法」（別紙）を見て、接続方法を確認してください。詳しくはご契約の回線接続業者にお問い合わせください。

ADSL 接続 ● **ADSL モード基本設定** **G.lite (1.5Mbps) 優先** **G.dmt (8 Mbps) 優先** ● **VPI** ● **VCI** ● **ATM カプセル化方式の設定** **LLC 方式** **VC マルチプレクス方式**	内蔵の ADSL モデムを使う場合、これらの設定が必要になります。 回線接続業者やプロバイダからの情報を参照の上、ADSL モード基本設定、VPI、VCI、ATM カプセル化方式を設定してください。 なお、ADSL モード基本設定は、どちらが選ばれていても自動的に接続します。適切に選択されていると、接続時間が短縮します。

基本設定

プロバイダから､インターネット接続のため､パスワード等を入力するように指示される場合があります。MN7530 を設定するには､次の手順に従ってください｡なお､内蔵の ADSL モデムを使っている／いないに応じて基本設定の画面が変わりますが､操作手順は同じです。

1 基本設定 をクリックする

それぞれの入力欄については、次ページを参照してください。

2 インターネット接続のためのアカウント情報を元に接続方法を選ぶ

3 データ入力欄に設定値を入力する

元の設定に戻すには、取り消し をクリックする

4 設定値の入力を終えたら、保存 をクリックする

設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

5 Web 設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているパソコンも再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

データ入力欄について

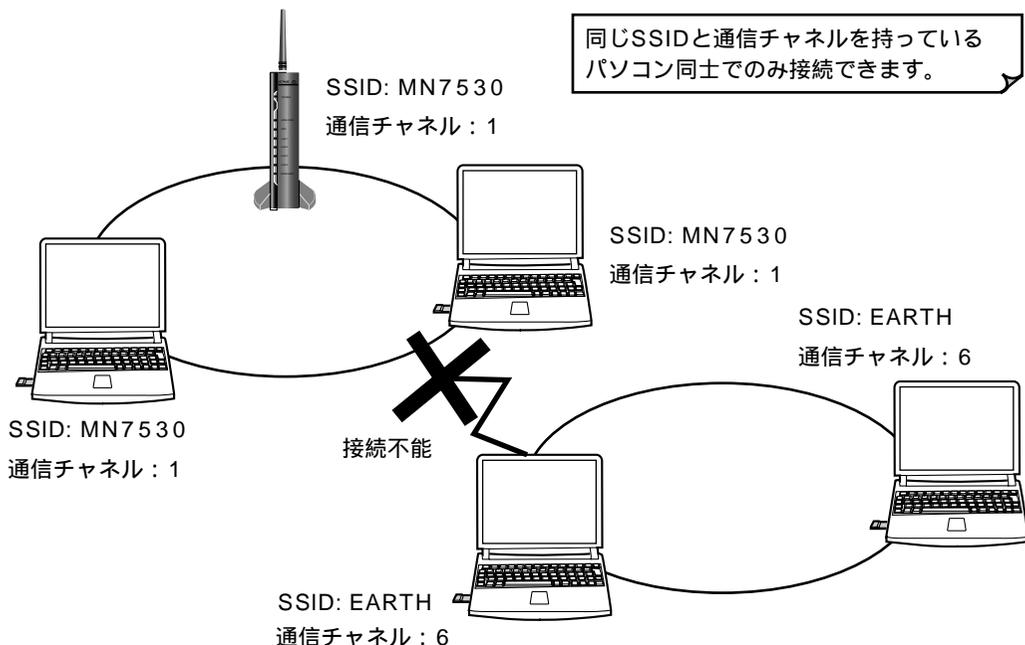
データ入力欄に設定する内容がない場合は、空欄のままにしてください。

<インターネットへの接続>
インターネットへの接続方法はプロバイダによって異なります。プロバイダからの設定情報を見て、接続方法を確認してください。次に、MN7530のWeb設定画面上で、PPPoE接続（端末型／LAN型）、PPPoA接続（端末型／LAN型）、DHCP接続／IPoA接続（DHCP型）、Static接続／IPoA接続（固定型）、モデムブリッジ接続の中から接続方法※を選び、必要に応じて設定値を入力してください。

※ インターネットの接続方法が、PPPoE接続、PPPoA接続、DHCP接続／IPoA接続（DHCP型）、Static接続／IPoA接続（固定型）のどれに該当するか等、サービス内容や契約内容に関して、詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

PPPoE接続（端末型／LAN型） **● ユーザ名／パスワード** **● サービス名** **● アクセスコンセントレータ名** **● DNSサーバ1／DNSサーバ2** **● ドメイン名** **● ルータ本体のIPアドレス**	通常のPPPoE接続をする場合、これらのデータ入力欄の入力が必要になります。 プロバイダのアカウント情報を参照の上、ユーザ名とパスワードを入力してください。 プロバイダ等から指定がある場合は、サービス名、アクセスコンセントレータ名、DNSサーバ1、DNSサーバ2、ドメイン名を入力してください。
PPPoA接続（端末型／LAN型） **● ユーザ名／パスワード** **● DNSサーバ1／DNSサーバ2** **● ドメイン名** **● ルータ本体のIPアドレス**	通常のPPPoA接続をする場合、これらのデータ入力欄の入力が必要になります。 プロバイダのアカウント情報を参照の上、ユーザ名とパスワードを入力してください。 プロバイダ等から指定がある場合は、DNSサーバ1、DNSサーバ2、ドメイン名を入力してください。
DHCP接続／IPoA接続（DHCP型） **● デバイス名** **● ゲートウェイ** **● DNSサーバ1／DNSサーバ2** **● ドメイン名**	プロバイダがDHCPサーバ機能を利用している場合、基本的に設定値の入力は必要ありませんが、デバイス名、ゲートウェイ、DNSサーバ1、DNSサーバ2、ドメイン名の入力を求められる場合があります。プロバイダのアカウント情報を参照の上、必要に応じて入力してください。
Static接続／IPoA接続（固定型） **● IPアドレス** **● ネットマスク** **● ゲートウェイ** **● DNSサーバ1／DNSサーバ2** **● ドメイン名**	プロバイダがIPアドレスを指定してきた場合、IPアドレス、ネットマスク（サブネットマスク）、ゲートウェイ、DNSサーバ1、DNSサーバ2を入力してください。 プロバイダ等から指定がある場合は、ドメイン名を入力してください。
モデムブリッジ接続	モデムブリッジ接続では、ADSLモデム機能しか動作しません。MN7530本体のプロトコル接続処理（PPPoE、PPPoA、IPoA）は機能しませんので、必ずホーム側に接続している機器（パソコンなど）でプロバイダに対応したインターネット接続の設定をおこなってください。

無線設定

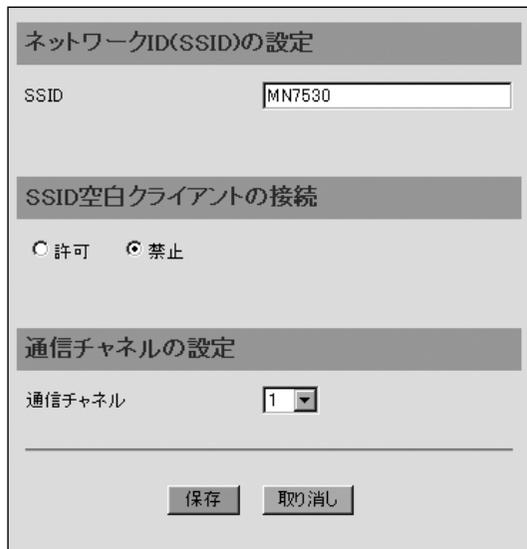
無線設定画面では、MN7530 を無線ネットワークに接続するための設定やセキュリティの設定をおこないます。無線ネットワークでは、テレビやトランシーバーと同じように電波を使い、通信チャネルを選択して通信します。また、ネットワークに名前（SSID）をつけます。同じ SSID と通信チャネルの機器同士でのみ接続することができます。無線ネットワークに接続する機器には同じ SSID と通信チャネル※を設定してください。

無線ネットワークでは、電波を使って通信をおこなうため、他人がネットワークに侵入したりする可能性がありますので、セキュリティの設定をおこなうことをおすすめします。(☞ 116ページ)

1 MN7530 の Web 設定画面上の **無線設定** をクリックする

それぞれの入力欄については、77ページを参照してください。

※ MN7530 に接続する無線 LAN の端末は、MN7530 と同じ SSID が設定されていれば通信チャネルを自動的に合わせて通信することができます。

2 **SSID 入力欄**に SSID を入力し、**「SSID 空白クライアントの接続」** と **「通信チャネル」** を選ぶ

元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックする
MN7530 に接続する無線 LAN の端末にも同じ SSID を入力してください。

ネットワークID(SSID)の設定
SSID MN7530

SSID空白クライアントの接続
○許可 ◉禁止

通信チャネルの設定
通信チャネル 1

保存 取り消し

3 設定を終えたら、**保存** をクリックする

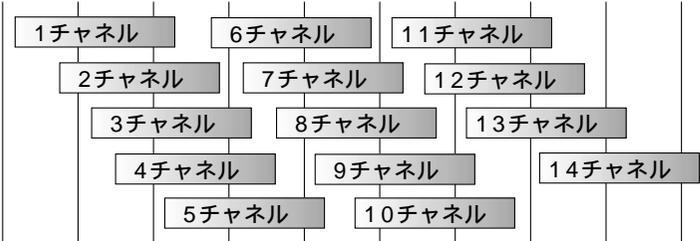
設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

4 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

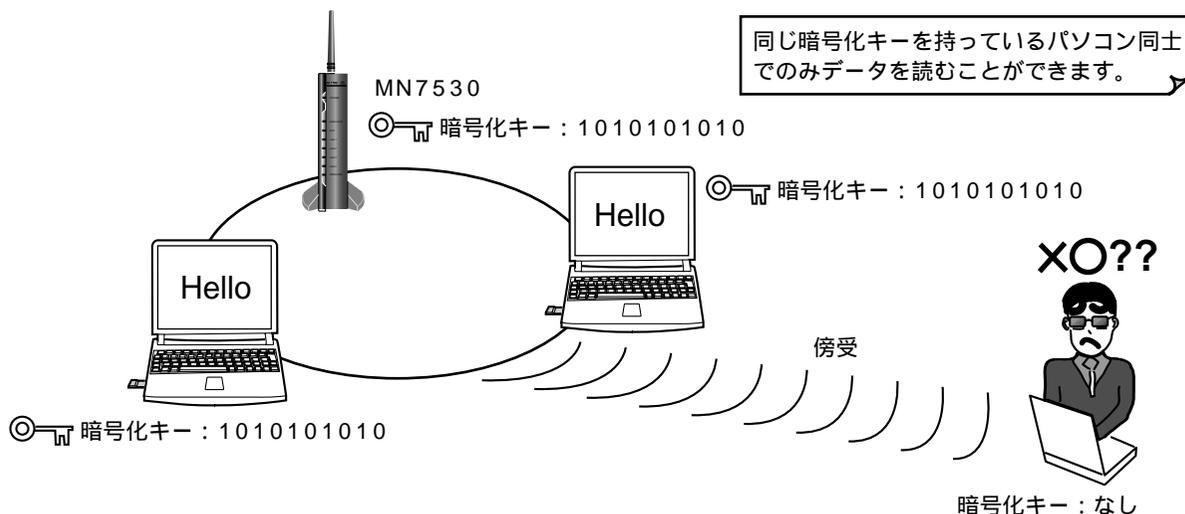
無線カード（PCMCIA または USB）が同梱されたセットをお使いの場合、MN7530 のネットワーク ID（SSID）の初期値と無線カードの初期値が異なります。無線カードの初期値を MN7530の初期値に合わせてください。

データ入力欄について

項目	説明
SSID	無線ネットワークでは、ネットワークに名前をつけます。この名前を SSID（ESSID）と呼びます。SSID は無線ネットワークに接続できる各機器に設定し、同じ SSID を持つ機器同士でのみ通信ができます。SSID の入力では、次の規則に従ってください。 （標準で“ MN7530 ”が入力されています。） ● 半角英数字しか入力できません。 ● 英字の大文字と小文字は区別されます。 （例）:“ TOM ”と“ tom ”は異なる名前と認識される ● 32 文字まで入力できます。
SSID 空白クライアントの接続	**「許可」**を選ぶと、SSIDに“ ANY ”もしくは未入力のパソコンが接続できます。（MN7530 の SSID の値が該当するパソコンの SSID の設定値になります。）セキュリティ上**「禁止」**を選ぶことをおすすめします。
通信チャネル	ネットワーク内で通信するチャネルを設定します。1 ～ 14 の中から選びます。（標準で 1 が選択されています。）複数の無線ネットワークで通信チャネルが重なると通信速度が下がる場合があります。その場合は、通信チャネルが重ならないように通信チャネルを変更してください。 1チャネル 6チャネル 11チャネル 2チャネル 7チャネル 12チャネル 3チャネル 8チャネル 13チャネル 4チャネル 9チャネル 14チャネル 5チャネル 10チャネル 2400MHz 2500MHz

必要に応じて「暗号化」や「MACアドレスフィルタリング」を設定してください。通信データを暗号化するには「無線設定」画面の上の「暗号化」をクリックしてください。（☞ 78ページ）MN7530に登録した無線 LAN カード以外が接続できないようにするには、「MAC アドレスフィルタリング」をクリックしてください。（☞ 80ページ）

■暗号化設定

無線ネットワーク内で通信するデータを暗号化することができます。暗号化をおこなうと、万一無線ネットワークのデータを他人に読まれても解読することが困難になります。暗号化は無線ネットワークの全てのパソコンが同じ暗号化キーを登録しておこないます。

また、暗号化設定時の認証方式として Shared Key 方式だけでなく、Open System 方式（IBM ThinkPad Series s30 やメルコWLI-PCM-L11を使っている無線端末など）にも対応しています。認証方式の切替えは MN7530 が端末に合わせて自動でおこないます。無線端末の認証方式を意識することなく暗号化設定をおこなうことができます。

暗号化キーはキーワードを元に作成します。暗号化キーは 40(64)bitと 128bit の 2 種類あります。128bit の暗号化キーはさらに安全性が高まります。

1 暗号化 をクリックする

2 **「有効（40/(64)bit)」**か**「有効（128bit)」**を選ぶ

「有効（40/(64)bit)」を選んだ場合は、**「標準キー」**を 1 つ選んでください。パソコンにも、MN7530 と同じ 40bit キーを設定し、同じ標準キーを選んでください。

3 **「入力選択」**で**「自動（キーワード入力)」**か**「手動（16進数入力)」**選ぶ

異なる機種の無線LANカードと同じ暗号化キーで接続するには、「手動（16進数入力)」を選んでください。

4 **「キーワード」**を入力して、[保存]をクリックする

異なる機種の無線LANカードと同じ暗号化キーで接続するには、[手動設定]を選び10桁（40/(64)bitの場合）か26桁（128bitの場合）の16進数を入力して（☞ 80ページ）[保存]をクリックしてください。

- **保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなる可能性があります。**
- 設定内容は、MN7530を再起動すると＊（アスタリスク）で表示され、わからなくなります。必ずメモに記録しておき大切に保管してください。

5 設定内容を確認の上、[再起動]をクリックする

データ入力欄について

暗号方式	暗号化キーのビット数を選びます。無効 → 有効（40/(64)bit）→ 有効（128bit）の順で安全性が高まりますが、反対に通信速度が若干低下します。
標準キー	暗号化キーで 40(64)bit を選んだ場合は、4 つの標準キーの内の 1 つを選びます。
入力選択	接続する無線LANカードの機種により同じ暗号化のキーワードを入力しているにもかかわらず、異なる暗号化キーを生成してしまい接続ができない場合があります。その場合は、“手動（16進数入力）”を選びます。通常は“自動（キーワード入力)”を選びます。
キーワード	暗号化キーを生成する文字を半角英数字 31 文字以内で入力してください。 英字は大文字と小文字の区別があります。

手動設定について

異なる機種の無線 LAN カードに接続する時は、無線 LAN カードによって同じ暗号のキーワードを入力しても別の暗号化キーが生成されます。その場合は、手動設定で暗号化キーを入力してください。通信したいパソコンと全く同じ暗号化キーを入力してください。40(64)bitの場合は、4 つのキーの各々に10桁の 16 進数の同じ値を入力し、標準キーを選んでください。パソコンにも、MN7530と同じ 40(64)bitキーを設定し、標準キーを選んでください。128bit の場合は、1つのキーに26 桁の 16 進数の同じ値を入力してください。

	MN7530の暗号化キー (40/(64)bit)		パソコンの暗号化キー (40/(64)bit)
キー1	A1 A1 A1 A1 A1		A1 A1 A1 A1 A1
キー2	B1 B1 B1 B1 B1 (標準キー)	○ 解読可能	B1 B1 B1 B1 B1 (標準キー)
キー3	12 34 56 78 9A		12 34 56 78 9A
キー4	AB CD EF 01 23		AB CD EF 01 23

	MN7530の暗号化キー (40/(64)bit)		パソコンの暗号化キー (40/(64)bit)
キー1	A1 A1 A1 A1 A1		A1 A1 A1 A1 A1 (標準キー)
キー2	B1 B1 B1 B1 B1 (標準キー)	○ 解読可能	B1 B1 B1 B1 B1
キー3	12 34 56 78 9A		12 34 56 78 9A
キー4	AB CD EF 01 23		AB CD EF 01 23

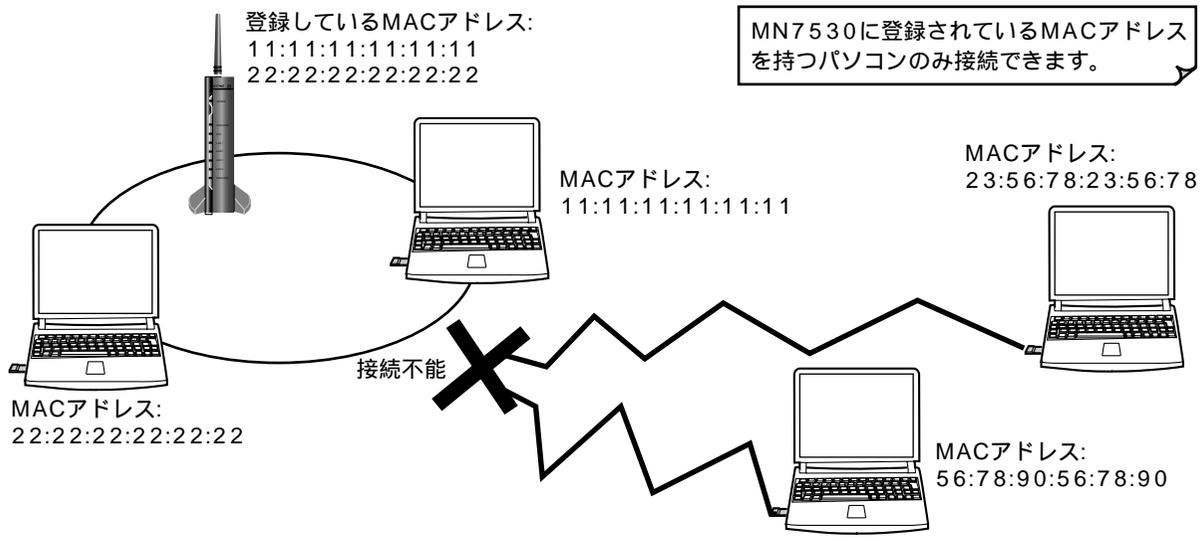
	MN7530の暗号化キー (40/(64)bit)		パソコンの暗号化キー (40/(64)bit)
キー1	A1 A1 A1 A1 A1		44 44 44 44 44 (標準キー)
キー2	B1 B1 B1 B1 B1 (標準キー)	× 解読不可能	00 00 00 00 00
キー3	12 34 56 78 9A		12 34 56 78 9A
キー4	AB CD EF 01 23		AB CD EF 01 23

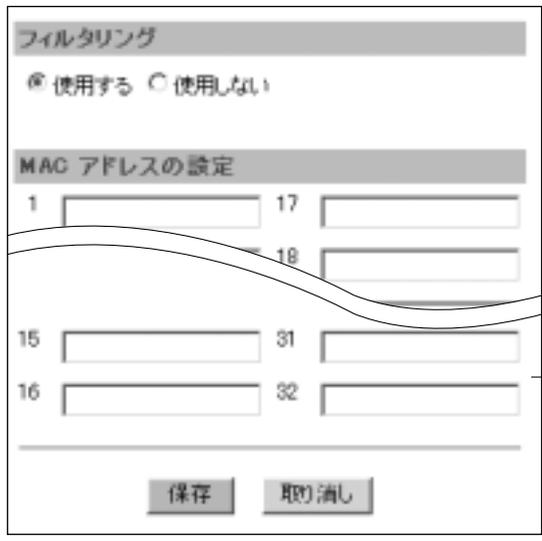
標準キーに対応した暗号化キーがそれぞれ異なるので解読できない。

10 進数では 0 ～ 9 の 10 個の文字を使ってすべての数を表現しますが､16 進数では 16 個の文字で数を表現します。16 進数の 0 から 9 までは 10進数で使う 0 ～ 9 の文字を使います。10 ～ 15 は A ～ F の文字を使います。16 進数と 10 進数の対応は次のようになります。

10 進数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
16 進数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F

■MACアドレスフィルタリング登録

MN7530 に接続できるパソコンを制限することができます。各パソコンのネットワークカードにはそのネットワークカードに固有の MAC アドレスが登録されています。そのMAC アドレスの値を「MAC アドレスフィルタリング登録」に登録すると、登録した MAC アドレスを持つパソコン以外は MN7530 に接続できなくなります。なお、各パソコンの MACアドレスの確認のしかたは「パソコンのIP アドレスやMACアドレスを確認するには」(☞ 130ページ)を参照してください。

1 MACアドレスフィルタリング をクリックする

2 **「使用する」**を選ぶ

3 MAC アドレスをデータ入力欄に入力する

半角数字と A～Fまたはa～fを２文字ずつ：で区切って入力してください。

4 保存 をクリックする

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

5 設定内容を確認の上、再起動 をクリックする

アドレス変換

アドレス変換画面では、プロバイダから提供されるグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスを相互変換してインターネットの端末からホームネットワークにアクセスするための詳細な設定をおこないます。通常は、次のような条件でホームネットワークを設定する以外は変更しないでください。

- 一部のネットワークゲームやメッセージングツールを使う。
- WWWサーバやメールサーバを立ち上げる。

1 MN7530のWeb設定画面上の アドレス変換 をクリックする

2 「アドレス変換」で**「使用する」**か**「使用しない」**を選ぶ

通常は**「使用する」**を選んでください。
プロバイダから提供される1個のIPアドレスを利用して静的IPマスカレードの設定をする場合は、**「使用する」**を選んで、 端末型 をクリックしてください。(☞ 83ページ)
プロバイダから複数のIPアドレスを取得し、LAN型で利用する場合は、「使用する」を選んで LAN型 をクリックしてください。(☞ 85ページ)

アドレス変換
有効/無効の設定 | 端 末 型 | L A N 型
アドレス変換の有効/無効の設定を行います。
有効/無効の設定
アドレス変換 ◉ 使用する ○ 使用しない
IPマスカレード、静的IPマスカレード機能、静的NAT機能を有効にする時に設定します。これらの機能を使用する場合には、"使用する"を選択してください。
保存 取り消し 戻る

3 設定を終えたら、 保存 をクリックする

設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなる可能性があります。

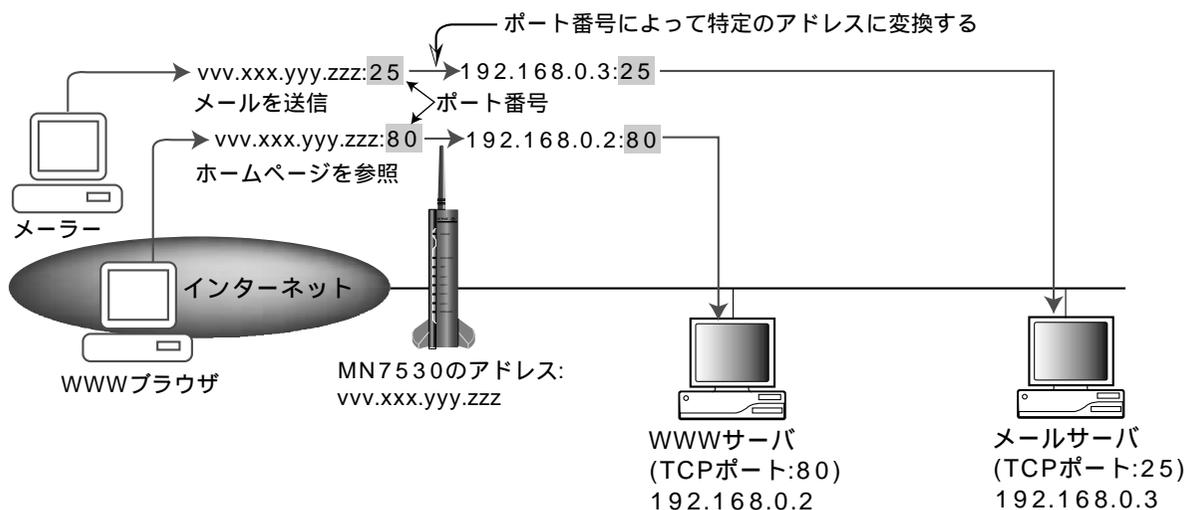
4 Web設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

アドレス変換を変更した場合、MN7530に接続しているパソコンの設定もおこない、パソコンを再起動してください。

＜端末型アドレス変換＞

静的IPマスカレード（ポートフォワーディング）

静的IPマスカレードのテーブル設定によって、インターネット上のアプリケーション（WWWブラウザやメーラー等）からホームネットワーク側の任意のパソコンを参照することができます。インターネット側の端末からアプリケーション（WWW ブラウザやメーラー等）を使ってホームネットワーク側のサーバに通信がおこなわれると、パケットが MN7530 に送られます。パケットにはアプリケーションが使用するポート番号が付いており、MN7530がパケットを特定のパソコン（メールサーバやWWW サーバ等）に転送します。静的IPマスカレードの機能を利用するには、アプリケーション（WWWブラウザやメーラー等）が利用するポート番号※を調べ転送対象ポート入力欄に入力し、転送先IP アドレス入力欄に対応するパソコン（メールサーバやWWW サーバ等）のIP アドレスを入力してください。

例えば、WWWサーバでホームページを公開する場合、WWWサービスポート番号（TCPプロトコル、ポート番号：80）とWWWサーバのパソコンのプライベートIP アドレスを入力してください。

設定例

プライベートIPアドレスが192.168.0.2のパソコンにWWWサーバを立ち上げてホームページを公開する場合、WWWサービスポート番号（TCPプロトコル、ポート番号：80）とWWWサーバのパソコンのプライベートIP アドレス（192.168.0.2）を入力してください。
プライベートIP アドレスが192.168.0.3のパソコンにメールサーバを立ち上げる場合、メールサービスポート番号（TCP プロトコル、ポート番号：25）とメールサーバのパソコンのプライベート IP アドレス（192.168.0.3）を入力してください。

	エントリ	プロトコル	転送対象ポート	転送先IPアドレス
1	有効	TCP	80	192.168.0.2
2	有効	TCP	25	192.168.0.3

- 安全のためにインターネット側からホームネットワーク側を参照できないようにフィルタリングの設定がおこなわれています。サーバを外部から参照させるには、該当するポート番号を通過させるフィルタを追加するか、エントリ番号60の項目を許可にしてください。(☞ 92、93ページ）
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

※ **主なアプリケーションとポート番号について**

WWWサーバ：TCP/UDP　80番、FTPサーバ：TCP/UDP　20番と21番、
Telnet：TCP/UDP　23番、SMTPサーバ：TCP/UDP　25番、POP3サーバ：TCP/UDP　110番

静的IPマスカレード(ポートフォワーディング)

	エントリ	プロトコル	転送対象ポート	転送先IPアドレス
1	無効			
2	無効			
3	無効			
4	無効			
5	無効			
6	無効			
7	無効			
8	無効			
9	無効			
10	無効			
11	無効			
12	無効			
13	無効			
14	無効			
15	無効			
16	無効			

● エントリ	“ 有効 ” あるいは、“ 無効 ” を選びます。“ 有効 ” を選んだ場合、エントリはテーブル（プロトコル、転送対象ポート、転送先 IP アドレス）に設定したように機能します。“ 無効 ” を選んだ場合、他の項目を設定しても機能しませんが、“ 有効 ” を選び直すと機能するようになります。
● プロトコル	インターネットでデータを送受信する際に使うプロトコルを選びます。TCP、UDP、TCP&UDP の中から選ぶことができます。
● 転送対象ポート	インターネットでデータを送受信する際に使うポートを指定します。ポート番号は半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● ポートを 1つだけ利用したいときは、そのポート番号を入力してください。 ● ポートの範囲を指定したい場合は、“ – ” を使って入力してください。例えば 2000 から 3000 までのポートを利用したい場合は、“ 2000–3000 ” と入力してください。小さいポート番号が左に、大きいポート番号が右になるように入力してください。
● 転送先 IP アドレス	MN7530に接続されたパソコンのプライベートIP アドレスを設定します。インターネットからのデータは、この IP アドレスに送られます。この場合、対応するパソコンの IP アドレスをこの値に固定してください(☞ 120 ページ)。

このテーブルを設定すると、インターネットから転送対象ポートへ不正アクセスされる可能性があります。安全のために、必要な時にのみ設定してください。

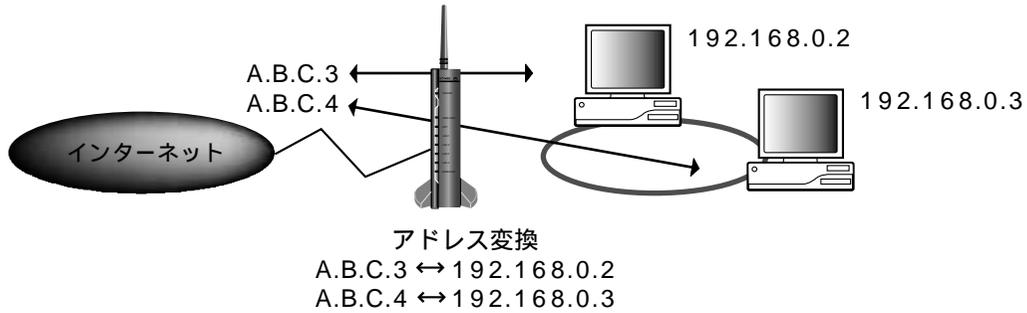
＜LAN型アドレス変換＞

プロバイダから複数のグローバルIP アドレスが提供されている時､グローバルIP アドレスとプライベートIPアドレスの相互変換の設定をおこないます。アドレス変換は以下の３種類の方法で設定することができます。

静的NAT

プロバイダから提供されたグローバルIPアドレスと、ホームネットワークのパソコンのプライベートIP アドレスを１対１で対応させます。

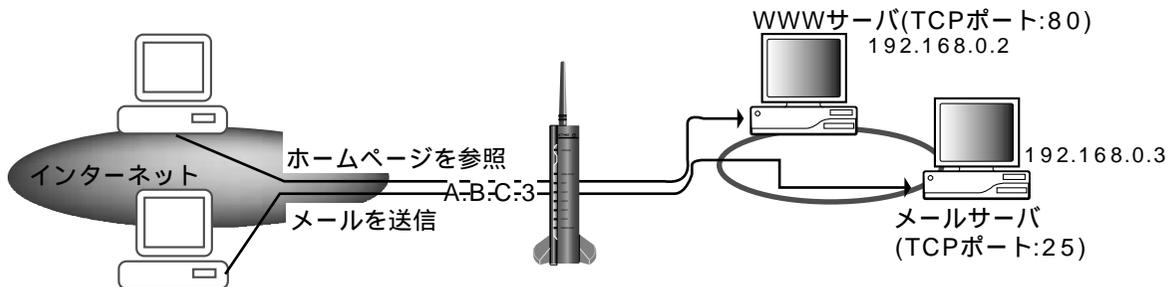
アドレス変換
A.B.C.3 ↔ 192.168.0.2
A.B.C.4 ↔ 192.168.0.3

設定例：

グローバルIP アドレスA.B.C.3とプライベートIP アドレス192.168.0.2を､A.B.C.4 と192.168.0.3をそれぞれ１対１で対応させる場合は、次のように入力してください。必ず転送対象プロトコルとポートに“＊”を選んでください。

機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
	有効	A.B.C.3	*	*	192.168.0.2
	有効	A.B.C.4	*	*	192.168.0.3

静的IPマスカレード（ポートフォワーディング）

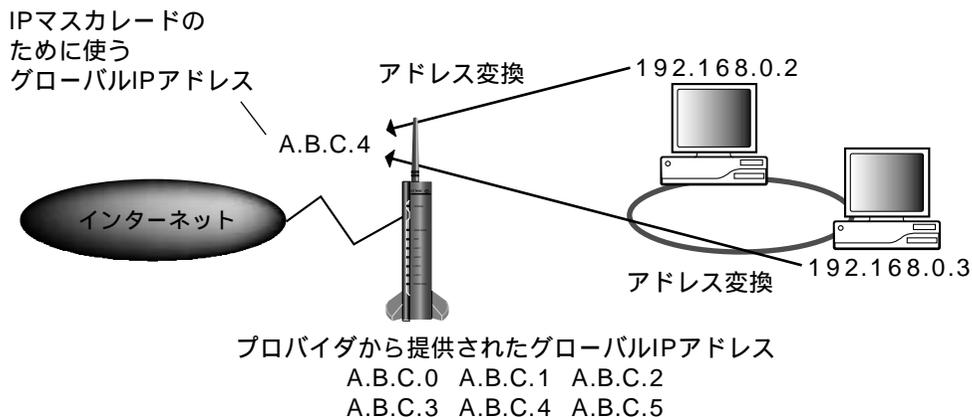
１つのグローバルIPアドレスを使ってインターネット上のアプリケーションからホームネットワークの複数のパソコンを参照することができます。

設定例：

グローバルIP アドレスA.B.C.3を通して192.168.0.2 のパソコンのWWW サーバを参照させたり、192.168.0.3のパソコンのメールサーバを参照させるには次のように入力してください。

機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
	有効	A.B.C.3	TCP	80	192.168.0.2
	有効	A.B.C.3	TCP	25	192.168.0.3

IP マスカレード

１つのグローバルIP アドレスを使って複数のパソコンからインターネットにアクセスする時にこの機能を使います。

プロバイダから提供されたグローバルIPアドレス
A.B.C.0　A.B.C.1　A.B.C.2
A.B.C.3　A.B.C.4　A.B.C.5

ルータ本体のIP アドレスは、IP マスカレード用のIP アドレスには利用できません。
IP マスカレード用には別のIPアドレスをお使いください。

機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
静的アドレス変換	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
IPマスカレード		A.B.C.4	–	–	(注)

(注) 静的アドレス変換に設定されていないその他全てのホーム側IPアドレス

注: 有効/無効
“有効”を設定すると指定された静的IPマスカレードエントリが使用中となります。“無効”を設定するとそのエントリは機能しませんが、次に必要となった時の設定を容易にするため、1度設定した設定内容は削除されずに残されます。

保存　取り消し

● **エントリ**	“ 有効 ” あるいは、“ 無効 ” を選びます。“ 有効 ” を選んだ場合、エントリはテーブル（プロトコル、転送対象ポート、転送先 IP アドレス）に設定したように機能します。“ 無効 ” を選んだ場合、他の項目を設定しても機能しませんが、“ 有効 ” を選び直すと機能するようになります。
● **インターネット側 IP アドレス**	インターネット側でデータのやり取りをするグローバル IP アドレスを入力してください。
● **転送対象プロトコル**	インターネットでデータを送受信する際に使うプロトコルを選んでください。TCP、UDP、TCP&UDP、＊の中から選ぶことができます。“ ＊ ” を選ぶと自動的に転送対象ポートも“ ＊ ”となり、静的 NAT の設定になります。
● **転送対象ポート**	インターネットでデータを送受信する際に使うポートを指定してください。ポート番号は半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● **ポートを 1 つだけ利用したいときは、そのポート番号を入力してください。** ● ポートの範囲を指定したい場合は、“ － ” を使って入力してください。例えば 2000 から 3000 までのポートを利用したい場合は、“ 2000 － 3000 ” と入力してください。小さいポート番号が左に、大きいポート番号が右になるように入力してください。 ● **＊を選ぶと全てのポートが選ばれます。**
● **ホーム側 IP アドレス**	ホームネットワークに接続されたパソコンのプライベート IP アドレスを設定してください。インターネットからのデータは、この IP アドレスに送られます。この場合、対応するパソコンの IP アドレスをこの値に固定してください。
● **IP マスカレード**	静的アドレス変換のエントリに設定していない複数のプライベート IP アドレスを持つパソコンからインターネットにアクセスする時、ここに入力したグローバル IP アドレスに変換され使用されます。何も入力していないと、基本設定で指定したグローバル IP アドレスかプロバイダが割り当てた IP アドレスが使用されます。

LAN型の設定で注意すべき事柄

● インターネット側IPアドレスが異なる時、ホーム側IP アドレスを重複させることはできません。

機能	エントリ	インターネット側 IPアドレス	転送対象 プロトコル	転送対象 ポート	ホーム側 IPアドレス
	有効	A.B.C.2	TCP	10	192.168.0.2
	有効	A.B.C.3	TCP	20	192.168.0.2
	有効	A.B.C.4	TCP	30	192.168.0.2

同一のアドレスを入力しない

● 転送対象プロトコルと転送対象ポートの両方を“ ＊ ”に設定した場合は、その設定が優先するため、その他の設定が無視される場合があります。
特定のポートを使用するパケットは、192.168.0.2～4 に転送し、それ以外のポートは192.168.0.5 に転送する場合、転送対象プロトコルと転送対象ポートの両方に“ ＊ ”を入力すると、4 番目の設定が優先されるので上の3つの転送の設定が処理されません。

機能	エントリ	インターネット側 IPアドレス	転送対象 プロトコル	転送対象 ポート	ホーム側 IPアドレス
	有効	A.B.C.2	TCP	10	192.168.0.2
	有効	A.B.C.2	TCP	20	192.168.0.3
	有効	A.B.C.2	TCP	30	192.168.0.4
	有効	A.B.C.2	*	*	192.168.0.5

この場合、下図のように転送対象プロトコルと転送対象ポートのどちらかを設定すると、上の行から順番に処理されます。

機能	エントリ	インターネット側 IPアドレス	転送対象 プロトコル	転送対象 ポート	ホーム側 IPアドレス
	有効	A.B.C.2	TCP	10	192.168.0.2
	有効	A.B.C.2	TCP	20	192.168.0.3
	有効	A.B.C.2	TCP	30	192.168.0.4
	有効	A.B.C.2	TCP	*	192.168.0.5

安全のために外部から LAN側を参照できないようにフィルタリングの設定がおこなわれています。サーバを外部から参照させるには、該当するポート番号を通過させるフィルタを追加するか、エントリ番号60の項目を許可にしてください。(☞ 92、93ページ)

フィルタリング設定

IPアドレス、ポート、プロトコルの条件件を指定することで、受信したIPパケットを通過あるいは廃棄することができます。条件を適切に設定することでセキュリティ対策として使用できます。フィルタNoの小さい順からパケットフィルタリングの処理がおこなわれます。

■新たにフィルタリングする項目を追加するには

1 MN7530のWeb設定画面上の フィルタリング設定 をクリックする

フィルタリング設定条件

フィルタNoをクリックすると、各設定画面が開き、更新・削除ができます。

デフォルト設定の説明は、こちら を参照下さい。
"MN7530"はルータ自身、"*"は全てのアドレス/ポートが対象です。

No	タイプ	方向	送信元		宛先		プロトコル	ログ出力
			IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート		
1	禁止	W->L	*	*	MN7530	80	TCP	する
53	禁止	W->L	10.0.0.0 - 10.255.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
54	禁止	W->L	172.16.0.0 - 172.31.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
55	禁止	W->L	192.168.0.0 - 192.168.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
56	禁止	L->W	*	*	10.0.0.0 - 10.255.255.255	*	TCP&UDP	する
57	禁止	L->W	*	*	172.16.0.0 - 172.31.255.255	*	TCP&UDP	する
58	禁止	L->W	*	*	192.168.0.0 - 192.168.255.255	*	TCP&UDP	する
59	禁止	W->L	*	*	MN7530	*	TCPEST	する
60	禁止	W->L	*	*	*	*	TCPEST	する
61	禁止	W->L	*	*	*	137 - 139	TCP&UDP	する
62	禁止	W->L	*	137 - 139	*	*	TCP&UDP	する
63	禁止	L->W	*	*	*	137 - 139	TCP&UDP	する
64	禁止	L->W	*	137 - 139	*	*	TCP&UDP	する

エントリの移動: 番エントリを 番エントリへ移動する。 移動

設定を有効にする場合には保存後、再起動してください。

保存 エントリ追加 デフォルトに戻す 戻る

2 エントリ追加 をクリックする

3 必要項目を設定し、追加 をクリックする

MN7530の各機能

拡張機能

4 設定を終えたら、保存 をクリックする

設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切ると MN7530 が正常に動作しなくなる可能性があります。

5 Web設定画面に、再起動 が表示されたら、それをクリックする

- フィルタリング設定は、設定を終えたら必ず 保存 をクリックしてください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- プロバイダからプライベートIPアドレスを割り当てられている場合は、エントリ番号 53～58 の項目を許可にしてください。(☞ 92、93ページ)
- 安全のために外部からLAN側を参照できないようにフィルタリングの設定がおこなわれています。サーバを外部から参照させるには、該当するポート番号を通過させるフィルタを追加するか、エントリ番号60の項目を許可にしてください。(☞ 92、93ページ)
- インターネット側のFTPサーバにアクセスできない場合、インターネット側からホーム側へTCPの20番ポートを通過するフィルタを追加するか、エントリ番号60の項目を許可にしてください。(☞ 92、93ページ)

設定例：

Windows NT/2000のLAN機能への外部からのアクセスを防止する場合、

タイプ	方向	IPアドレス	ポート	IP アドレス	ポート	プロトコル	ログ
禁止	L->W	＊	＊	＊	135	TCP&UDP	する
禁止	L->W	＊	135	＊	＊	TCP&UDP	する
禁止	W->L	＊	＊	＊	135	TCP&UDP	する
禁止	W->L	＊	135	＊	＊	TCP&UDP	する
禁止	L->W	＊	＊	＊	445	TCP&UDP	する
禁止	L->W	＊	445	＊	＊	TCP&UDP	する
禁止	W->L	＊	＊	＊	445	TCP&UDP	する
禁止	W->L	＊	445	＊	＊	TCP&UDP	する

外部からWWWサーバを参照できるようにする場合、

タイプ	方向	IPアドレス	ポート	IP アドレス	ポート	プロトコル	ログ
許可	W->L	＊	＊	サーバのアドレス	80	TCP	する

● No	エントリ No を 1 〜 64 の値で入力します。エントリ No の小さい順にパケットフィルタリングの処理をおこないます。既に登録されている場合は、そのエントリに上書きされます。
● タイプ	許可（条件が一致すれば通す）、禁止（条件が一致すれば破棄する）のどちらかを選びます。
● 方向	W → L（WAN からの受信時にフィルタリング）か L → W（WAN への送信時にフィルタリング） を選びます。
● 送信元 IP アドレス	フィルタリングするパケットの送信元 IP アドレスを設定します。IP アドレスは半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● IPアドレスを1つだけ指定したい場合は、そのIPアドレスを上の欄に入力します。 ● IP アドレスの範囲を指定したい場合は、上の欄に小さい IP アドレスを入力し、下の欄に大きい IP アドレスを入力します。例えば 192.168.0.3 から 192.168.0.10 までの IP アドレスを指定したい場合は、上の欄に 192.168.0.3 を入力し、下の欄に 192.168.0.10 を入力します。 ● ＊を入力するとすべての IP アドレスが対象になります。
● 送信元ポート	フィルタリングするパケットの送信元ポート番号を設定します。ポート番号は半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● ポートを 1 つだけ指定したい場合は、上の欄にそのポート番号を入力します。 ● ポートの範囲を指定したい場合は、上の欄に小さいポート番号を入力し、下の欄に大きいポート番号を入力します。例えば 2000 から 3000 までのポートを指定したい場合は、上の欄に 2000 を入力し、下の欄に 3000 を入力します。 ● ＊を入力するとすべてのポートが対象になります。
● 宛先 IP アドレス	フィルタリングするパケットの宛先の IP アドレスを設定します。入力の規則は送信元 IP アドレスと同じです。
● 宛先ポート	フィルタリングするパケットの宛先のポート番号を設定します。入力の規則は送信元ポートと同じです。
● プロトコル	データを送受信する際のプロトコルを選びます。TCP、UDP、TCP&UDP、TCPEST、TCPFIN の中から選びます。
● ログ出力	パケット情報の記録を一時的に保存し、「フィルタリングログ画面」で表示する／しないを設定できます。

■フィルタリングの項目を修正または削除するには

1 MN7530のWeb設定画面上の フィルタリング設定 をクリックする

2 フィルタリング設定の一覧から修正または削除する項目のNoをクリックする

3 設定項目を修正し、更新 をクリックする
削除するには 削除 をクリックする

修正した内容を元の状態に戻すには、取り消し をクリックする

4 設定を終えたら、保存 をクリックする

設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなる可能性があります。

5 Web設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■フィルタリング項目のエントリNoを変更するには

エントリNoの小さい順からパケットフィルタリングの処理をおこないます。パケットフィルタリング項目のエントリNoを変更するには、フィルタリング設定条件の画面から移動する項目のエントリNoを左の入力欄に入力し、移動先のエントリNoを右の入力欄に入力して 移動 をクリックしてください。
その後、保存 をクリックしWeb設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックしてください。

■フィルタリングの設定内容をデフォルト設定に戻すには

フィルタリング設定条件の画面から デフォルトに戻す をクリックし、更新 をクリックしてください。
その後、保存 をクリックしWeb設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックしてください。

標準で設定されているフィルタリングの設定エントリ番号と設定内容は次のようになります。

エントリ番号	説明
1	インターネット側から MN7530 本体の Web 設定画面へのアクセスを禁止する。
53-55	インターネット側からの不正なパケットを破棄する。（インターネット側からのパケットにもかかわらずプライベート IP アドレスを送信元にしているパケットを破棄する。）
56-58	送信先 IP アドレスの不正なパケットがインターネット側に出るのを防止する。（ホーム側からのパケットでプライベート IP アドレスを送信先に持つパケットを送信しない。）
59	インターネット側から MN7530 本体への不正なアクセスを防止する。インターネット側から送信されてくる TCP パケットのうち、MN7530 との通信が確立していないものは破棄する。
60	インターネット側からホーム側への不正なアクセスを防止する。インターネット側から送信されてくるTCP パケットのうち、ホーム側のパソコンとの通信が確立していないものは破棄する。
61-64	ホーム側へ NBT パケットが通過できる状態では、Windows のリソース共有が不正に操作される可能性があり、インターネット側への NBT パケットはネットワークの情報を漏洩してしまうので破棄する。（NBT パケットの侵入と漏洩を防止する。）

オプション設定

オプション設定画面では、ホームネットワークの設定やインターネットにアクセスするための詳細な設定をおこないます。通常は、基本設定を正しくおこなえばMN7530を使用することができます。オプション設定は、特に変更が必要な場合のみおこなってください。オプション設定を変更するには、次の手順に従ってください。

1 MN7530のWeb設定画面上の **オプション設定** をクリックする

それぞれの入力欄については、次ページを参照してください。

2 画面の上にある設定項目を選ぶ

3 データ入力欄に設定値を入力する

元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックする

4 設定を終えたら、**保存** をクリックする

設定した内容が保存されます。

保存中は絶対に電源を切らないでください。保存中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなる可能性があります。

5 Web設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

- オプション設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているパソコンの設定もおこない、パソコンを再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

データ入力欄について

＜IPアドレス(ホーム側)設定＞

IPアドレス(ホーム側)設定

IP アドレス　192.168.0.1

ネットマスク　255.255.255.0

● IP アドレス	MN7530 のIP アドレスを入力できます。標準設定は、**192.168.0.1** です。IP アドレスは、**利用可能なアドレス範囲**(下の＜DHCP 設定＞の表を参照ください。) 外で設定してください。
● ネットマスク	MN7530 のホーム側ネットワークのネットマスクを入力します。

＜DHCP 設定＞

DHCPの設定

DHCP サーバ　◉ 使用する　○ 使用しない

利用可能なアドレス範囲　192.168.0.2 – 192.168.0.33

本製品のDHCPサーバ機能を使用することにより、ホーム側ネットワークに接続されている機器にIP アドレスを自動的に割り当てます。

● DHCP サーバ	ホーム側ネットワークに接続されている機器に IP アドレスを自動的に割り当てます。MN7530 の標準の設定は、“使用する”になっています。ホーム側ネットワークに接続されているすべての機器に手動で IP アドレス等を設定する場合は、**使用しない**のオプションボタンを選びます。DHCP サーバの設定を変更した場合は、それぞれのパソコンの IP アドレスの設定を変更してください。
● 利用可能なアドレス範囲	MN7530 のDHCPサーバ機能を利用する際は、データ入力欄にプライベート IP アドレスの範囲を入力します。入力範囲は連続した最大 128 個の値です。特に必要ない限りは変更しないでください。

＜DHCP スタティック設定＞

DHCP サーバ機能を使う時、パソコンに装着しているネットワークカードの MAC アドレスを登録することにより、パソコンに割り当てるIP アドレスを固定することができます。

DHCPスタティック設定

注：有効/無効
IPアドレスはDHCPサーバが配布するアドレス範囲内のみ設定可能です。
MACアドレスの入力可能文字は半角数字と"A"～"F"もしくは"a"～"f"です。2文字ずつ":"で区切って"01:23:45:ab:cd:ef"のように入力してください。
"有効"を設定すると指定されたエントリが使用中となります。
"無効"と設定するとそのエントリは機能しませんが、次に必要となった時の設定を容易にするため、1度設定した設定内容は削除されずに残されます。

	エントリ	IPアドレス（ホーム側）	MACアドレス		エントリ	IPアドレス（ホーム側）	MACアドレス
1	無効			17	無効		
2	無効			18	無効		
3	無効			19	無効		
4	無効			20	無効		
5	無効			21	無効		
6	無効			22	無効		
7	無効			23	無効		
8	無効			24	無効		
9	無効			25	無効		
10	無効			26	無効		
11	無効			27	無効		
12	無効			28	無効		
13	無効			29	無効		
14	無効			30	無効		
15	無効			31	無効		
16	無効			32	無効		

保存　取り消し

● **エントリ**	“ 有効 ” あるいは “ 無効 ” を選んでください。“ 有効 ” を選んだ場合、エントリはテーブルで設定した MAC アドレスを持つパソコンをテーブルで設定した IP アドレスに固定します。“ 無効 ” を選んだ場合、他の項目を設定しても機能しませんが、“ 有効 ” を選び直すと機能するようになります。
● **IP アドレス（ホーム側）**	該当するパソコンの固定したい IP アドレスを入力してください。
● **MAC アドレス**	該当するパソコンのネットワークカードの MAC アドレス(☞ 130 ページ) を入力してください。必ず半角数字と半角英字 “ A ” ～ “ F ” か “ a ” ～ “ f ” を 2 文字ずつ半角の “ : ” で区切って “ 01:23:45:ab:cd:ef ” のように入力してください。

＜PPP設定＞

PPPoEやPPPoAを利用してプロバイダと接続する場合、PPPの接続を開始または停止することができます。**接続形態**から接続方法を選んでください。プロバイダとの契約でインターネットアクセスの利用料金が従量制の場合は、**自動接続**あるいは、**手動接続**を選んでください。

PPP 設定

認証方式	⦿ 自動認識 ○ CHAP ○ PAP
接続形態	⦿ 常時接続 ○ 自動接続 ○ 手動接続
不使用時の切断	○ 切断する [30] 分後 ⦿ 切断しない

● **認証方式**	PPP 接続する時の認証方式を設定します。接続するプロバイダによって認証方式が異なります。プロバイダのアカウント情報を参考に設定してください。通常は**自動認識**を選ぶと、MN7530が認証方式を判断しインターネットに接続します。
自動認識	接続するプロバイダの認証方式に合わせて認証します。
CHAP	ユーザ名とパスワードを暗号化して送るCHAP方式で認証します。
PAP	ユーザ名とパスワードをそのまま送るPAP 方式で認証します。
● **接続形態**	
常時接続	MN7530 の電源が入っている間は常に接続されます。これが標準設定となっています。PPP接続画面から切断ができます（☞ 107ページ)。再接続するには、[接続](☞ 107 ページ）をクリックするか MN7530 を再起動します。
自動接続	MN7530 がインターネットにアクセスをおこなおうとする時に接続されます。PPP 接続画面から接続および切断ができます（☞ 107 ページ)。
手動接続	PPPoE や PPPoA 接続は、PPP 接続画面で [接続] を選んだ場合にのみ接続されます（☞ 107 ページ)。PPPoE や PPPoA の接続を切断するには、PPP 接続画面上で [切断] をクリックしてください（☞ 107 ページ)。
● **不使用時の切断**	**切断する**を選んでいる場合、インターネットにアクセスしていないことを感知して、あらかじめ設定された時間をすぎると自動的に PPPoE や PPPoA の接続を切断します。この機能を利用するには、**切断する**を選び、時間（1から 99 分）を設定します。 **常時接続**が選ばれている場合、この機能は無効になります。

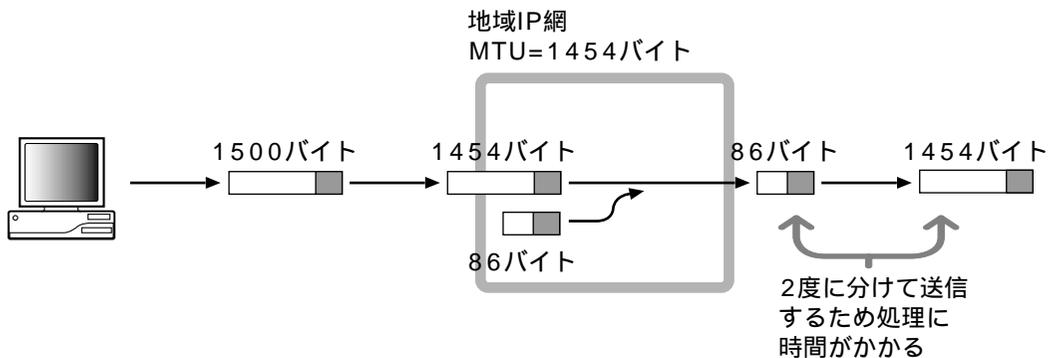
＜DNS リレー＞

LAN 側に接続しているパソコンの IP アドレスを固定している場合などは、インターネットに接続するために、パソコンに DNSサーバのIPアドレスを入力する必要があります。DNSリレーはこの面倒な入力作業を省略します。DNSリレーにより MN7530は、ホームネットワーク上のパソコンに対して自身をDNS サーバとして通知します。ホームネットワーク側からのDNSの問い合わせに対しては、MN7530がインターネット上の指定の DNSサーバに代理で問い合わせをします。そして、問い合わせで得た解答をホームネットワークのパソコンに返します。

ホームネットワーク上に DNSサーバを接続している場合は、DNSリレーを使用しないでください。

● **使用する**	MN7530 が自身を DNS サーバのアドレスとしてパソコンに通知します。 MN7530 の標準設定は " 使用する " になっています。 パソコンの IP アドレスを固定している場合は、パソコンに MN7530 の IP アドレスを入力します。
● **使用しない**	DNS リレー機能が働きません。 パソコンの IP アドレスを固定している場合は、パソコンに DNS サーバの IP アドレスを入力します。

＜MTUサイズ＞

MTU とは、送信できるパケットの最大長をいいます。MTU の値が大きければ、１回に転送できる転送量が大きくなります。しかし、MTU の値が大きすぎると地域 IP 網を通過する時に、地域 IP 網の MTU 値を越えるためパケットを 2 回に分けて送信することになり、その結果転送速度が低下します。

通常はMN7530が最適なMTU 値になるように自動調整します。特に変更が必要な場合のみMTU 値を変更してください。

MTU の設定によっては、通信速度が極端に低下する場合があります。お客様の責任で設定してください。

- MRUとは、受信できるパケットの最大長をいいます。接続相手の MRU値が設定したMTU 値より小さい場合は、MTU 値は相手のMRU 値に自動変更されます。
- フレッツADSLではMTU値を 1454 未満に設定すると、接続や正常な通信ができないことがあります。

<ダイナミックルーティング>

RIP（IPの経路制御パケット)をインターネット→ホーム側に送信する／しないと、ホーム側→インターネット側に送信する／しないを設定します。また、それぞれRIP1かRIP2を選ぶことができます。RIP2を使うとよりトラフィックの少ない通信をすることができます。

● ホーム側	通常は“ RIP1 のみ ”に設定します。ホームネットワーク上にインターネットに接続しているルータが複数台あり、他のルータから LAN 側に RIP が送信されている場合は、“ なし ”に設定してください。 他にルータがない場合は、パソコンからインターネットへのすべての送信は、本製品を経由していくことになります。
● インターネット側	IP の経路制御パケットをインターネット側に送信すると、ホーム側のネットワーク情報が外部から見えることになります。セキュリティを確保するために通常は“ なし ”に設定します。ホームネットワーク内に MN7530 を接続するなどの場合は、必要に応じて“ RIP1 のみ ”、“ RIP2 のみ、”“ RIP1 と RIP2 の両方 ”のどれかに設定してください。

管理コマンド

Ping

インターネット上、あるいは、ホームネットワーク上のサイトや機器が、TCP/IP ネットワークで MN7530 と接続されているかどうか、確認することができます。正しく接続されている場合は、“成功！”のメッセージが画面に表示されます。

MN7530 自身（192.168.0.1）へのPingはできません。

1 MN7530のWeb設定画面上の **Ping** をクリックする

右の画面を表示します。

Ping	
IPアドレス	

Ping　取り消し

2 接続されていることを確認したい機器やサイトのIP アドレス（例：192.168.0.2）を入力する

IP アドレス欄を空白に戻すには、**取り消し** をクリックする

3 **Ping** をクリックする

- 接続されていたら、右の画面を表示します。

成功！

PING送信　IPアドレス: 192.168.0.2
ip: ping - reply received from 192.168.0.2

- 指定IP アドレスからの応答がない場合は、右の画面を表示します。

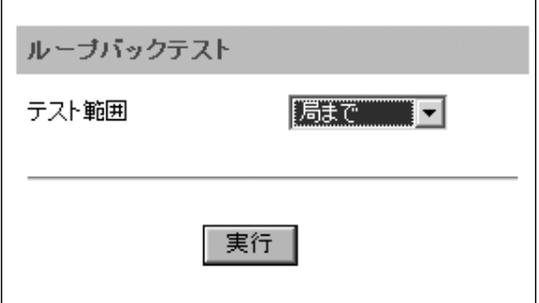
失敗

PING送信　IPアドレス: 192.168.0.2
ip: ping - no reply received

ループバックテスト（内蔵モデム使用の場合のみ）

MN7530と電話局にあるDSLAM (DSL Access Multiplexer) またはプロバイダのBAS (Broadband Access Server)が接続されているかどうか、確認することができます。正しく接続されている場合は、“成功!”のメッセージが画面に表示されます。

1 MN7530のWeb設定画面上の ループバック を クリックする

2 MN7530のWeb設定画面上の **「テスト範囲」** から**局まで**か**プロバイダまで**を選ぶ

3 実行 をクリックする

- 局まで接続されていたら、右の画面を表示します。

「局まで」のテストは成功しました。

- プロバイダまで接続されていたら、右の画面を表示します。

「接続先まで」のテストは成功しました。

- 局からの応答がない場合は、右の画面を表示します。

「局まで」のテストはタイムアウトになりました。

- プロバイダからの応答がない場合は、右の画面を表示します。

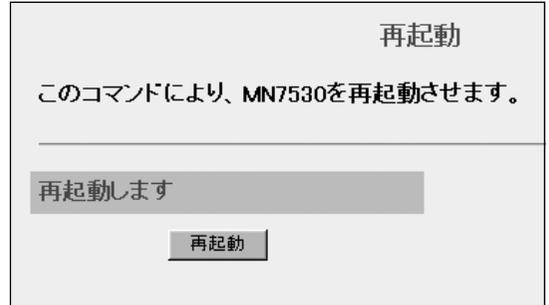
「接続先まで」のテストはタイムアウトになりました。

ループバックテストを禁止しているプロバイダもあります。その場合は、ループバックテストをおこなうとエラーになります。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。

再起動

MN7530を再起動します。この時、MN7530の設定内容は保存されています。

1 MN7530のWeb設定画面上の 再起動 をクリックする

右の画面を表示します。

2 再起動 をクリックする

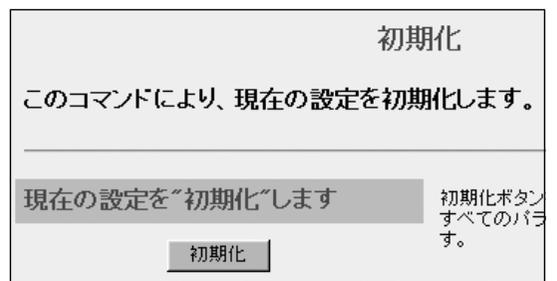
MN7530が再起動されます。

MN7530のDHCPサーバ機能（☞ 95ページ）を使っている時は、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンも再起動してください。

初期化

MN7530の全ての設定値を初期化します。設定値は、工場出荷時に設定されていた内容（標準設定値 ☞ 140ページ）に戻ります。

1 MN7530のWeb設定画面上の 初期化 をクリックする

右の画面を表示します。

2 初期化 をクリックする

MN7530の全ての設定値が初期化されます。

- MN7530のDHCPサーバ機能（☞ 95ページ）を使っている時は、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンも再起動してください。
- **初期化が始まってから5分間は電源を切ったり、RESETボタンを押さないでください。**

パスワード変更

MN7530のパスワード（☞ 42ページ）を変更することができます。

1 MN7530 の Web設定画面上の パスワード変更 をクリックする

右の画面を表示します。

パスワード変更

ユーザID・パスワードを変更します。

注: ユーザID・パスワードは半角英数字15文字以下で設定して下さい。

パスワード変更

新しいユーザID

新しいパスワード

新しいパスワードの再入力

保存　取り消し

2 **新しいユーザID**入力欄に新しいユーザ名（15桁までの半角英数字）を入力する

3 **新しいパスワード**入力欄に新しいパスワード（15桁までの半角英数字）を入力し、確認のため、**新しいパスワードの再入力**欄に再度新しいパスワードを入力する

4 保存 をクリックする

● パスワードの変更が終了したら、右の画面を表示します。

再起動

● パスワードの変更がまちがっていると、右の画面を表示します。

Microsoft Internet Explorer

再入力したパスワードがちがいます。

OK

パスワードを変更し再起動した後、新しいパスワード入力の画面が表示されます。

5 **ユーザ名・ID** と**パスワード**のダイアログボックスが表示されたら、**ユーザ名・ID** と**パスワード**欄に新しいユーザ名とパスワードを入力し、**OK** をクリックする

(Windows)

(Macintosh)

- **新しいパスワードの再入力**欄に入力する際は、コピー・貼り付け機能を使わないでください。
- 大文字、小文字を区別してユーザ名・IDとパスワードを入力してください。

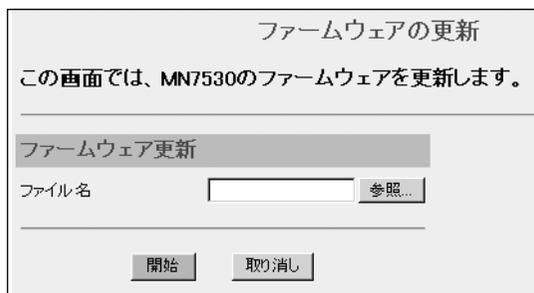
変更したユーザ名・IDとパスワードを忘れてしまった場合
標準のユーザ名・IDとパスワードに戻すため、CLEAR SETTINGボタンを押してMN7530の初期化をおこなってください。(☞ 112ページ)

ファームウェアの更新

MN7530に新しいファームウェアをインストールすることができます。MN7530の最新ファームウェアは、NTT-ME MN7530のホームページ (http://www.ntt-me.co.jp/mn/mn7530) から入手することができます。また、回線が接続されている状態で、Web設定画面の「ここから最新のファームウェアをダウンロードすることができます。」をクリックすると、上記ホームページに接続されます。

ファームウェアの更新機能を使う前に、パソコンにファームウェアをダウンロードしてください。
必ず、ホームページの説明、あるいは、ファームウェアの説明書をお読みください。

1 MN7530のWeb設定画面上の ファームウェアの更新 をクリックする

右の画面を表示します。

2 ファームウェアファイルを選ぶために、参照... をクリックする

ファイルの選択（Windows）または、**開く**（Macintosh）ダイアログボックスを表示します。

(Windows)

(Macintosh)

3 ファイルの一覧からインストールしたいファームウェアファイルを選び、開く をクリックする

4 選んだファイルがファームウェアの更新Web設定画面の**ファイル名**欄に表示されます。

5 開始 をクリックする

ファームウェアの更新には約60秒ほどかかります。

ファームウェアの更新中は絶対に電源を切らないでください。更新中に電源を切るとMN7530が正常に動作しなくなります。

- ファームウェアの更新が終了すると、数秒後に、右の画面を表示します。
- ファームウェアが更新されなかった時は、エラーメッセージを表示します。（☞ 下記）

ファームウェアが更新されました。

再起動を実行してください。

再起動

6 再起動 をクリックする

MN7530が再起動されます。

- ファームウェア更新後、初期化を必要とする場合があります。詳しくはファームウェアの説明書お読みください。初期化はCLEAR SETTINGボタン（☞ 112ページ）を押してください。**ボタンを押した後、5分間は絶対に電源を切ったり、RESETボタンを押さないでください。**
- MN7530のDHCPサーバ機能（☞ 95ページ）を使っている時は、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	原因と対策
● ファイル・サイズが不適当です。 ● CRCエラーが生じました。	選択したファームウェアのファイルは壊れているか、不適切なファイルです。 http://www.ntt-me.co.jp/mn/mn7530 からダウンロードして入手したファームウェアファイルの場合、再度、ダウンロードしてください。 ファームウェアは、MN7530 には使えません。適切なファイルを選びます。
●選択したファイルは、正しいファイルではありません。	ファームウェアは、MN7530 には使えません。適切なファイルを選びます。 ファイルに添付されている説明書（Readme.txt 等）をお読みになり、MN7530のハードウェアバージョンに合っているか確認してください（☞ 108ページ）。 合っていない時は、ハードウェアバージョンに合う最新版のファームウェアを http://www.ntt-me.co.jp/mn/mn7530 より入手してください。
● メモリが足りません。	MN7530の内蔵メモリが処理負荷のため少なくなっています。MN7530を再起動してください。

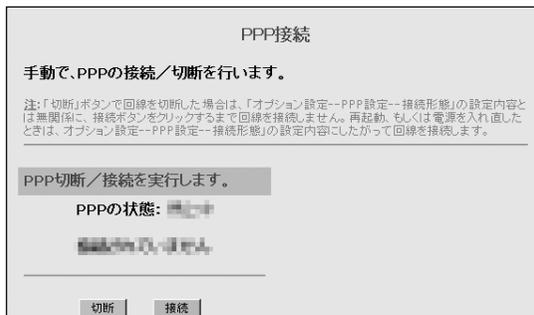
PPP 接続

PPPの接続コマンドによって、MN7530 のプロバイダへの PPPoE接続や PPPoA接続を手動で切断または接続することができます。Web設定画面上のボタンをクリックすると、切断または接続することができます。

■PPP接続をおこなう場合

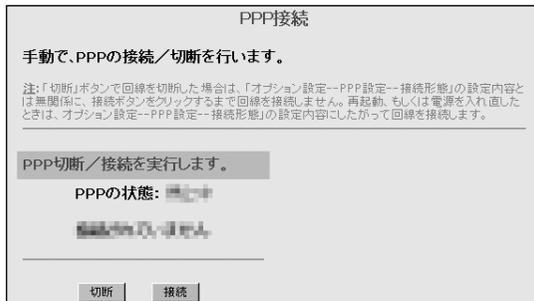
右の画面を表示します。

1 MN7530のWeb設定画面上の PPP接続 をクリックする

2 PPP 接続を開始するには、接続 をクリックする

■PPP接続を切断する場合

右の画面を表示します。

1 MN7530のWeb設定画面上の PPP接続 をクリックする

2 接続を切断するには、切断 をクリックする

このコマンドは、PPPoEやPPPoAの接続形態の種類（常時接続、自動接続または手動接続）に関係なく使用できます。

セッション・キープ・アライブ機能について

PPP接続の常時接続モードの場合に、プロバイダのサーバとの接続が何らかの理由で切断した時は、自動的に接続を試みる機能です。

本製品のセッション・キープ・アライブ機能は次の特徴を持っています。

- 常時接続モード時に有効になっています。自動接続モード時や手動接続モード時は、自動的に接続しません。
- プロバイダのサーバとの切断の監視は、サーバからの応答の有無により切断を判断するLCPエコーチェック機能でおこないます。

情報表示

ステータス

MN7530の機器の状態や現在取得しているIPアドレス、ハードウェアとソフトウェアのバージョン情報等を見ることができます。この情報は、技術サポートセンターに連絡する時、役にたちます。

1 Web設定画面上の ステータス をクリックする

右の画面を表示します。

使用状況

MN7530のデータの送受信の状態を見ることができます。この情報は、技術サポートセンターに連絡する時、役にたちます。

1 Web設定画面上の 使用状況 をクリックする

右の画面を表示します。

ログ表示

MN7530が取得している各種ログを表示します。

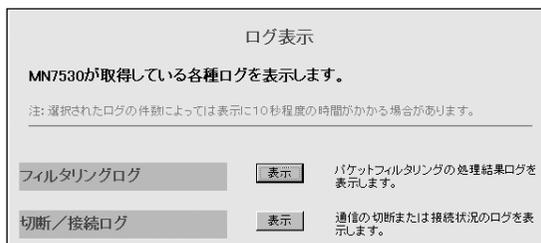
■フィルタリングログ

パケットフィルタリングの画面で「ログ出力」にチェックをつけたエントリがパケットの処理をおこなうとパケットの情報を記録します。パケット情報は、エントリ番号、タイプ、方向、送信元／宛先ポート番号などで、最新の情報（4000個まで）を見ることができます。

MN7530を再起動するとフィルタリングログの情報は消去されます。

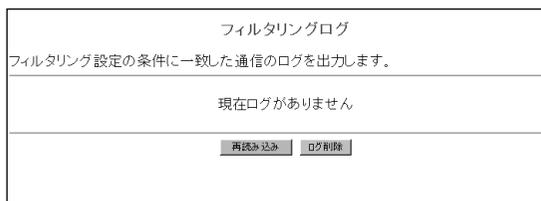
1 Web設定画面上の **ログ表示** をクリックする

2 **フィルタリングログ** の **表示** をクリックする

1画面に表示できるログは100個です。100個以上のログがある場合は、画面下部に表示されているページ番号を選択し、目的の情報を表示してください。

ログ日時はログをモニターするパソコンから算出しています。日時表示がおかしい場合はパソコン自体の時計日時を確認、修正を行いログを再表示してください。

3 **再読み込み** をクリックし、最新のログ画面を表示させる

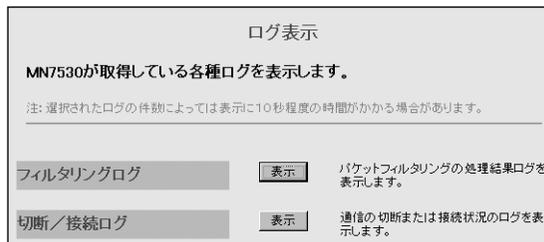
記録したログを削除するには、**ログ削除** をクリックしてください。

フィルタリングログ
フィルタリング設定の条件に一致した通信のログを出力します。
現在ログがありません
再読み込み　ログ削除

■切断／接続ログ

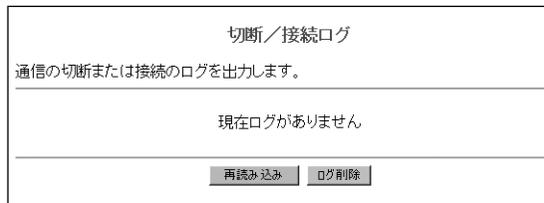
通信の切断または接続状況のログ情報を一覧で表示します。保存ログ数は最大2000個です。2000個以上の情報が発生した場合は、保存情報が古いものから上書きされます。1 画面に表示できるログは 100 個です。100個以上のログがある場合は、画面下部に表示されているページ番号を選択し、目的の情報を表示してください。

MN7530 を再起動すると切断／接続ログの情報は消去されます。

1 Web 設定画面上の ログ表示 をクリックする

2 切断／接続ログ の 表示 をクリックする

3 再読み込み をクリックし、最新のログ画面を表示させる

記録したログを削除するには、ログ削除 をクリックしてください。

ログファイルの作成 をクリックすると現在のログ情報をテキストファイルとして保存することができます。

ログ日時はログをモニターするパソコンから算出しています。日時表示がおかしい場合は、パソコン自体の時計日時を確認、修正を行いログを再表示してください。

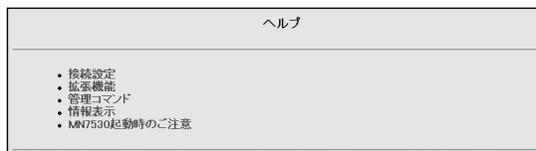
ヘルプ

ヘルプ機能は、MN7530のWeb設定画面の各項目を説明しています。

1 MN7530 の Web 設定画面上の ヘルプ をクリックする

右の画面を表示します。

ヘルプ

- 接続設定
- 拡張機能
- 管理コマンド
- 情報表示
- MN7530起動時のご注意

2 調べたい項目を選ぶ

Web 画面上の項目をクリックすることでもヘルプを参照できます。

その他

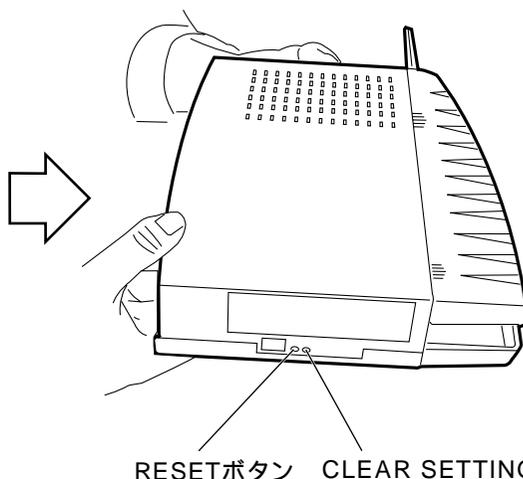
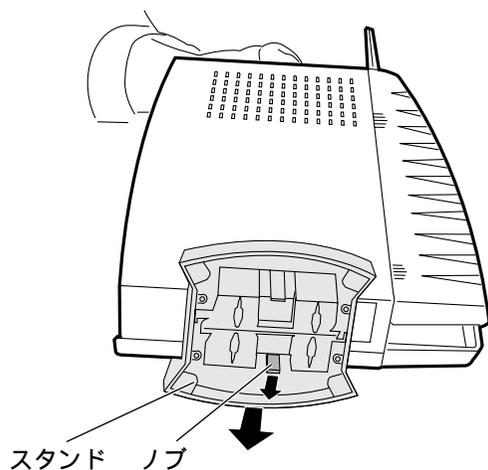
ネットワークを構築する上での有益な情報等について説明しています。

必要に応じてお読みください。

MN7530 の再起動

MN7530 には、本体の底面に 2 つのボタンがあります。これらのボタンはMN7530 を初期化する時、あるいは、再起動する時に使われます。

ノブを下げてスタンドを矢印の方向に取り外してください。

これらのボタンをボールペンのような先のとがったもので押してください。

MN7530 の初期化

MN7530 のパスワード（☞ 103ページ）を忘れたり、設定値を工場出荷時の状態（標準設定値☞ 140 ページ）に戻す時は、CLEAR SETTING ボタンを数秒間押し続けてください。

- **CLEAR SETTINGボタンを押した後は、5分間は電源を切ったりRESETボタンを押さないでください。**
- CLEAR SETTINGボタンを押すと、設定した内容は消去され標準設定値になります。
- MN7530 のDHCP サーバ機能（☞ 95ページ）を使う時は、ホームネットワークのパソコンを再起動してください。

MN7530 の再起動

万一、MN7530のPOWER インジケーターが赤く点灯したら（☞ 15ページ)、RESETボタンを押してください。
MN7530 の設定内容を変更することなく再起動することができます。

MN7530 の DHCP サーバ機能（☞ 95ページ）を使う時は、ホームネットワークのパソコンを再起動してください。

プロキシサーバー使用時の WWW ブラウザの設定

プロバイダの中には、プロキシサーバーを経由して WWW サイトに接続をおこなう所があります。MN7530 のWeb設定画面は、プロキシサーバーを経由してアクセスすることはできません。次の手順に従って WWWブラウザの設定を変更してください。

Windows の場合

次の手順は、Internet Explorer 5.5 を使った場合です。

1 WWW ブラウザを起動する

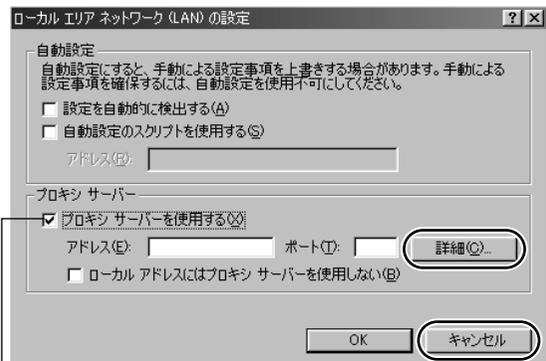
2 **ツール**メニューから **インターネットオプション** を選ぶ

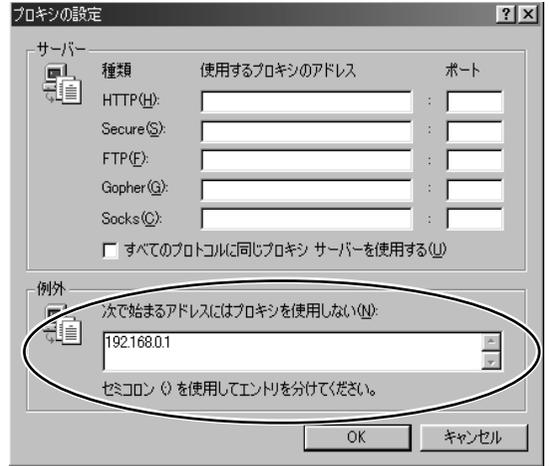
3 **接続**タブをクリックする

4 [LAN の設定] をクリックする

5 **ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定**ダイアログボックスで、**「プロキシサーバーを使用する」**のチェックボックスがチェックされているかどうかを確認する

- **チェックボックスがチェックされていたら、**[詳細] をクリックし手順6 に進んでください。
- **チェックボックスがチェックされていなかったら、**設定をしないで [キャンセル] をクリックし設定を終了してください。

チェックボックスがチェックされているか確認してください。

6 **192.168.0.1**（MN7530の標準IPアドレス）を**次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない:**の入力欄に入力する

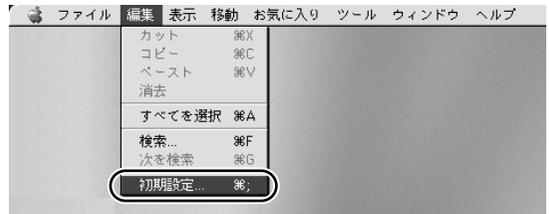
MN7530のIPアドレスを変更した場合は、**次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない:**の入力欄に変更後のIPアドレスを入力してください。

7 OK をクリックする

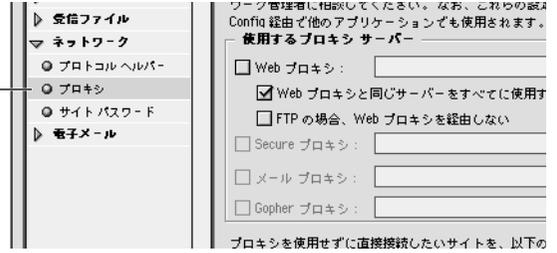
Macintosh の場合

次の手順は、Internet Explorer 5.01を使った場合です。

1 WWWブラウザを起動する

2 **編集**メニューから**初期設定**を選ぶ

初期設定ダイアログボックスを表示します。

3 リストから**プロキシ**を選ぶ

プロキシを選んでください。

4 **「Webプロキシ」**チェックボックスがチェックされているか確認する。

- **チェックボックスがチェックされていたら、**ダイアログボックスの一番下にある入力欄に192.168.0.1（MN7530の標準IPアドレス）を入力してください。
  MN7530のIPアドレスを変更した場合は、**ダイアログボックスの下の**入力欄に変更後のIPアドレスを入力してください。
- **チェックボックスがチェックされていなかったら、**設定しないで キャンセル をクリックし設定を終了してください。

チェックボックスがチェックされているか確認してください。

5 OK をクリックする

無線ネットワークのセキュリティについて

無線ネットワークでは次の 3 つの手段を使ってセキュリティを確保することができます。構築するネットワークの使用目的に合わせてそれぞれを組み合わせ、より高いセキュリティを確保してください。

SSID (☞ 75 ページ)	無線ネットワークでは、ネットワークに名前をつけます。この名前をSSID（ESSID）と呼びます。SSID は無線ネットワークに接続する各機器に設定し、同じ SSID を持つ機器同士でのみ通信ができます。異なった SSID の機器は接続できなくなっており、セキュリティを確保します。 メリット： 比較的簡単に設定をおこなうことができます。 デメリット： SSID を盗まれるとネットワークに侵入されます。また、SSID には名前や誕生日などを使わないでください。多くの人が使っている名前や推察されやすい名前を使うと、隣接する無線ネットワークと混信したり、ネットワークに侵入される場合があります。
MAC アドレスフィルタリング登録 (☞ 80 ページ)	MN7530 にあらかじめ接続可能な無線 LAN カードの MAC アドレスを登録しておけば、未登録の無線 LAN カードの接続を拒否します。 メリット： SSID や暗号化キーを盗まれても接続を拒否できます。 デメリット： 無線ネットワークの規模が大きくなると、MAC アドレスの管理が煩雑になる場合があります。
WEP 暗号化設定 (☞ 78 ページ)	無線ネットワーク内で通信するデータを暗号化することができます。暗号化をおこなうと、万一無線ネットワークのデータを他人に読まれても解読することが困難になります。暗号化は無線ネットワークの全てのパソコンが同じ暗号化キーを登録しておこないます。暗号化キーは 40(64)bit と 128bit の 2 種類あります。 メリット： 暗号化なし→ 40(64)bit 暗号化→ 128bit 暗号化の順で安全性が高まります。 デメリット： 暗号化なし→ 40(64)bit 暗号化→ 128bit 暗号化の順で通信速度が若干低下します。

LAN型接続について

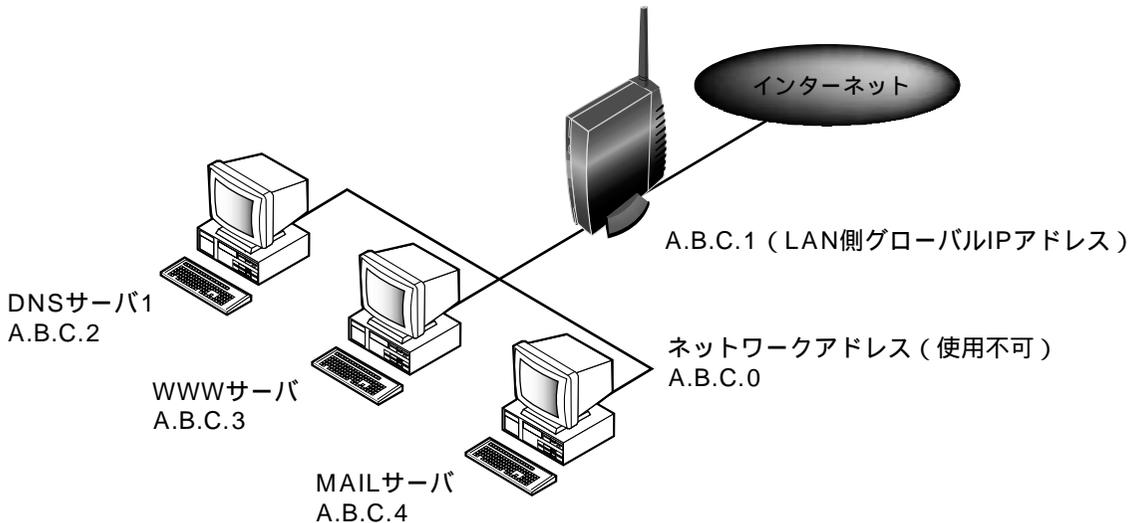
プロバイダからグローバルIPアドレスを複数個提供されていてLAN型接続でインターネットに接続する場合、LAN側のパソコンのIPアドレスの割り当てには、次の2種類の方法があります。

- LAN側のパソコンにグローバルIPアドレスを直接割り当てる（MN7530をIPルータとして利用する）
- LAN側のパソコンにはプライベートIPアドレスを割り当て、グローバルIPアドレスとNAT変換する（NATルータとして利用する）

LAN側のパソコンにグローバルIPアドレスを直接割り当てる場合

すでにグローバルIPアドレスでLANを構築している場合やLANに接続するパソコンの台数分グローバルIPアドレスを取得しているなどの場合は、LAN側のパソコンにグローバルIPアドレスを直接割り当ててご使用になれます。

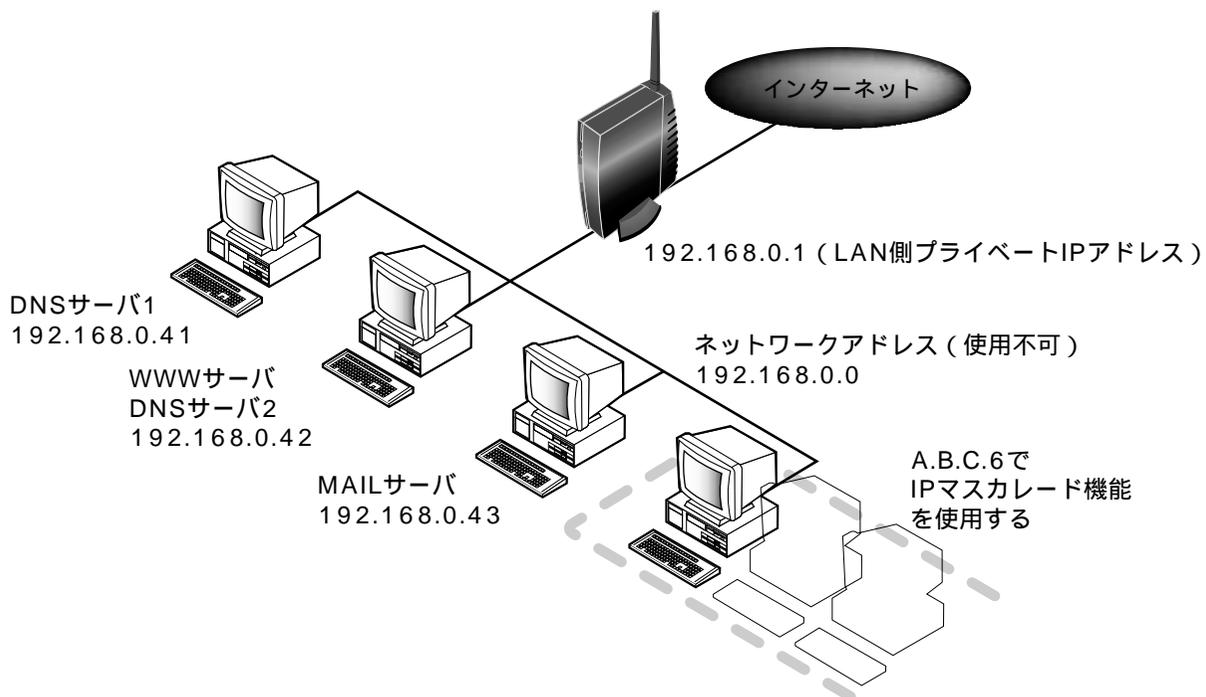
- **セキュリティ確保のためにMN7530とLANの間にファイアウォールを設置することをおすすめします。**
- MN7530のパケットフィルタリングの設定を適切におこなってください。

A.B.C.0/29（A.B.C.0～A.B.C.7）のグローバルIPアドレスを取得している場合

	PPPoE (LAN型)
WAN側IPアドレス	――
LAN側IPアドレス	A.B.C.1
MN7530のIPアドレス	A.B.C.1
ネットワークアドレス	A.B.C.0
パソコン	A.B.C.2～A.B.C.6
ブロードキャストアドレス	A.B.C.7

MN7530 の設定項目	内容
基本設定 **ルータ本体の IP アドレス** **アドレス変換** **オプション設定** **IP アドレス（ホーム側）設定** **DHCP 設定**	A.B.C.1 使用しない A.B.C.1 任意（ホームネットワーク内に WWW サーバ等を立ち上げて公開する場合は、該当のサーバの IP アドレスを手動で設定するか、DHCP 設定で " 使用する " にしてDHCP スタティック設定でサーバの IP アドレスを固定してください。）

LAN 側のパソコンにプライベート IP アドレスを直接割り当てる場合

すでにプライベートIP アドレスでLANを構築している場合やLAN に接続するパソコンの台数分グローバルIP アドレスを取得していないなどの場合は、アドレス変換機能を使用し LAN側のパソコンにプライベートIP アドレスを割り当ててご使用になれます。

A.B.C.0/29（A.B.C.0 ～A.B.C.7）のグローバルIPアドレスを取得している場合

	PPPoE (LAN 型)
WAN 側 IP アドレス	——
LAN 側 IP アドレス	192.168.0.1
MN7530 の IP アドレス	A.B.C.1
ネットワークアドレス	192.168.0.0
パソコン	A.B.C.2 →192.168.0.41 A.B.C.3 →192.168.0.42 A.B.C.4 →192.168.0.43 A.B.C.5 →192.168.0.44 A.B.C.6 →IP マスカレード機能を使って複数のパソコンを接続する
ブロードキャストアドレス	A.B.C.7

MN7530 の設定項目	内容
基本設定	
ルータ本体の IP アドレス	A.B.C.1
アドレス変換	
LAN 型	使用する ネットワーク環境に応じてグローバル IP アドレスとプライベート IP アドレスの相互変換の設定をおこなってください。
オプション設定	
IP アドレス（ホーム側）設定	192.168.0.1
DHCP 設定	任意（ホームネットワーク内に WWW サーバ等を立ち上げて公開する場合は、該当のサーバの IP アドレスを手動で設定するか、DHCP 設定で " 使用する " にして DHCP スタティック設定でサーバの IP アドレスを固定してください。）

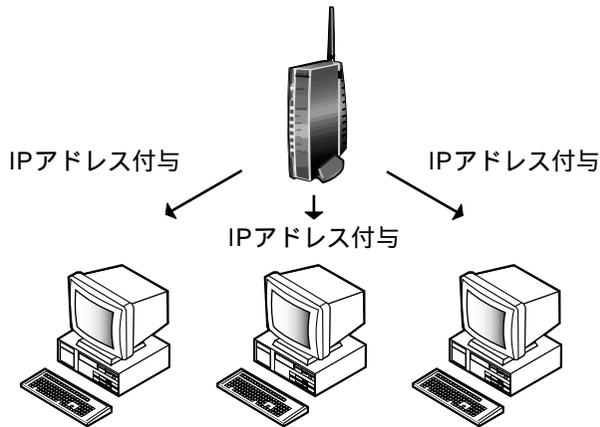
MN7530の設定例（アドレス変換→LAN型）

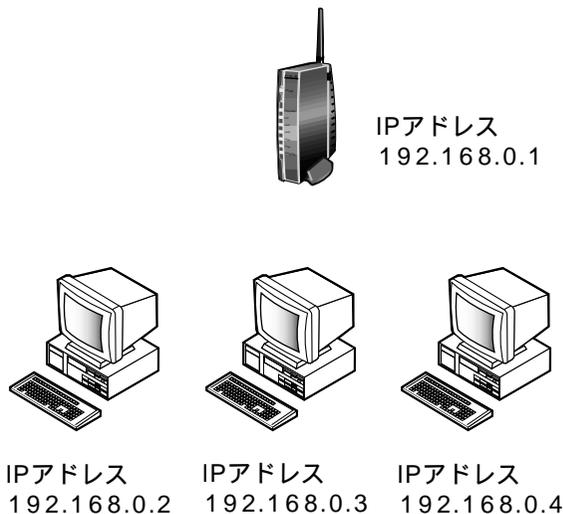
機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
	有効	A.B.C.2	*	*	192.168.0.41
	有効	A.B.C.3	*	*	192.168.0.42
	有効	A.B.C.4	*	*	192.168.0.43
	有効	A.B.C.5	*	*	192.168.0.44

IPマスカレード	A.B.C.6	−	−	（注）

パソコンのIP アドレスを固定するには

MN7530 を含めたTCP/IP ネットワークの全てのパソコンには、各々別々のIP アドレスの設定が必要です。MN7530 では、DHCP サーバ機能を使って、LAN 上の各パソコンにIP アドレスを自動で割り当てることができます（標準設定）。この場合、MN7530 が各パソコンにIP アドレスを割り当てたり再割り当てするため、各パソコンのIP アドレスが固定していません。

MN7530 がIP アドレスを割り当てるネットワーク（標準設定）

これに対し、MN7530 の DHCP サーバ機能を無効にして、LAN上の各パソコンの IP アドレスを固定することもできます。
この場合、あらかじめ各々のパソコンに固有のIPアドレスを設定する必要があります。

IP アドレスが固定されたネットワーク（オプション設定）

パソコンに固有の IP アドレスを設定した後に、MN7530 を設定します。95 ページを参照し、オプション設定画面上の DHCPサーバ機能を無効にしてください。各パソコンの設定は、121、123、125、126、128 ページの手順に従ってください。

Windows 95/98/Me の場合

1 **［スタート］**メニューから**設定**を選び、**コントロールパネル**をクリックする

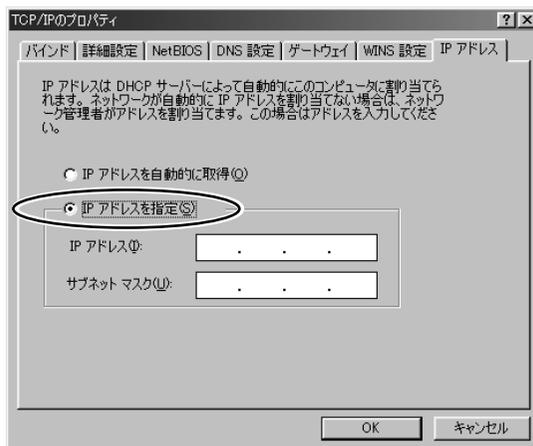
2 **「ネットワーク」**アイコンをダブルクリックする

Windows Meを使っていて**「ネットワーク」**アイコンが見つからない場合は、**「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」**をクリックしてください。

3 **ネットワーク**ダイアログボックスで、MN7530に接続しているネットワークカードに関連したTCP/IP を選び、**プロパティ** をクリックする

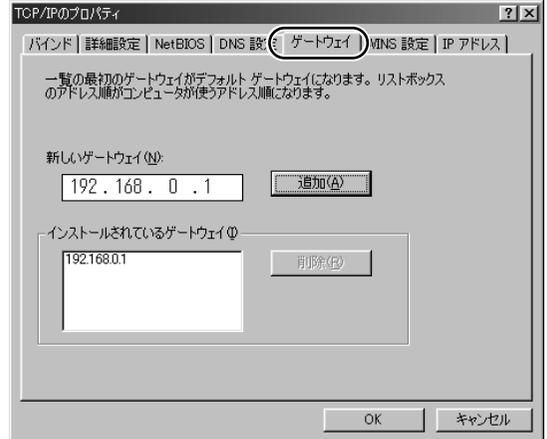
TCP/IP のプロパティダイアログボックスを表示します。

4 **TCP/IP のプロパティ**ダイアログボックスで、**IP アドレス**タブをクリックする

5 **「IP アドレスを指定」**を選ぶ

6 各パソコンのIPアドレス（例：192.168.0.50）とサブネットマスクを入力する

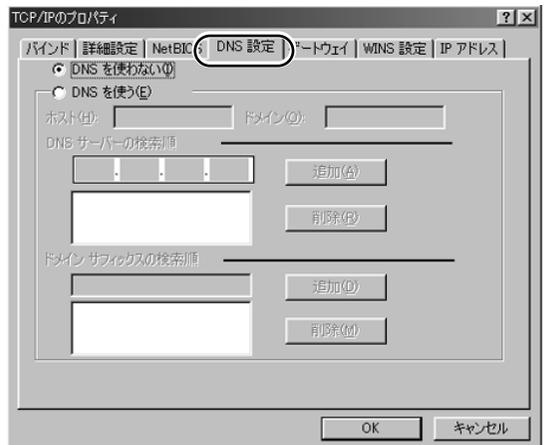
サブネットマスクは通常 255.255.255.0 と入力します。MN7530の Web設定画面にアクセスする場合は、MN7530のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。

7 **ゲートウェイ** タブをクリックする

右の画面を表示します。

8 **192.168.0.1**（MN7530の標準IPアドレス）を**「新しいゲートウェイ」**のアドレス欄に入力し、追加 をクリックする

9 **192.168.0.1** が**「インストールされているゲートウェイ」**のアドレス欄に入力されていることを確認する

MN7530のIPアドレスを変更する場合は、**「インストールされているゲートウェイ」**のアドレス欄にあるIPアドレスも変更してください。

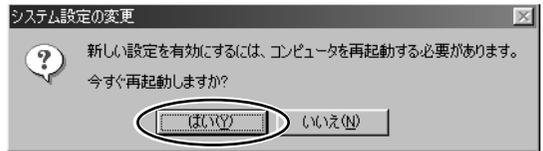
10 **DNS設定**タブをクリックする

11 **「DNSを使う」**を選ぶ

12 DNSサーバーアドレスを**「DNSサーバーの検索順」**のアドレス欄に入力し、追加 をクリックする

13 任意のホスト名を入力し、OK をクリックする

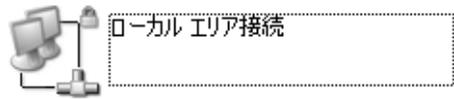
14 OK をクリックする

システム設定の変更 ダイアログボックスを表示します。

15 はい をクリックし、パソコンを再起動する

Windows XP/2000 の場合

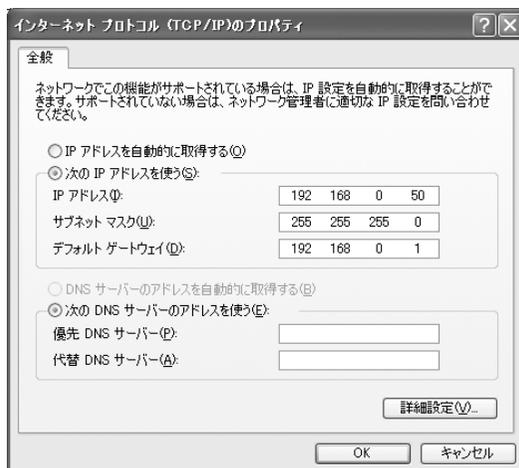
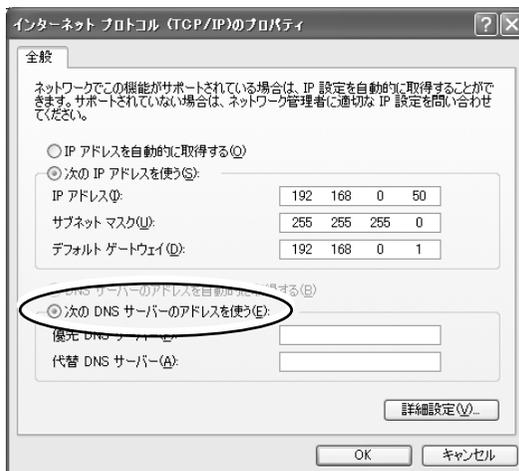
1 **「スタート」**メニューの**マイコンピュータ**から**マイネットワーク**を選び、**ネットワーク接続を表示する**を選ぶ

Windows 2000 の場合は、「**マイネットワーク」**アイコンをダブルクリックし、**「ネットワークとダイヤルアップ接続」**をクリックしてください。

2 MN7530 が接続されている**「ローカルエリア接続」**アイコンを右クリックし、 プロパティ を選ぶ

3 **「インターネットプロトコル(TCP/IP)」**を選び、 プロパティ をクリックする

4 **「次のIP アドレスを使う」**を選ぶ

5 各パソコンのIPアドレス（例：192.168.0.50）とサブネットマスクを入力し、**192.168.0.1**（MN7530の標準IPアドレス）を**「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に入力する

サブネットマスクは通常 255.255.255.0 と入力します。MN7530のWeb設定画面にアクセスする場合は、MN7530のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。

6 **「次のDNSサーバーのアドレスを使う」**をクリックする

7 DNSサーバーのアドレスを入力欄に入力し、 **OK** をクリックする

8 **閉じる** をクリックする

Windows 2000の場合は、 **OK** をクリックしてください。

9 **「ネットワーク接続」**のウィンドウを閉じ、パソコンを再起動する

Windows 2000の場合は、**「ネットワークとダイヤルアップ接続」**のウィンドウを閉じて、パソコンを再起動してください。

Windows NT 4.0 の場合

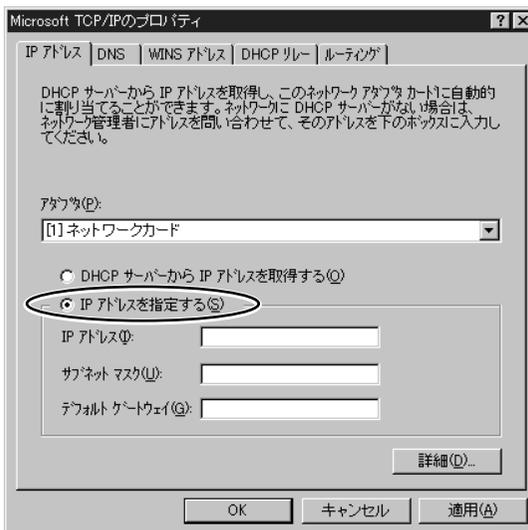
1 **[スタート]** ボタンをクリックし、**設定**を選び、**コントロールパネル**をクリックする

2 **「ネットワーク」**アイコンをダブルクリックする

3 **プロトコル**タブをクリックし、**「TCP/IP プロトコル」**を選び、 **プロパティ** をクリックする

TCP/IP のプロパティダイアログボックスを表示します。

4 **TCP/IPのプロパティ**ダイアログボックスで、**IP アドレス**タブをクリックする

5 **「IP アドレスを指定する」**を選ぶ

6 各パソコンのIPアドレス（例：192.168.0.50）とサブネットマスクを入力し、**192.168.0.1**（MN7530の標準IPアドレス）を**「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に入力する

サブネットマスクは通常 255.255.255.0 と入力します。MN7530のWeb設定画面にアクセスする場合は、MN7530のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。

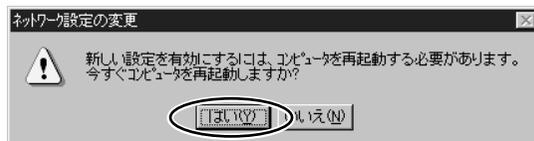
7 **DNS**タブをクリックする

8 追加 をクリックし、**「DNSサーバ：」**入力欄に入力し、追加 をクリックする

9 OK をクリックする

10 **ネットワーク**ダイアログボックスで、OK をクリックする

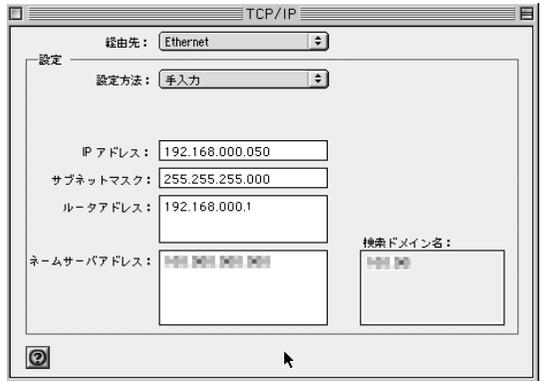
ネットワーク設定の変更ダイアログボックスを表示します。

11 はい をクリックし、パソコンを再起動する

Mac OS 8.1 ～ 9.2 の場合

次の手順は、Mac OS 9.2 を使った場合です。Mac OS のバージョンによっては、若干操作方法が異なる場合があります。

1 アップルメニューから**コントロールパネル**を選ぶ

2 **コントロールパネル**メニューから**TCP/IP**を選ぶ

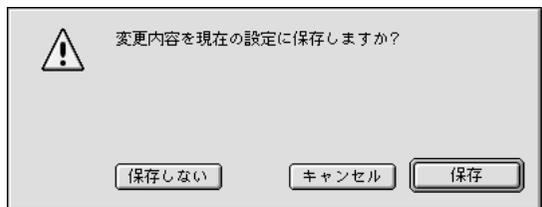
TCP/IPダイアログボックスを表示します。

3 **経由先**ポップアップメニューから**Ethernet**を選ぶ

4 **設定方法**ポップアップメニューから**手入力**を選ぶ

5 入力欄にIPアドレス、サブネットマスク、ルータアドレス、ネームサーバアドレスを入力する

- サブネットマスクは通常**255.255.255.0**と入力します。MN7530のWeb設定画面にアクセスする場合は、MN7530のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。
- ルータアドレスの入力欄に、**192.168.0.1**（MN7530の標準IPアドレス）を入力してください。
- MN7530の標準IPアドレスを変更する場合は、各パソコンのルータアドレスの入力欄のアドレスも変更しなければなりません。

6 クローズボタンをクリックする

右のダイアログボックスを表示します。

7 **保存** をクリックする

8 パソコンを再起動する

パソコンのIPアドレスを固定するには

その他

Mac OS X の場合

次の手順は、Mac OS 10.1 を使った場合です。Mac OS のバージョンによっては若干操作方法が異なる場合があります。

1 アップルメニューから**システム環境設定...**を選ぶ

システム環境設定画面が表示されます。

2 **「ネットワーク」**アイコンをクリックする

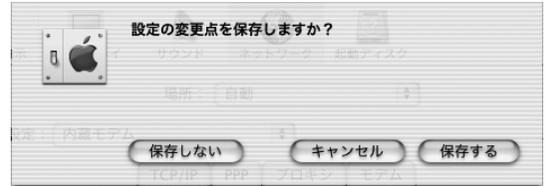
3 **表示**ポップアップメニューから**内蔵 Ethernet** を選ぶ

4 **TCP/IP** の**設定**ポップアップメニューから**手入力**を選ぶ

5 入力欄にIP アドレス、サブネットマスク、ルータアドレス、ネームサーバアドレスを入力する

- サブネットマスクは通常 **255.255.255.0** と入力します。MN7530 のWeb設定画面にアクセスする場合は、MN7530 のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。
- ルータアドレスの入力欄に、**192.168.0.1**（MN7530の標準 IPアドレス）を入力してください。
- MN7530 の標準IP アドレスを変更する場合は、各パソコンのルータアドレス入力欄のアドレスも変更しなければなりません。

6 クローズボタンをクリックする

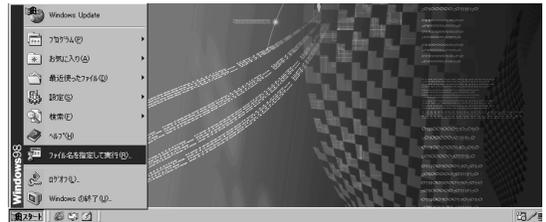
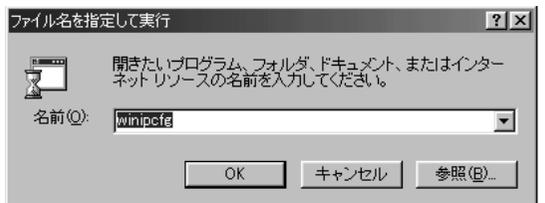
右のダイアログボックスを表示します。

7 保存する をクリックする

パソコンのIPアドレスやMACアドレスを確認するには

各パソコンからMN7530のWeb設定画面にアクセスできない、またはネットワーク上の他のパソコンと通信ができない、などの場合には、各パソコンのIPアドレスの設定に問題がある場合があります。そのような場合は、次の手順にしたがってIPアドレスの設定を確認してください。

Windows 95/98/Meの場合

次の手順は、Windows 98を使った場合です。

1 ［スタート］メニューから**ファイル名を指定して実行**を選ぶ

2 **名前**欄に **winipcfg** と入力し、 OK をクリックする

3 IPアドレスを確認したいネットワークアダプタを選ぶ

4 詳細 をクリックする

IPアドレス欄を見て、設定されているIPアドレスを確認してください。
アダプタアドレス欄を見て、ネットワークカードのMACアドレスを確認してください。

「IP アドレスを自動的に取得」（☞ 32 ページ）を設定していて、「169.254.XXX.X」などの値が表示された場合は、IP アドレスが正しく取得できていない可能性があります。そのような時は、次の手順にしたがって、IP アドレスを更新してください。

1 解放 をクリックする

自動取得していたIP アドレスが解放されます。

2 書き換え をクリックする

新しいIPアドレスが割り当てられます。

3 OK をクリックする

Windows XP/2000/NT 4.0 の場合

1 **[スタート]** メニューから **すべてのプログラム**を選び、**アクセサリ**を選び、**コマンドプロンプト**を選ぶ

Windows 2000 の場合は、**[スタート]** メニューから**プログラム**を選び、**アクセサリ**を選び、**コマンドプロンプト**を選んでください。
Windows NT 4.0の場合は、**[スタート]** メニューから**プログラム**を選び、**コマンドプロンプト**を選んでください。

2 **コマンドプロンプト**の後に**ipconfig /all**と入力する

ipconfig /renew[アダプタ名]について
DHCP構成パラメータを更新します。このオプションはDHCP クライアントのパソコンでのみ使用できます。アダプタ名を指定するには、パラメータなしでipconfig を使った時に表示されるアダプタ名を入力します。なお、パソコンのネットワークカードが１枚の場合は省略します。

ipconfig /release[アダプタ名]について
現在のDHCP 構成を解除し、パソコンのIP アドレスを無効にします。このオプションはDHCPクライアントのパソコンでのみ使用できます。アダプタ名を指定するには、パラメータなしでipconfig を使った時に表示されるアダプタ名を入力します。なお、パソコンのネットワークカードが１枚の場合は省略します。

ipconfig コマンドの使いかたは、コマンドプロンプトの後にipconfig / ? と入力すると表示されます。

接続の確認

問　題	原因と対処のしかた
MN7530 の POWER インジケーターが消えている	● MN7530 の電源が入っているか確認してください。
MN7530 の POWER インジケーターが赤くなっている	● MN7530 のハードウェアに障害があります。MN7530 の RESET ボタンを押してください（☞ 112 ページ）。技術サポートセンターにご連絡ください（☞ 136 ページ）。
MN7530 を ADSL 回線や光ケーブル等に接続しているが、ADSL/WAN インジケーターが消えている	● MN7530を ADSL回線に接続している場合は、MN7530 と電話コンセントの接続を確認してください。また、ADSL/WAN 切替スイッチが ADSL 側にセットされているか確認してください。 ● MN7530 を光ケーブルや CATV 回線に接続している場合は、MN7530 と光ケーブルの回線終端装置や CATV のモデムとの接続を確認してください。また、ADSL/WAN 切替スイッチが WAN 側にセットされているか確認してください。
MN7530 を Ethernet に接続しているが、LAN1 ～ 4 インジケーターが消えている	● MN7530 とパソコン等の接続を確認してください。 ● MN7530 やパソコン等の電源が入っているか確認してください。 ● Ethernet アダプターとドライバーがパソコンにインストールされているか確認してください。

MN7530 の Web 設定画面の表示について

問　　題	原因と対処のしかた
ユーザー名・ID とパスワードのダイアログボックスが表示されない	● ホームネットワークの使用状態により、ダイアログボックスがすぐに表示されない場合があります。しばらくお待ちください。 ● MN7530 のLAN1～4インジケーターや WIRELESS インジケーターが緑色に点灯しているか、確認してください。または、Ethernet カードや無線 LAN カードのインジケーターが点灯しているか、確認してください。インジケーターが消えていたら、ホームネットワークの接続を確認してください。 ● パソコン、MN7530、ホームネットワーク上の機器の電源を適切な順番で入れたか確認してください。詳細は、29 ページの「電源を入れる」を参照してください。 ● Windows パソコンの場合は、Ping コマンドを使って、パソコンと MN7530 との接続を確認してください。Ping の応答が返ってこない場合は、ホームネットワークの接続を確認してください。 ● MN7530 からホームネットワーク内のパソコンにIPアドレスが割り当てられているか確認してください（☞130 ページ）。割り当てられていない場合は、パソコンが「IP アドレスを自動的に取得」（Windows パソコンの場合）または「DHCP サーバを参照」（Macintosh の場合）と設定されていることを確認のうえ、再起動してください。 ● MN7530 の IP アドレスを変更した時は（☞ 95 ページ）、WWW ブラウザのアドレスバーに MN7530 の IP アドレスを入力してください。 ● MN7530のWeb設定画面にアクセスするには、WWWブラウザの設定が必要になる場合があります。113 ページを参照のうえ、設定を確認してください。 ● MN7530のWeb設定画面にJavaScriptを使用しています。WWWブラウザの設定で JavaScript が無効になっている場合は、JavaScript を有効にしてから Web 設定画面にアクセスしてください。
パスワードを入力したが MN7530 の Web 設定画面が表示しない	● ユーザー名・ID 入力欄に admin を再度入力してください。 パスワードには何も入力しないでください。
無線 LAN 端末に接続できない	● パソコンに無線 LAN カードが正しく差し込まれていない可能性があります。カードをもう一度、奥までしっかりと差し込んでください。 ● パソコンの無線 LAN カードの設定を、 通信モード：Infrastructure（インフラストラクチャ） SSID（ESSID）：MN7530 暗号化：なし に設定してください。 ● パソコンや MN7530 が、電波の届かない場所にあるか、コンクリートの壁などの障害がある可能性があります。パソコンを MN7530 の近くに設置してください。

インターネット WWW サイトの表示について

問　　題	原因と対処のしかた
インターネットの WWW(World Wide Web) サイトが表示されない	● WWWサイトのアドレスがWWW ブラウザのアド レスバーに正しく入力されているか、確認してください。 ● ADSL 回線に接続している場合は、電話回線に接続されているか確認してください。それ以外の回線ではモデム等に接続されているか確認してください。また、MN7530 とホームネットワークの接続を確認してください。 ● ADSL 回線に接続している場合は、ADSL/WAN インジケーターの点灯状態を確認してください。点滅が長く続く場合は、電話回線への接続を確認の上、「ADSL モデムの設定をする」(☞ 44 ページ）を参照し、MN7530 の設定を確認してください。 ● プロバイダから受け取ったインターネットの接続に関する情報を確認してください。設定値を入力する必要があれば、「インターネット接続の設定をする」(☞ 44、60 ページ）を参照し、MN7530 を設定してください。 ● MN7530 のステータス画面（☞ 108 ページ）を確認してください。ステータス画面を見ると、MN7530 にプロバイダから正しく IP アドレスが割り当てられているかがわかります。もし、割り当てられていなかったら、基本設定画面で設定し直してください。 ● プロバイダから指示されている場合は、WWW ブラウザでプロキシサーバーの設定をしてください。 ● PPPoE 接続や PPPoA 接続でインターネットに接続している時に MN7530 の電源を切ると、インターネットに接続するのに 5 ～ 20 分かかる場合があります。しばらくお待ちください。 ● プロバイダから提供されているIP アドレスがプライベートIP アドレスの可能性があります。フィルタリング設定でエントリ番号の 53 番～ 58 番を削除してください。(☞ 92、93 ページ）

その他

問　　題	原因と対処のしかた
「IP アドレス XXX.XXX.XXX.XXX は、ハードウェアのアドレスが XX:XX:XX:XX:XX:XX に設定してあるシステムと競合していることが、検出されました。」または「ネットワーク上の別のシステムと競合する IP アドレスを検出しました。ローカルインターフェイスは無効です。詳細については、システムイベントログを参照してください。この問題を解決するには、ネットワーク管理者に相談してください。」と表示される	● MN7530 とすべてのパソコンの電源を切ってください。その後、MN7530 の電源を入れ、パソコンの電源を入れてください。 ● 家庭内の全てのパソコンが「IP アドレスを自動的に取得」（Windows パソコンの場合）または「DHCP サーバを参照」（Macintosh の場合）に設定されていることを確認してください。 MN7530 の DHCP サーバ機能をお使いください。 ● MN7530のDHCPサーバ機能が働いている際に使うアドレスの値と、ネットワーク内にある特定の機器のアドレスの値が同じでないか、確認してください。
MN7530 の設定を変更した後、「ホストコンピューターが見つかりません」と表示される	● パソコンを再起動した後、再度 MN7530 の Web 設定画面にアクセスしてください。
MN7530 のホームネットワーク内での IP アドレスを忘れてしまった	●「ゲートウェイ」（Windows パソコンの場合）（☞ 32、35、38 ページ）または「ルータアドレス」（Macintosh の場合）（☞ 39 ページ）のアドレスを確認してください。もし、値が表示されたら、それが MN7530 のホームネットワーク側の IP アドレスになります。
MN7530 の Web 設定画面にアクセスするのにパスワードを忘れてしまった	● CLEAR SETTING ボタンを押して、MN7530 の初期化をおこなってください（☞ 112 ページ）。MN7530 の設定内容が工場出荷時の状態に戻ります。その後、ホームネットワーク内のパソコンを再起動し、MN7530 を再度設定し直してください。
Microsoft® NetMeeting® conferencing software が動かない	● NetMeeting conferencing software は、ルータのアドレス変換機能が働くと動かなくなります。MN7530 のモデムブリッジ機能を使ってパソコンをインターネットに接続すると使えます。
MN7530Web 設定画面で 再起動 をクリックしたが、ホームページが表示されない	● **[再起動]** の Web 設定画面で IP アドレス（例：http://192.168.0.1）を入力してください。

お問い合わせ先

■メンテナンスサービスについて

- 本製品に含まれるソフトウェアが保存されている媒体に不具合があった場合、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて新品と交換いたします。なお、不具合品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。
- 本製品に含まれるハードウェアが購入後１年間に通常のご使用において故障した場合、これを保証します。故障品に保証書を添えて、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて修理いたします。なお、修理品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。
- 保証期間でも次のような場合には、有償修理になります。

（1）保証書のご提示がない場合

（2）保証書に機器の製造番号、ご購入日、販売店名の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合

（3）接続しているほかの機器に起因して生じた故障、または不当な修理や改造、調整をされた場合

（4）使用上の誤り、または故意・他意に関わらず、ほかの要因による損傷および故障の場合

（5）火災、地震、風水害、落雷、そのほかの天災地変、公害や異常電圧による損傷および故障の場合

（6）購入後の輸送、移動時の落下など、お取り扱いが不適当なため生じた損傷および故障の場合

（7）購入後の取り付け場所の移動、落下などにより生じた損傷および故障の場合

■お問い合わせ先

本製品について技術的なご質問、または製品のアップグレードに関するご質問は、お買い上げの販売代理店、小売店、または技術サポートセンターまでお問い合わせください。

技術サポートセンター
Tel. 0570-055128
Tel. 03-5675-7956（携帯電話・PHS用）
Fax. 0570-056128
※祝祭日を除く、月～金曜日 9:30～17:30 の間、受け付けております。

■ホームページのご案内

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーのホームページで、製品のサポート情報、最新のファームウェアなどを提供していますので、ご活用ください。

MN7530 ホームページ
● 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー「MN Information」:
http://www.ntt-me.co.jp/mn

MN7530　お問い合わせ用紙

トラブルなどが発生した場合は、このページをコピーして必要事項をご記入の上、136ページの技術サポートセンターまでFAXしてください。

※電子メールによるお問い合わせは受け付けておりません。ご了承ください。

ふりがな **氏名**	**電話番号** **FAX番号**
連絡先 〒	
製品お買い上げ日　　　年　　月　　日	**ファームウェアバージョン　Ver.**
製造番号（※本体裏面に記載されています。）	
（1）ご契約のサービスは何ですか。 [　**ADSL・CATV・光ケーブル**　]	
（2）トラブルが発生したのはどのポートですか。 [　**LANポート関連・無線LAN関連・WANポート関連・その他（　　　　）**]	
（3）本製品に接続してご使用のパソコンについて教えてください。 **使用台数**　[　　　**台**] **メーカ名**　[　　　] **機種名**　[　　　] **OS**　[　**DOS・Windows（95 / 98 / Me / NT / 2000 / XP）・MacOS（　　　）**]	
（4）通信を行っている場合、接続相手先について教えてください。 **接続先**　[　**プロバイダ（名称：　　　　）・その他（　　　　）**] **ADSL事業者**　[　**フレッツ・ADSL／イー・アクセス／J-DSL／その他（　　　　）**]	
（5）発生している症状を詳しく教えてください。	

※エラーが出ている場合はエラー番号、メッセージも記入してください。

仕様

【本体】

ADSL インタフェース	ポート数：	1 ポート
	コネクタ形状：	6 ピンモジュラージャック（RJ-11）
	準拠規格：	ITU-T G.992.1(G.dmt) Annex C 準拠 ITU-T G.992.2(G.lite) Annex C 準拠
	カプセル化：	LLC、VC マルチプレクス
	伝送速度	
	ITU-T G.992.1(G.dmt) Annex C：	下り：最大 8Mbps ／上り：最大 1Mbps
	ITU-T G.992.2(G.lite) Annex C：	下り：最大 1.5Mbps ／上り：最大 512kbps
	コントローラチップ	Centillium 製
WAN インタフェース	ポート数：	1 ポート
	コネクタ形状：	8 ピンモジュラージャック（RJ-45）
	物理インタフェース：	IEEE802.3(10Base-T)、 IEEE802.3u(100Base-TX)
	通信速度：	10/100Mbps（自動設定）
	全二重／半二重：	全二重／半二重（自動判別）
	MDI/MDI-X：	自動検知
LAN インタフェース	ポート数：	4 ポート
	コネクタ形状：	8 ピンモジュラージャック（RJ-45）
	物理インタフェース：	IEEE802.3(10Base-T)、 IEEE802.3u(100Base-TX)
	通信速度：	10/100Mbps
	全二重／半二重：	全二重／半二重（自動判別）
	MDI/MDI-X：	自動検知
無線インタフェース	アンテナ：	ダイバーシティ
	チャネル数：	14CH
	通信速度：	11/5.5/2/1Mbps (IEEE802.11b 準拠)

		屋内（見通し）	屋外（見通し）
最大通信速度	11Mbps	65m	160m
	5.5Mbps	85m	250m
	2Mbps	110m	400m
	1Mbps	130m	550m

※左記数値は、MN SS-LAN CARD 11HQとの通信時の目安です。
※無線電送距離及び速度は、設置環境や障害物の有無に影響されます。

ユーザインタフェース	ADSL/WAN ポート切替スイッチ：	ADSL/WAN ポート使用切替用
	CLEAR SETTING ボタン：	工場出荷時設定用
	RESET ボタン：	再起動用
	状態表示ランプ	
	POWER：	通電／本体状態表示
	ADSL/WAN：	ADSL/WAN リンク状態表示
	PPP：	PPP コネクション状態を表示
	LAN1 ～4：	Ethernet リンク状態を表示
	WIRELESS：	無線リンク状態を表示

【本体】

動作環境	動作温度： 5 ℃～ 40 ℃ 動作湿度： 45 %～ 85 %（結露しないこと） 電源電圧： DC 12 V（専用 AC アダプター使用） 消費電力： 約 AC 18W 以下
外形寸法 （幅 × 奥行き × 高さ）	約 92(W) × 169(D) × 202(H) mm （アンテナは収納した状態でバックカバーやスタンドも含む）
質　　量	約 675 g（バックカバーとスタンドを含む）
電波障害防止	VCCI クラス B

【AC アダプター】

電源電圧	AC 100 V　50/60 Hz
定格出力	DC 12 V　1A
消費電力	約 10 W 以下 （AC アダプターのみ電源コンセントに差し込んだとき）

【ソフトウェア】

ルータ機能	**プロトコル**	PPPoE、PPPoA、IPoA
	PPP 認証	自動認識 / PAP / CHAP
	PPP 接続／切断	手動接続／自動接続（常時、通信開始時）／ 不使用時の切断
	LAN 型接続	あり
	モデムブリッジ	あり
	RIP	あり（RIPv1 / v2）
	DHCP サーバ	あり（128 設定、スタティック可）
	DNS リレー（DNS 代理応答）	あり
	IP パケットフィルタリング	あり（64 設定）
	IP マスカレード	静的／動的
	アドレス変換方式	静的アドレス変換機能
無線機能	**セキュリティ**	WEP 40(64)/128bit ／ SSID ／無線端末限定機能 （MAC アドレス登録方式）
アクセス制限		ID/Password
WWW ブラウザ設定		あり
ファームウェアバージョンアップ		あり
設定バックアップ		あり

MN7530の標準設定一覧

モデム設定

・ADSLモード基本設定	G.dmt（8Mbpsレート）優先
・ATM仮想伝送経路の設定	
VPI	0
VCI	32
・ATMカプセル化方式の設定	LLC方式

基本設定

・インターネット接続方法	
ADSL LINE接続時：	PPPoE接続（端末型）
WAN接続時：	DHCP接続
各設定項目	設定されていません

無線設定

・基本	
SSID	MN7530
セキュリティ	禁止（SSID空白クライアントの接続を禁止）
通信チャネル	1
・暗号化設定	無効

アドレス変換

・アドレス変換	使用する
・端末型	
静的IPマスカレード	設定されていません
・LAN型	
静的NAT	設定されていません
静的IPマスカレード	設定されていません
IPマスカレード	設定されていません

フィルタリング設定

（☞ 142ページ）

オプション設定

項目	設定値
・IP アドレス（ホーム側）設定 IP アドレス ネットマスク	 192.168.0.1 255.255.255.0
・DHCP 設定 DHCP サーバ 利用可能なアドレス範囲	 使用する 192.168.0.2 － 192.168.0.33
・DHCP スタティック設定	設定されていません
・PPP 設定 接続形態 不使用時の切断	 常時接続 切断しない
・DNS リレー設定	使用する
・MTU サイズ	MTU 1500 バイト
・RIP 設定 ホーム側 インターネット側	 送信しない 送信しない

ネットワークパスワード

項目	設定値
・ユーザー名	admin
・パスワード	なし

フィルタリング設定

No	タイプ	方向	送信元		宛先		プロトコル	ログ出力
			IP アドレス	ポート	IP アドレス	ポート		
1	禁止	W->L	*	*	MN7530	80	TCP	する
53	禁止	W->L	10.0.0.0-10.255.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
54	禁止	W->L	172.16.0.0-172.31.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
55	禁止	W->L	192.168.0.0-192.168.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
56	禁止	L->W	*	*	10.0.0.0-10.255.255.255	*	TCP&UDP	する
57	禁止	L->W	*	*	172.16.0.0-172.31.255.255	*	TCP&UDP	する
58	禁止	L->W	*	*	192.168.0.0-192.168.255.255	*	TCP&UDP	する
59	禁止	W->L	*	*	MN7530	*	TCPEST	する
60	禁止	W->L	*	*	*	*	TCPEST	する
61	禁止	W->L	*	*	*	137-139	TCP&UDP	する
62	禁止	W->L	*	137-139	*	*	TCP&UDP	する
63	禁止	L->W	*	*	*	137-139	TCP&UDP	する
64	禁止	L->W	*	137-139	*	*	TCP&UDP	する

数字

10Base-T
ネットワーク規格の一種で、電話線コードで使っているようなより対線（Twisted Pair Cable）を使い、ハブにたこ足状に配線してネットワークを構築します。10Base-Tの10は転送速度が10Mbpsということを表しています。

100Base-TX
10Base-Tのケーブルをそっくりそのまま使いながら、転送能力を10倍の100Mbpsにしたものです。ケーブルにカテゴリー5と呼ばれるケーブルを使っておけば、10Base-Tから100Base-TXへは機材を取替えるだけで移行できます。

英字

ATMカプセル化
ATMは（Asynchronous Transfer Mode）の略で、セルと呼ばれる固定長のフレームを転送する通信方式で、非同期転送モードと訳されています。電話網やISDN網など、一般的な回線交換で採用されている同期転送モードと異なり、ATMでは転送するデータがあるときだけセルを送信するので、「非同期」と言われています。
通常ADSL回線の接続にはATMが採用されており、ATMカプセル化とは、信号をATMで通信できるようにすることを言います。

Annex C
公衆電話網用のADSL規格を日本向けに対応した仕様です。ISDNからのノイズの問題を解決するための追加の仕様が含まれています。

CATV
Cable Televisionの略で、ケーブルテレビのことを言います。
最近では、このケーブルテレビの回線を使ってインターネットに接続するサービスを提供する会社が増えてきています。

CHAP
PPP接続時に、ユーザー名とパスワードを暗号化して認証をおこなう方法です。

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)
各パソコンがネットワークを利用するのに必要な情報をサーバから自動的に取得するプロトコルです。DHCPサーバは、IPネットワークに関連した情報（IPアドレスの割り当て範囲やデフォルトゲートウェイ等）を保持しており、DHCPクライアントから要求がくると、それらの情報を割り当てます。

DNS (Domain Name System)
ネットワーク環境で実際使用されるIPアドレスは、憶えにくく実用的ではありません。その解決法としてパソコンにわかりやすい名前（ドメイン名）を付けて、IPアドレスに変換して通信がおこなわれます。
ドメイン名では、例えば“ntt-me.co.jp”などがあります。

Ethernet
Xerox社などによって開発されたLAN通信方式です。

G. 992.1(G.dmt)	1999年6月に国際電気通信連合（ITU-TS）によって「G.992.1」として標準化されたADSLの技術仕様です。 通信速度は、下り方向で最大8Mbpsで、上り方向で最大640kbpsです。音声信号とADSL信号を分離するスプリッタが必要になるため、配線工事が煩雑になります。
G. 992.2(G.lite)	1999年6月に国際電気通信連合（ITU-TS）によって「G.992.2」として標準化された簡易型ADSLの技術仕様です。 通信速度を、下り方向で最大1.5Mbps、上り方向で最大512kbpsに制限することで、スプリッタなしで通信できます。
IEEE802.11b	IEEE（米国電気電子学会）の無線LANの規格。802.11は赤外線も含む無線ネットワーク全般に関する規格であり、その中の802.11bは2.4GHz帯を使用する最高11Mbpsのネットワーク規格を定めています。この規格の作成には、米国だけでなく日本やヨーロッパからも参加しています。
IPoA	ADSLを使ってインターネットに接続する時に使われる、技術的な約束事のひとつです。IP over ATMの略です。ATMは、非同期転送モードという通信方法で、データを一定の長さに区切ることで効率良く送ることができます。つまり、ATMという通信方式の上でインターネットの通信をおこないます。
IP アドレス	インターネット上のすべてのネットワークインタフェースは、IP アドレスによって識別されます。そのため TCP/IP を使用して通信を行うネットワークインタフェースには、固有の IP アドレスが必要です。
IP マスカレード	NATによるIP アドレスの変換だけでなく、TCP/UDPのポート番号も識別することで、1つのグローバルIP アドレスを利用して、複数のパソコンが外部と通信できるようにする機能です。
LAN (Local Area Network)	フロアの中や同一建物内、キャンパスの中など、比較的狭い地域でのコンピューターネットワークのことです。
Mac TCP	Macintoshで使用されるTCP/IPユーティリティーで、設定はコントロールパネルでおこないます。
MAC (Media Access Control) アドレス	ネットワークカードに固有の物理アドレスのコードです。各ネットワークカード毎に違うコードが割り当てられています。
MPU（Maximum Transfer Unit)	PPP特有のパラメータでそのデバイスで扱える最大データ転送長のことをいいます。

MRU（Maximum Receive Unit）	PPP特有のパラメータで、受信できる最大データ長（HDLCフレームの1フィールドからPPPヘッダを除いた部分のこと。MTUと一致していなくても良い。）
PAP	PPP接続時に、ユーザー名とパスワードをそのままで認証する方法です。
PPP (Point to Point Protocol)	公衆回線などを経由して 2 台のパソコンを接続するために開発されたプロトコルです。
PPPoA	PPP over ATMの略で、ATMネットワーク上でユーザー名、パスワードでの認証機能や圧縮機能をサポートするだけでなく複数のプロトコルを同時にサポートできます。
PPPoE	PPP over Ethernet の略で、Ethernet 上でユーザー名、パスワードでの認証機能や圧縮機能をサポートするだけでなく複数のプロトコルを同時にサポートできます。ただし、PPPoE をご利用いただくためには、別途PPPoE対応のルータかPPPoEクライアントソフトが必要になります。
PPTP (Point to Point Tunneling Protocol)	Internet上でVPNを実現するためのプロトコルの1つです。PPTPではPPPをベースに、データの暗号化や認証、リンクの確立などの機能を持たせています。現在はWindows NT 4.0やWindows 2000に実装されています。
TCP/IP (Transmission Control Protocol/ Internet Protocol)	米国防総省の資金援助によるネットワークプロジェクトで開発されたネットワークプロトコルです。インターネットの標準プロトコルであり、現在最も普及しているプロトコルです。ネットワーク層プロトコルはIP で、トランスポート層プロトコルはTCP（Transmission Control Protocol）とUDP（User Datagram）の2つです。FTP、SMTPなどのアプリケーションは、TCP/IPが利用されています。
URL (Uniform Resource Locator)	インターネット上のリソースを指定する方式です。 具体的例としては、インターネット上の Web サイトにアクセスする際に使用する「http://www.ntt-me.co.jp/」のことです。
VCI	ATMの仮想チャネルを識別するための番号です。これが適切に設定されていないとADSL回線の接続ができません。
VPI	ATMの仮想パスを識別するための番号です。これが適切に設定されていないとADSL回線の接続ができません。

**VPN
(Virtual Private Network)**

Internetでデータ通信をおこなうと、通常はデータの暗号化やユーザー認証などはおこなわれていないため、その内容は第三者に盗聴されたり改ざんされたりする恐れがあります。そこで、Internetにデータを送信する前にデータを暗号化して送ったりすれば、セキュリティを確保することができます。この暗号化をユーザーから透過的におこない、かつユーザー認証によってある特定のユーザーだけしかアクセスできないようにしておけば、公衆回線網を使っても、専用線接続と同じようなセキュリティを保つことができます。これをVPN（私設仮想回線）といいます。

**WWW サーバ
(World Wide Web)**

画像、動画、音声などをハイパーテキスト形式で蓄積し、情報を提供するファイルサーバです。
ハイパーテキスト型情報では、情報内のテキスト文字列（ワード）が別の情報であるテキストやファイル、画像、動画、音声などにリンクしているので、それぞれのワードをマウスでクリックすると、より詳しいあるいはそれに関する別の情報を抽出することができます。

**WWW ブラウザ
(World Wide Web)**

WWW サーバにアクセスするためのクライアント・プログラムです。
Microsoft 社のInternet Explorer や Netscape Communications 社の Netscape Navigator などがあります。

あ

アクセスポイント

インターネット・サービス・プロバイダやパソコン通信に電話回線で接続する際に、接続できるサーバのある場所や電話番号のこと

インターネット

地球規模でマルチメディア通信ができるネットワークです。
インターネットサービスプロバイダがインターネットへの接続サービスをおこなっています。

エラー訂正

コンピューターによる情報処理において、自動的にデータの誤りを訂正するしくみ、または訂正することをいいます。

か

クロスケーブル

Ethernetハブ等を介さず直接パソコン同士を一対一で接続することができるように作られたEthernet ケーブルの種類です。

ゲートウェイ

ゲートウェイは、ルーティング情報を交換しネットワークを管理しているコンピューター（ルータなど）でネットワークの IP パケットの道先案内をします。
ローカルネットワーク以外への通信は、デフォルトゲートウェイを介しておこなわれます。

た

ダウンロード
遠隔地にある装置側からネットワークを使用しデータを自分側に持ってきて保存する作業をいいます。

ドメイン
インターネットやイントラネットのネットワークで、サーバを中心としたネットワークを構成するまとまりを表します。

な

ネットマスク
IP アドレスは、ネットワークID とホストID によって構成されます。そのネットワークID とホストID とを区別するために、ネットマスクがネットワークID の長さを判定する役目をします。

ネットワーク
情報交換のためにコンピューターなどの各種装置、機器などがケーブルや公衆回線、無線などを介して接続されていることです。

ノード
ネットワークに接続されているコンピュータやハブなどの機器のことです。

は

ハブ
10/100Base-T ネットワークで用いられる集線装置です。
8 ポートや 4 ポートなど、ポート数は様々です。

パスワード
ファイルやネットワークを利用する際に鍵の役目をする合言葉（文字や数字）です。
ネットワークのセキュリティ上、ユーザー識別のためにあらかじめ言葉を登録します。登録されている言葉と一致しない場合は、ファイルやネットワークを利用することはできません。

パケットフィルタリング (Packet Filtering)
ファイアウォールの一種で、パケットフィルタ機能を用いて、ネットワークパケットを選択的に IP フォワードする方式のことです。適切に設定すると、不要なパケットが外部に転送されるのを防ぎます。

ファームウェア
本機を動作させるプログラムです。本機ではフラッシュメモリの中に格納されています。

ファイアーウォール
インターネットを利用する際のセキュリティのひとつ。
インターネットからホームネットワークへの不法な侵入を防ぐ目的で、インターネットとやり取りできるパソコンを制限したり、ホームネットワークから利用できるインターネットサービスを制限したりします。

プライベートIPアドレスとサブネットマスクの設定値について

インターネットでは絶対に使われないネットワークIDを「プライベートIPアドレス」と呼び、下の表のようにクラスA, クラスB, クラスCの3段階に分かれています。ホームネットワークの規模に応じてクラスを選び（例えば、20台位までのパソコンが接続されたネットワークであればクラスCを選ぶ)、そのクラスのIPアドレスの範囲の中でIPアドレスを設定してください。

クラス	サブネットマスク	プライベートIPアドレス (この範囲のアドレスは組織内で自由に設定できる)
クラス A	255.　0.　0.　0	10　.　0.　0.　1～10　.255.255.254
クラス B	255.255.　0.　0	172.　16.　0.　1～172.031.255.254
クラス C	255.255.255.　0	192.168.　0.　1～192.168.255.254

ブリッジ

ネットワーク内で送信されるパケットをデータリンク層で中継する機器のことをいいます。ブリッジはネットワーク内の各ケーブル上のフレームを調べて、送信元アドレスと送信先アドレスが同じケーブル上にあれば何もせず、異なるケーブル上にある場合はフレームの中継や転送をおこないます。

プロキシサーバー

プロキシサーバーは、コンピューターとインターネット間のセキュリティを強化したり、キャッシングによって不必要なトラフィックを減らすことで、ネットワーク間のパフォーマンスを向上させるために使用されるサーバーです。